

上三川町第7次総合計画後期基本計画  
まちづくりアンケート調査結果

令和2年2月

# I 調査の概要及び回答者の属性

## 1 調査の概要

### 1) 調査目的

本調査については、将来の町のあり方やこれまで進めてきた施策の成果、あるいは今後の事業の取組について、町民の方達の意識の実態を把握し、第7次総合計画後期基本計画等の検討・策定の際の基礎的資料として活用する。

### 2) 調査対象及び調査方法

- (1) 調査対象 上三川町内に居住する15歳以上の男女
- (2) 調査票配布数 2,000
- (3) 抽出法 無作為抽出
- (4) 調査方法 ①調査票への回答記入後に郵送  
②電子調査票への回答入力後に送信  
(IPアドレス・QRコードを設定しパソコン・スマートフォンによる個人での調査票の読込・入力等を依頼)
- (5) 調査時期 令和1年8月

### 3) 配布数及び回収結果

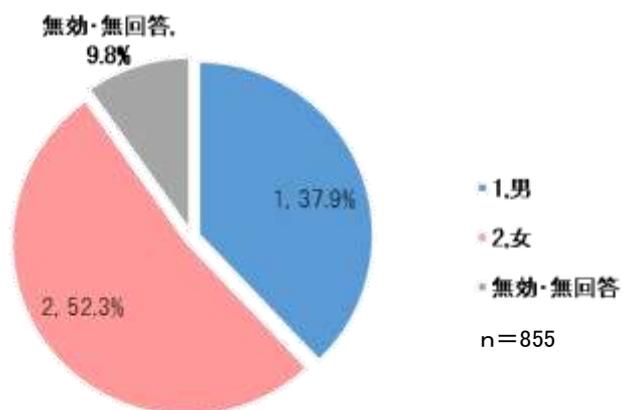
配布数	2,000件		
有効回収数	調査票への回答	電子調査票への回答	合計
	703件	152件	855件
有効回収率	35.2%	7.6%	42.8%

#### 4) 集計・分析等に関する留意点

- ①比率は百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示した。四捨五入したため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③回答が2つ以上ある場合は表内の構成比の合計が100%を超え、無回答分の構成比を含めば、回答が2つの場合は200%、3つの場合は300%となるよう表示している。その場合、構成比の読み方は、1人が同じ答えを複数回挙げることは考えられないため、例えば、回答者比率が30%とある場合は、構成比の合計が100%の時と同様、全体の30%の人がその答えを挙げたと読むことができる。
- ④回答設定数を上回って回答した場合には無効としている。
- ⑤問の中には「～に〇印をつけた方にうかがいます。」などの様々な制限があり、回答者の数が少ない問が含まれる。クロス分析においても項目によっては回答者が少なく、有意性が低い場合がある。
- ⑥平成26年10月実施の「上三川町まちづくりアンケート調査」と同じ設問については、まちづくりに対する町民意識の変化を読み取るため、今回調査結果との比較を行っている。

## 2 回答者の属性

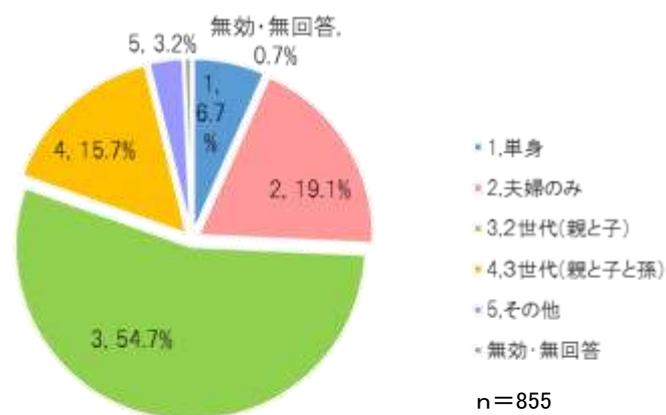
### 1) 性別【単数回答】



### 2) 年齢【単数回答】



### 3) 家族構成【単数回答】



4) お勤め状況【単数回答】



5) 職業【単数回答】

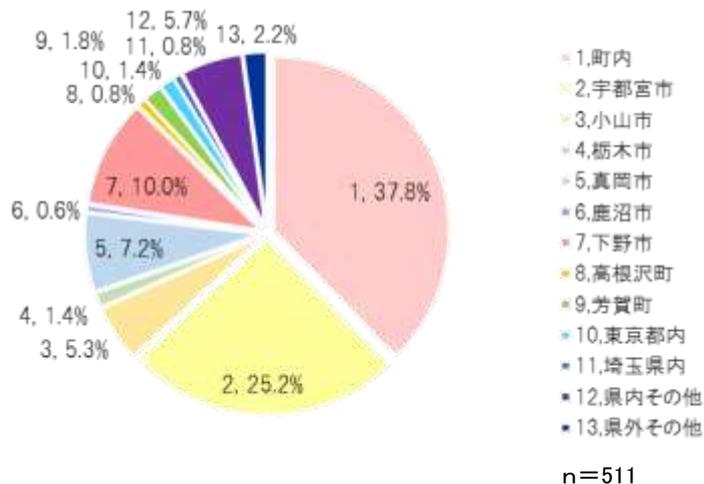


— 『その他』意見の趣旨— ※ ( ) 内の数値は意見数

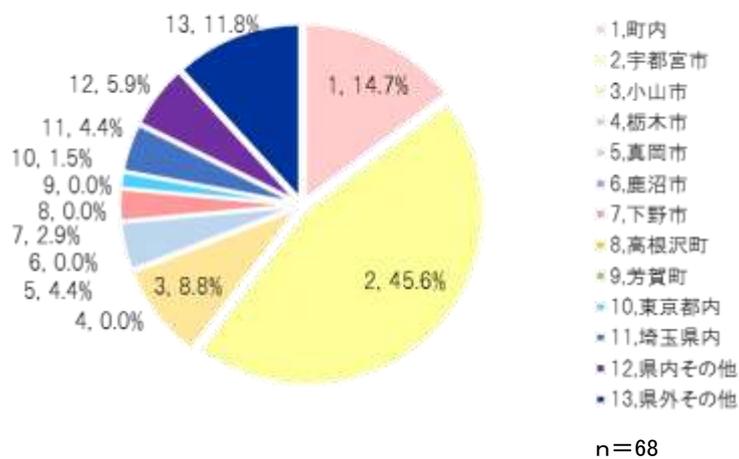
- ・ 物流 (3)      ・ 農業 (2)      ・ 事務職 (2)      ・ 花屋      ・ 賃貸業
- ・ 広告業      ・ 和裁      ・ 下水道浄化センター      ・ 美容業      ・ 車両塗装
- ・ 内装      ・ パート

6) 通勤先・通学先【単数回答】

—通勤先—



—通学先—



—通勤先・通学先『県内その他』— ※ ( ) 内の数値は意見数

- ・ 壬生町 ( 1 5 )      ・ 市貝町 ( 3 )      ・ 佐野市 ( 2 )      ・ 足利市 ( 2 )
- ・ 大田原市 ( 2 )      ・ 野木町      ・ さくら市      ・ 色々

—通勤先・通学先『県外その他』— ※ ( ) 内の数値は意見数

- ・ 茨城県 ( 5 )      ・ 東京都 ( 3 )      ・ 神奈川県 ( 2 )      ・ 福島県
- ・ 山形県      ・ 北海道      ・ 石川県      ・ 三重県

### 7) 居住歴【単数回答】



### 8) 居住地域【単数回答】



## Ⅱ 調査結果

### 1 幸福度や町に対する愛着などについて

#### 1) 自身の幸福度【問2：単数回答】

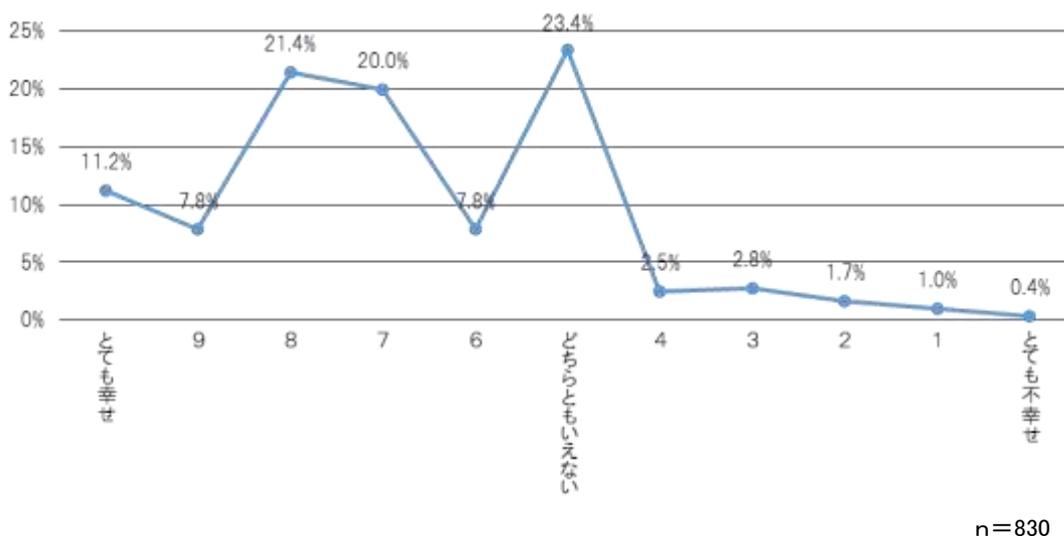
- “どちらともいえない”が23.4%で最多、幸福感の平均値（“とても幸せ”を10点、“どちらともいえない”を5点、“とても不幸せ”を0点とした場合）は6.81

#### [結果概要]

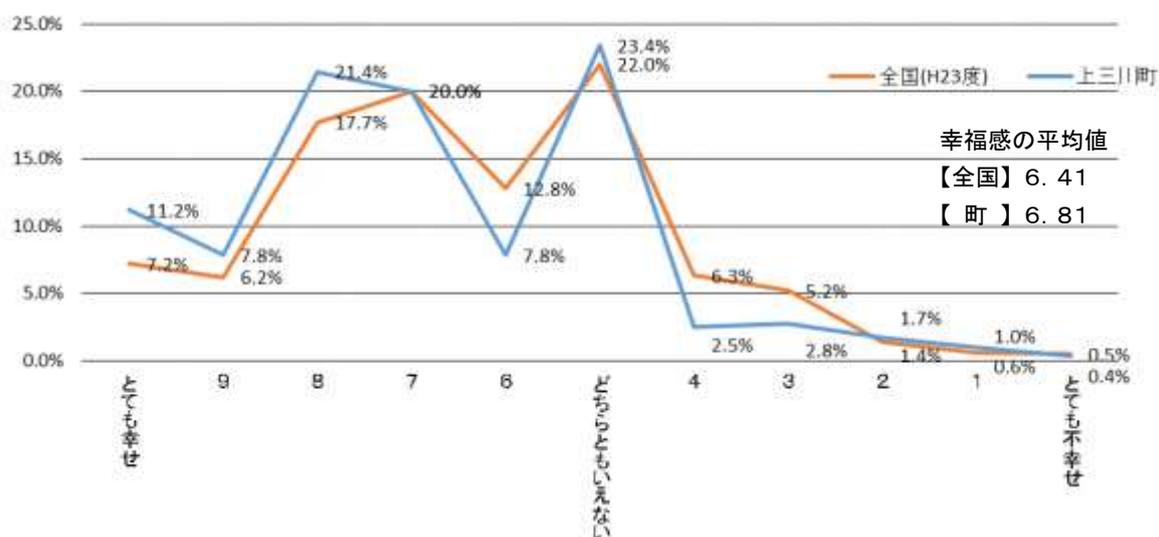
- ・全国結果との比較において“とても幸せ”に近い回答がやや多い傾向にあり、幸福感の平均値は全国値（6.41）を上回っている。



図表 自身の幸福度（全体）



全国結果（国民生活選好度調査）との比較



## 2) 幸福度を判断する際に重視した事項【問3：複数回答】

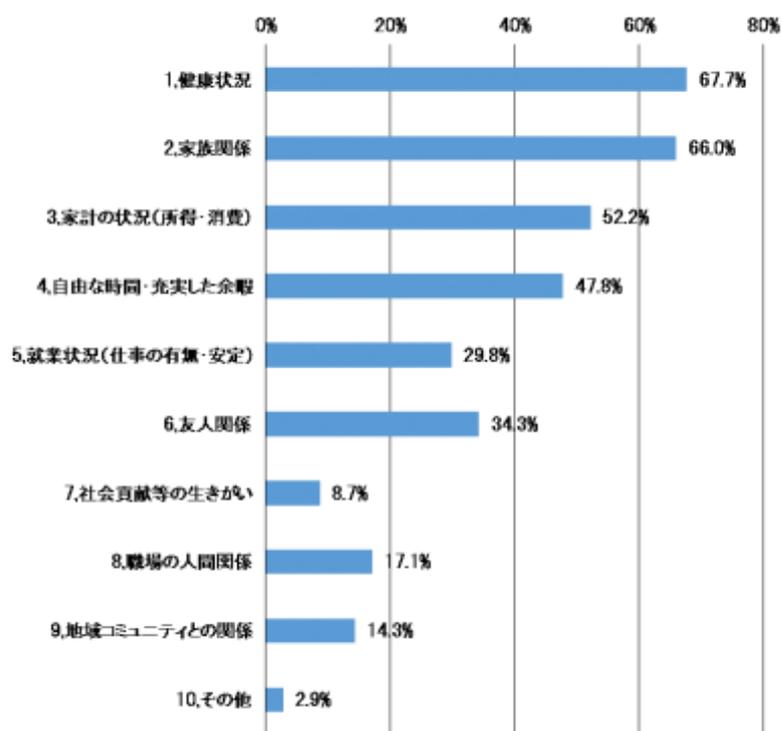
●幸福度で重視するのは“健康状況”が67.7%で最多、次いで“家族関係”が66.0%

### [結果概要]

- ・全国結果においては“家計の状況(所得・消費)”が62.2%で最多、次いで“健康状況”が62.1%(本町は国よりも“自由な時間・充実した余暇”など心のゆとりを重視する傾向)となっている。
- ・10代・20代において“友人関係”を重視する傾向にある。
- ・40代・50代・60代において“健康状況”を重視する傾向にある。
- ・30代において“家族関係”、40代において“家計の状況”を重視する傾向にある。



図表 判断する際に重視した事項(全体)

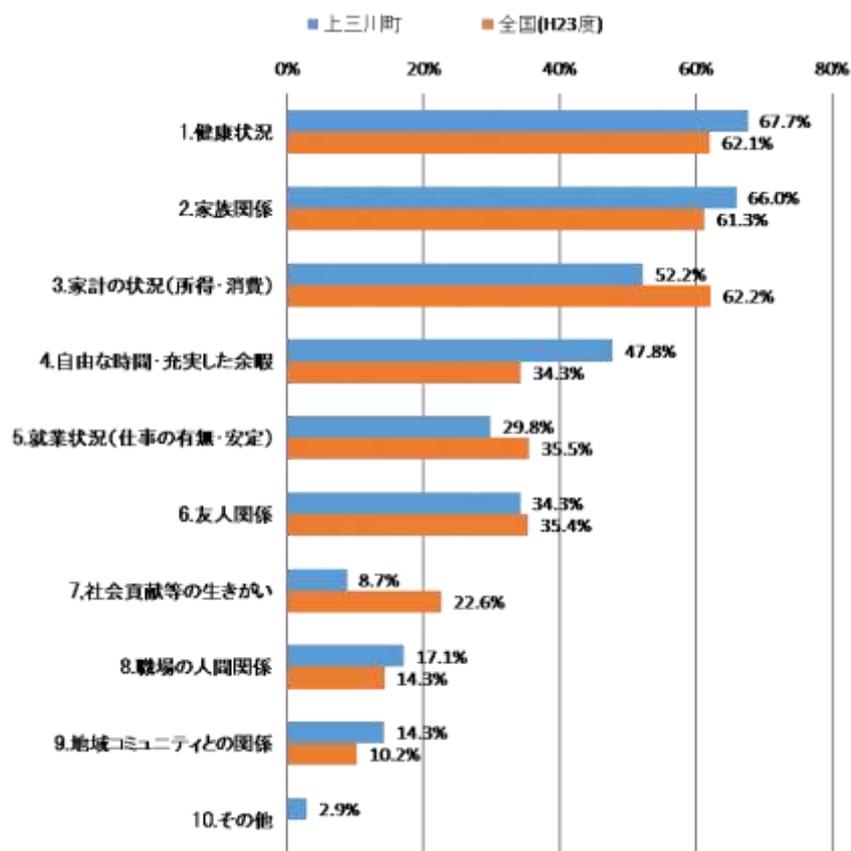


n=835

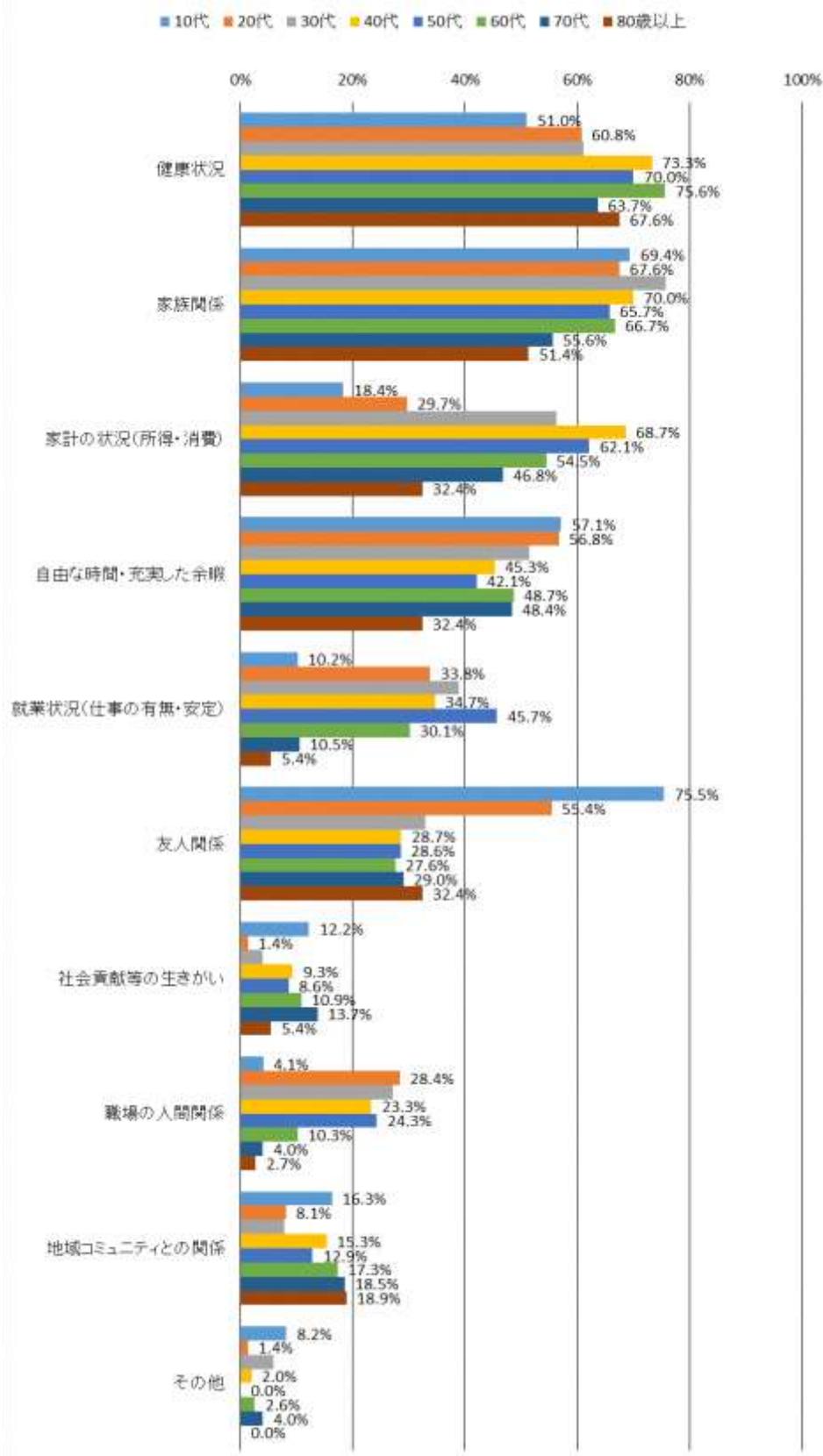
— 『その他』意見の趣旨— ※ ( ) 内の数値は意見数

- ・生活環境 (3)
- ・子どもや孫と過ごす時間 (2)
- ・趣味
- ・生きているから。
- ・学校
- ・考える時間
- ・町税等の負担
- ・住宅
- ・自由な時間がない。
- ・学業、部活の休みなし。
- ・自然災害がない。
- ・ドッグランまたは犬OKの公園が欲しい。
- ・身内の不幸
- ・お店
- ・犬
- ・勘

## 全国結果（国民生活選好度調査）との比較



図表 判断する際に重視した事項（年代別）



### 3) 自分のまちとしての愛着【問4：単数回答】

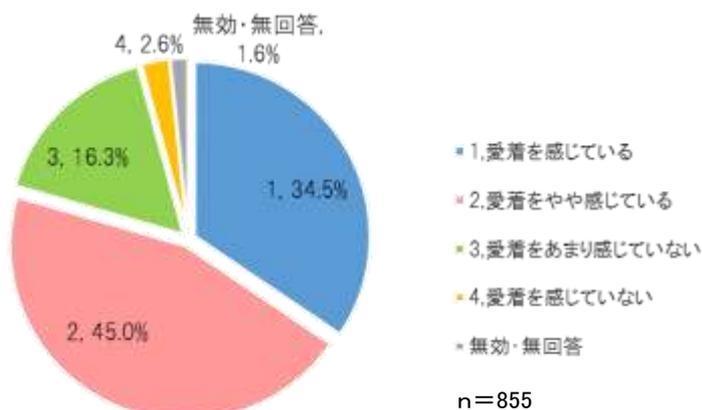
- “愛着をやや感じている”が45.0%で最多、次いで“愛着を感じている”が34.5%

#### [結果概要]

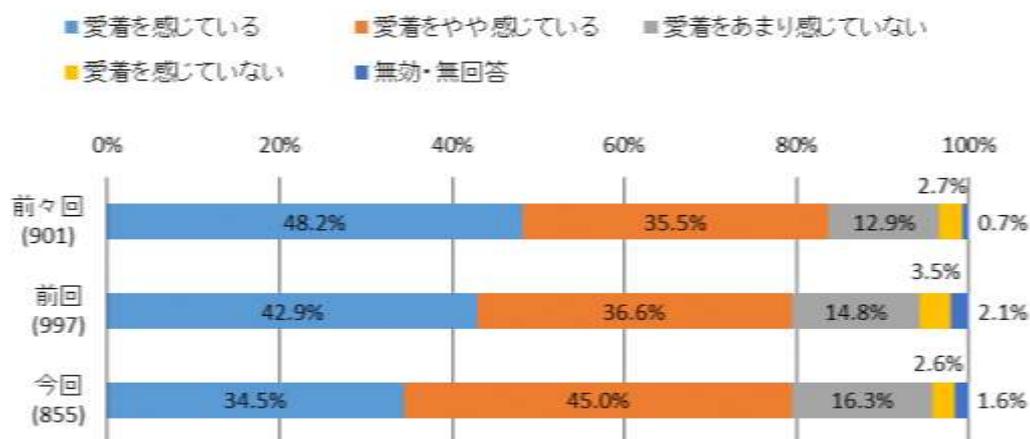
- ・ 前回結果との比較において“愛着を感じている”割合が低下の傾向にある。
- ・ 10代・70代・80代以上において“愛着を感じている”割合が高い傾向にある。
- ・ 上三川町での居住経験の長さにつれて“愛着を感じている”割合が高まる傾向にある。
- ・ 上三川町での居住経験の短い、若い年代の方達に対する、愛着の醸成につながる取組の必要性がうかがえる結果となっている。



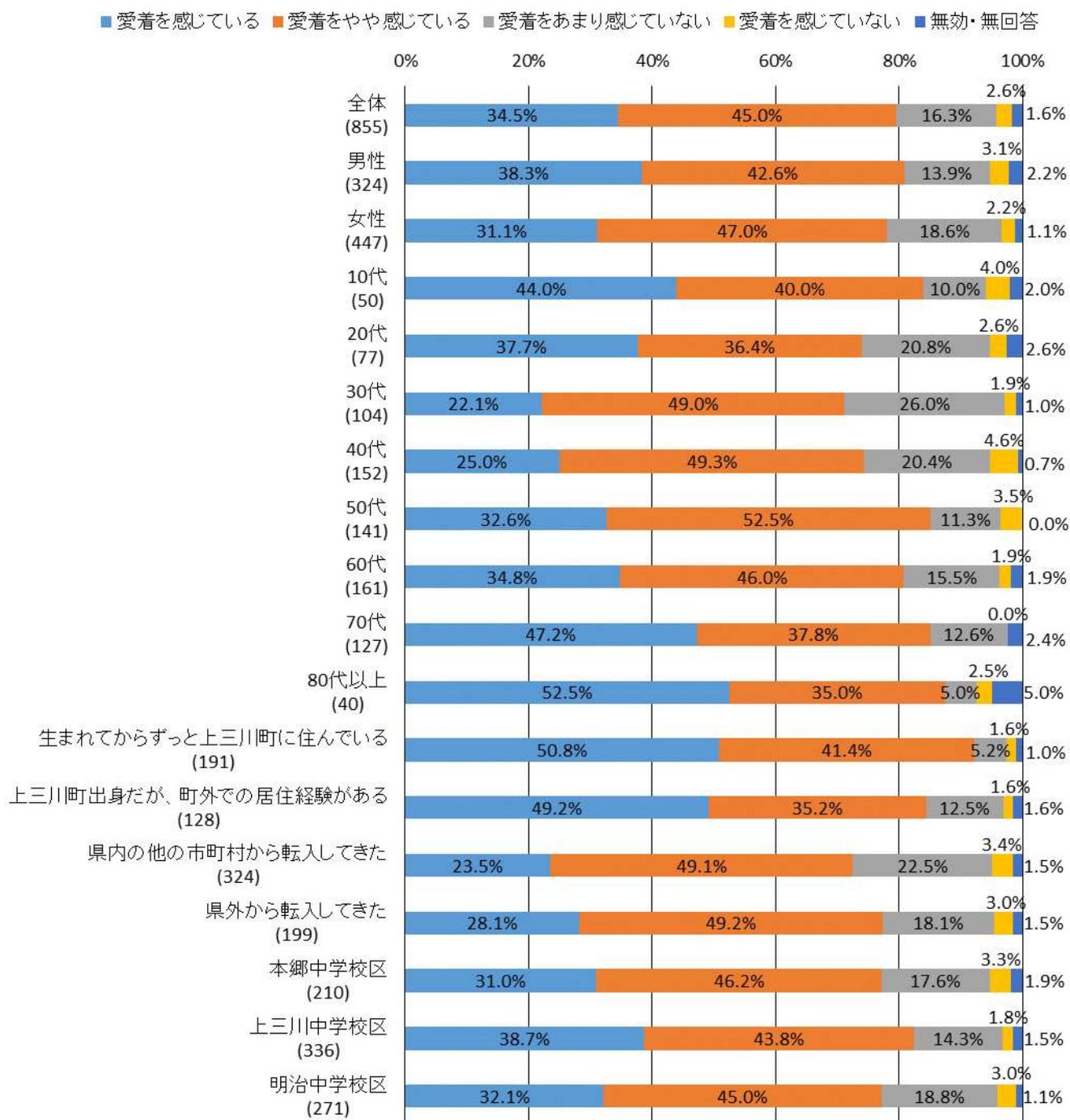
図表 自分のまちとしての愛着（全体）



#### 前回調査結果等との比較



図表 自分のまちとしての愛着（性別、年代別、居住歴別、居住地区別）



#### 4) 定住の意向【問5：単数回答】

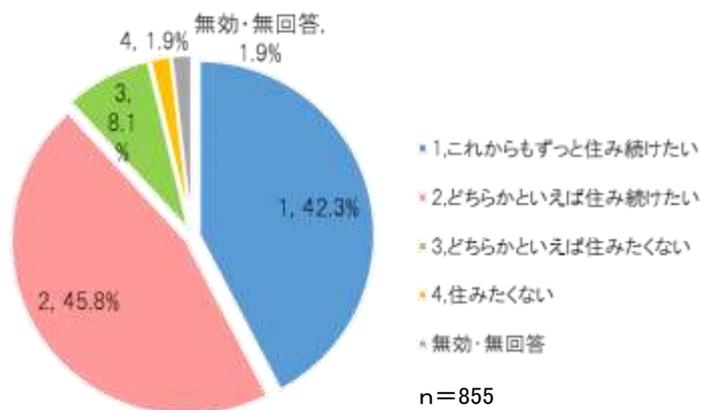
● “どちらかといえば住みたい” が 45.8%、“住みたい” の合計は約 88%

##### [結果概要]

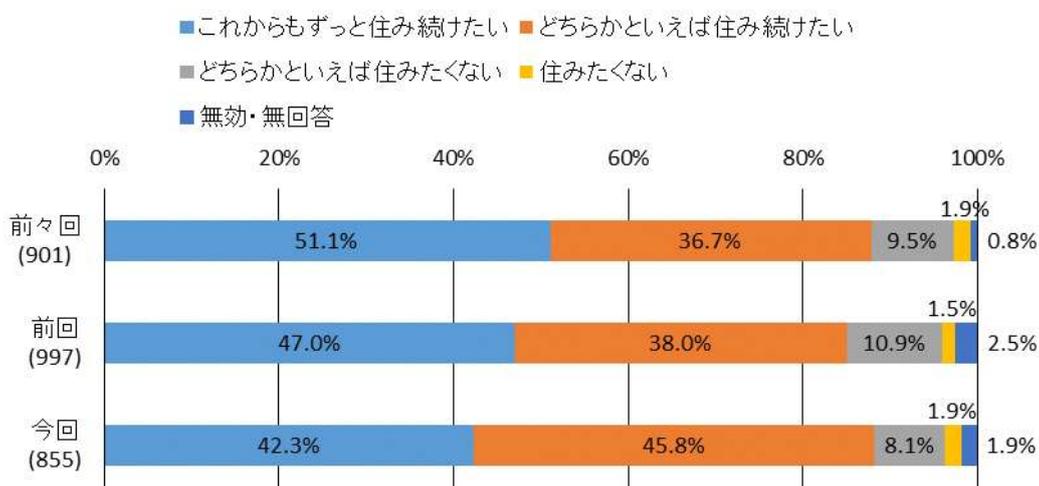
- ・ 前回結果との比較において“これからもずっと住みたい”割合が低下の傾向にある。
- ・ 年代が上がるにつれ“これからもずっと住みたい”割合が高まる傾向にある。
- ・ 上三川町での居住経験の長さにつれて“これからもずっと住みたい”割合が高まる傾向にある。
- ・ 上三川町での居住経験の短い、若い年代の方達に対する、定住意向の向上につながる取組の必要性がうかがえる結果となっている。



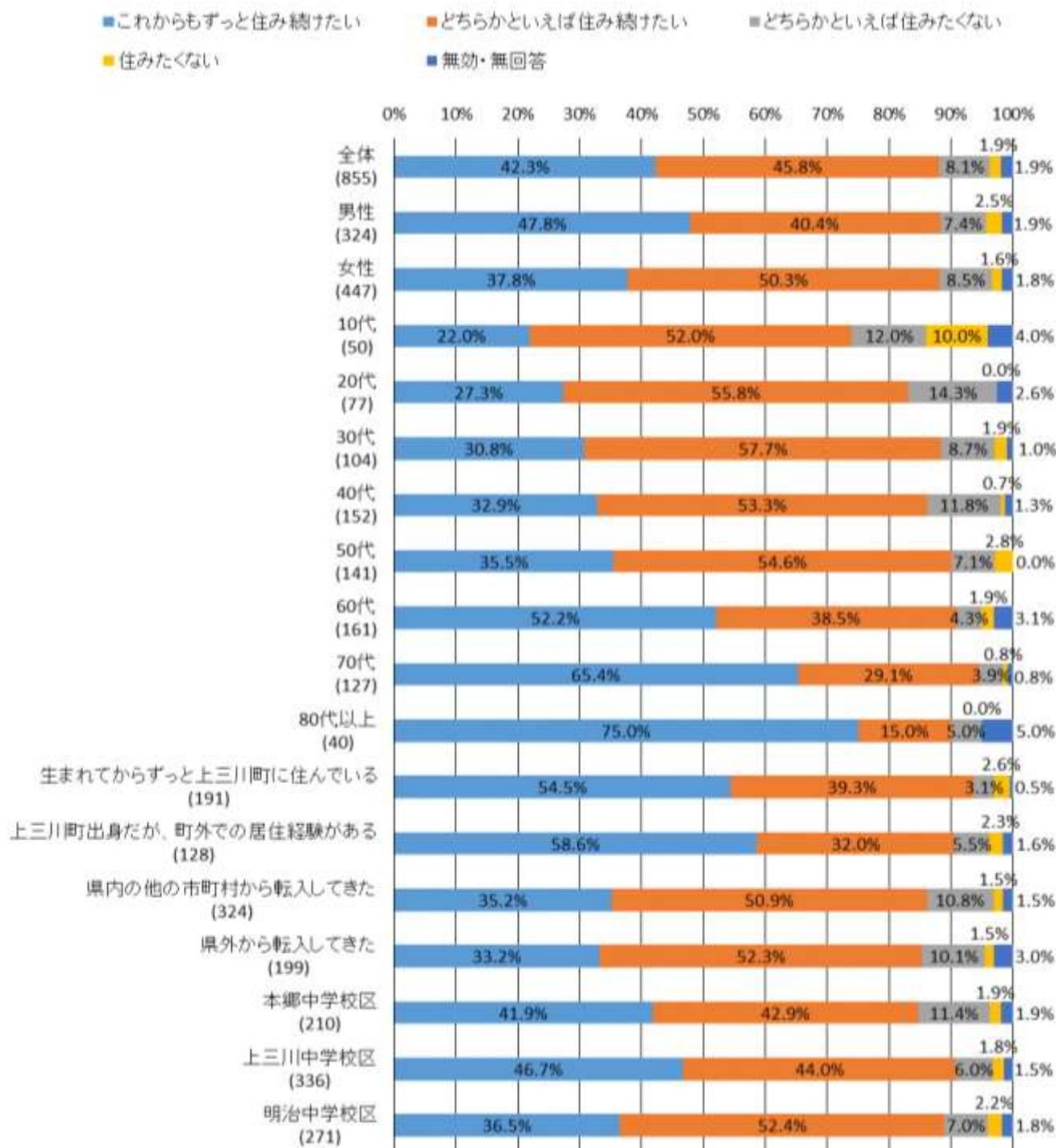
図表 定住の意向（全体）



##### 前回調査結果等との比較



図表 定住の意向（性別、年代別、居住歴別、居住地区別）



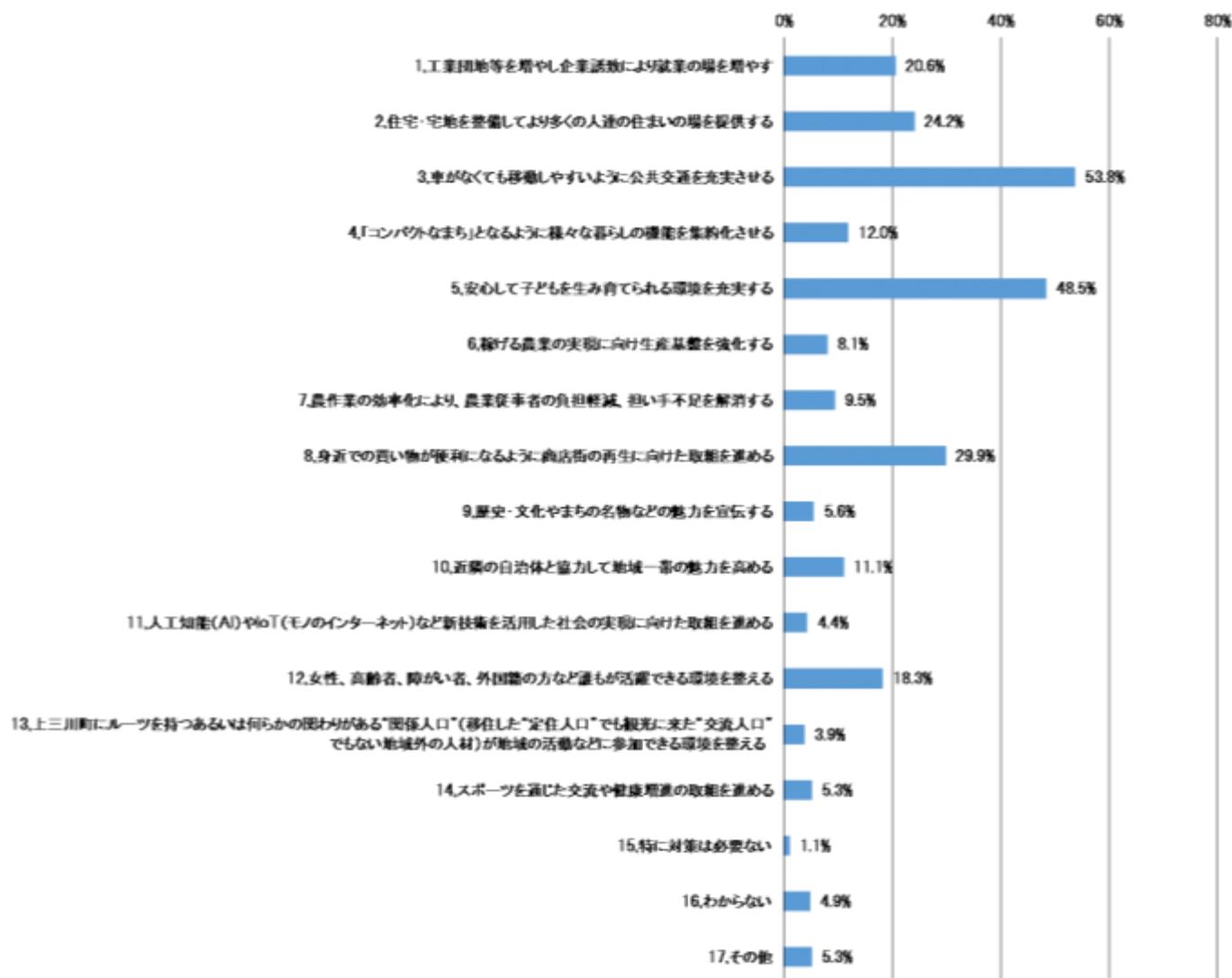
## 2 人口減少の動きへの対応について

### 1) 人口減少や地域活性化に向けて行うべき重要な施策【問6：複数回答】

- “車がなくても移動しやすいように公共交通を充実させる”が53.8%で最多、次いで“安心して子どもを生み育てられる環境を充実する”が48.5%

#### [結果概要]

- ・ “安心して子どもを生み育てられる環境を充実する”の回答割合は20代・30代の若い子育て世代において高い傾向にあり、“車がなくても移動しやすいように公共交通を充実させる”の回答割合は20代・30代を除く世代において高い傾向にある。

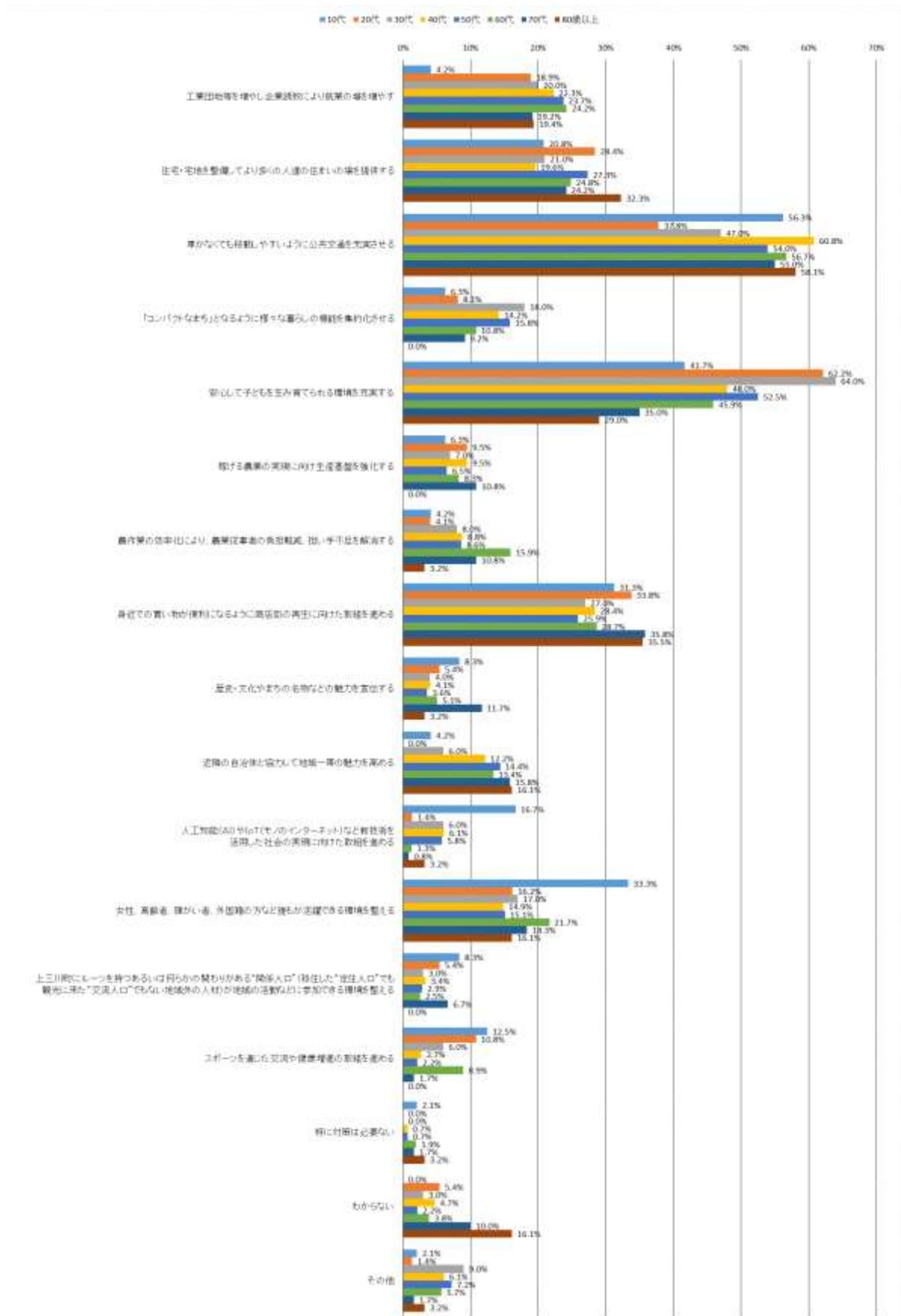


n=819

一 『その他』意見の趣旨一 ※（ ）内の数値は意見数

- ・不妊治療や子育ての助成拡大、高校生の医療費助成（9）
- ・商業施設の整備（4）
- ・電車の駅の新設やバス路線の拡大など公共交通の充実（4）
- ・宇都宮市との合併（3）
- ・医療機関の充実（3）
- ・ペットと暮らせるまちづくり（2）
- ・税金、教育、福祉を他地域より充実
- ・税金面を安くして移住者を増やす。
- ・サテライトオフィスを誘致
- ・雇用創出
- ・市街化調整区域をなくす。
- ・転入者に対して「よそ者」扱いをする高齢者の意識改革
- ・夢を実現しやすい環境（サポート体制）
- ・町主導の婚活
- ・空家店舗をリノベする取組
- ・上三川町で居住や就職をするメリット、デメリットを可視化する。
- ・化学肥料に頼らない農業を支援
- ・②⑤⑫⑬を複合的に政策実施
- ・町中心以外も整備
- ・自治体、町内の行事が多いのが負担
- ・公務員の数を減らす、派遣をなくす。
- ・全国的に有名なイベントを開催
- ・他地区にはない町の多様な地域資源を活かす。
- ・石橋駅東口を再開発し、有効活用する。
- ・レジャー施設
- ・スポーツ施設
- ・宇都宮文化会館を小規模にした様な施設
- ・図書館、公民館をもっと魅力のある施設にしてほしい。

図表 人口減少の動きへの対応について（年代別）



### 3 結婚や子ども・子育て支援などについて

#### 1) 結婚の有無【問7：単数回答】

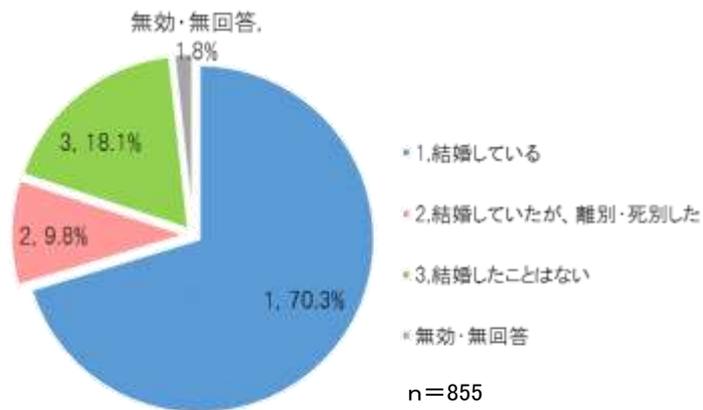
- “結婚している” が 70.3% で最多

##### [結果概要]

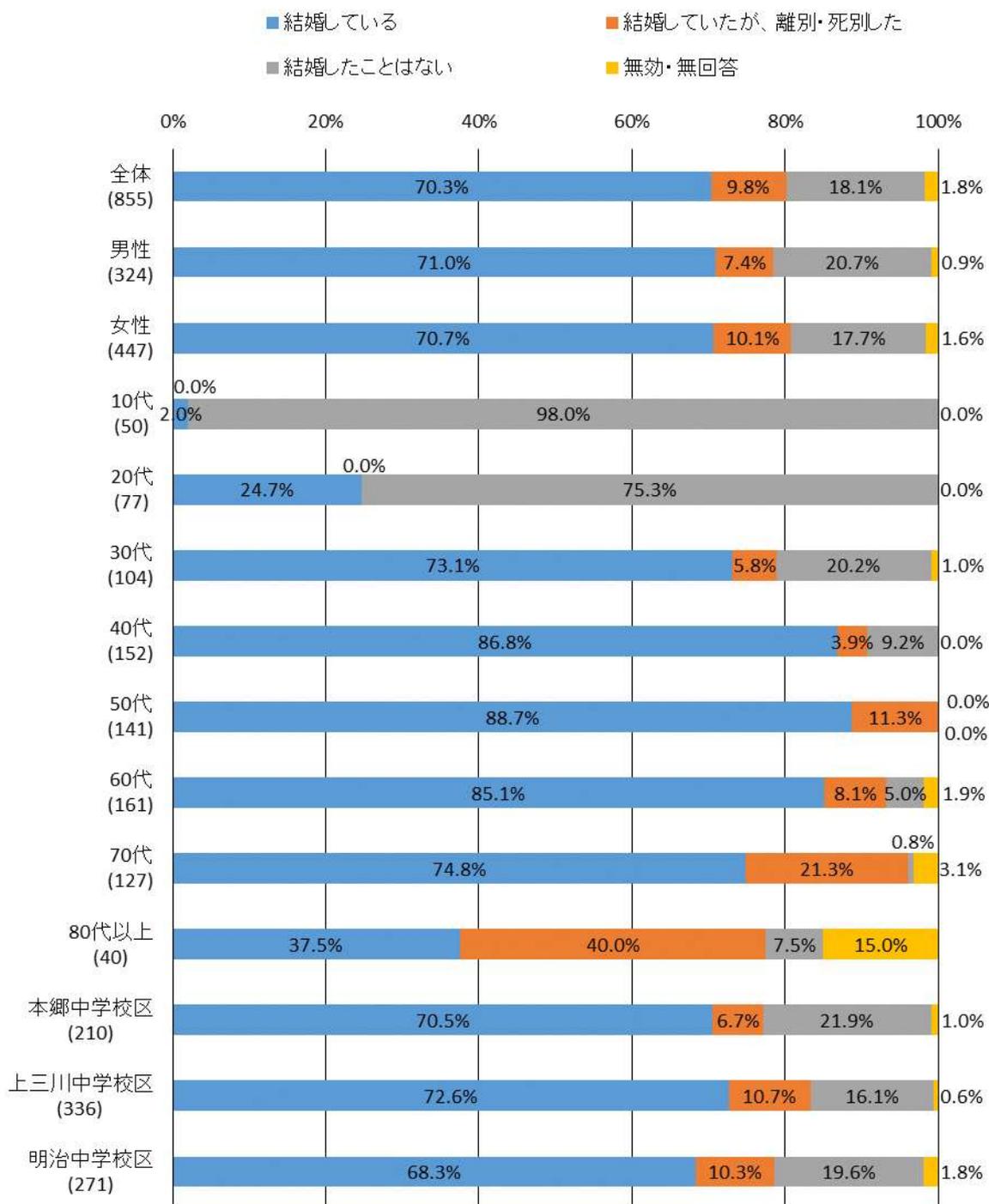
- ・ 20代において約4人に1人、30代においては7割超が“結婚している”状況にある。
- ・ 50代においては9割近くが“結婚している”反面、80代以上の約4割は“離別・死別した”状況にある。



図表 結婚の有無（全体）

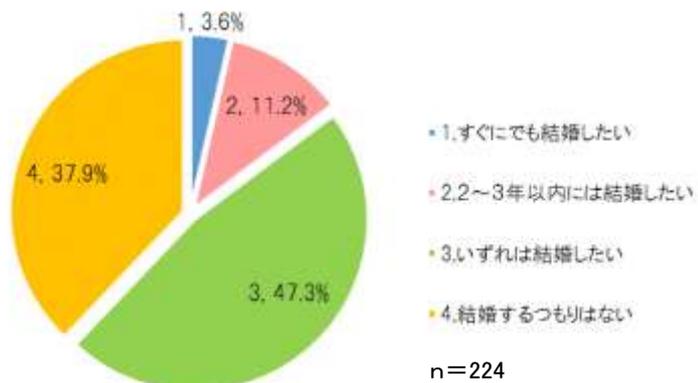


図表 結婚の有無（性別、年代別、居住地区別）



## 2) 結婚に対する希望【問8：単数回答】

- “いずれは結婚したい” が 47.3% で最多、次いで “結婚するつもりはない” が 37.9%



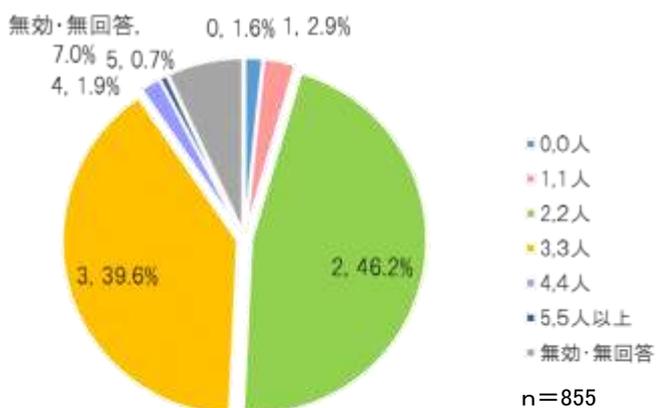
## 3) 理想的な子どもの人数【問9：単数回答】

- “2人” が 46.2% で最多、次いで “3人” が 39.6%

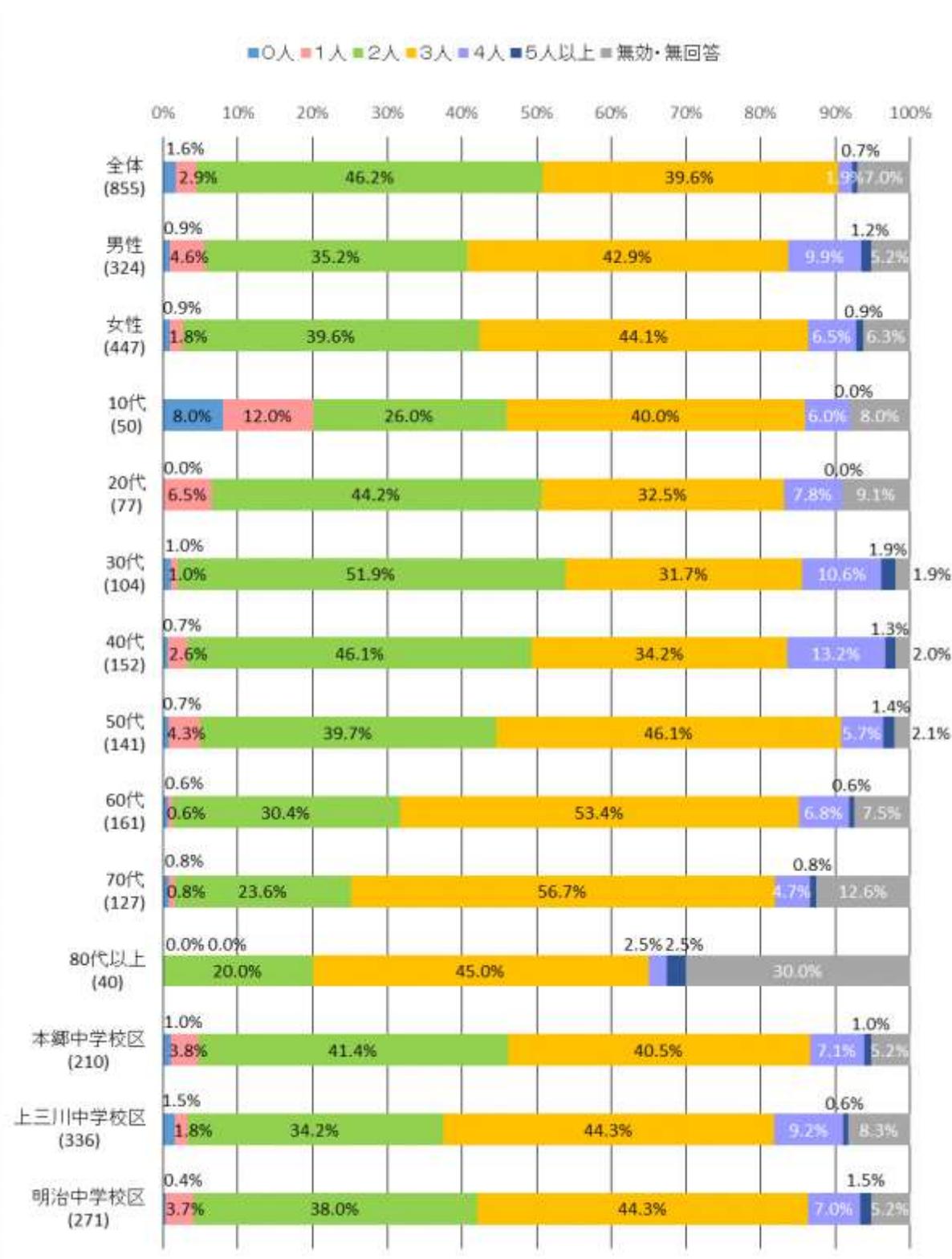
### [結果概要]

- ・ 30代において “2人” を理想とする回答が最多となっている。
- ・ 年代が上がるにつれて “3人” を理想とする回答が増加する傾向にある。

図表 理想的な子どもの人数（全体）



図表 理想的な子どもの人数（性別、年代別、居住地区別）



【参考：上三川町における希望出生率（希望が叶った場合の出生率）の算出】

■ 国民の希望出生率

（算定式）

{既婚者割合×夫婦の予定子ども数＋  
未婚者割合×未婚結婚希望割合×理想子ども数}×離別等効果

（国民の希望出生率）

$$\{ (34.0\% \times 2.07 \text{ 人}) + (66.0\% \times 89.0\% \times 2.12 \text{ 人}) \} \times 0.938 \quad \approx \quad \underline{1.8}$$



同様の手法により算出

■ 上三川町の希望出生率

—今回調査結果より—

$$\{ (66.7\% \times 2.07 \text{ 人}) + (33.3\% \times 84.5\% \times 2.28 \text{ 人}) \} \times 0.938 \quad = \quad \underline{1.89}$$

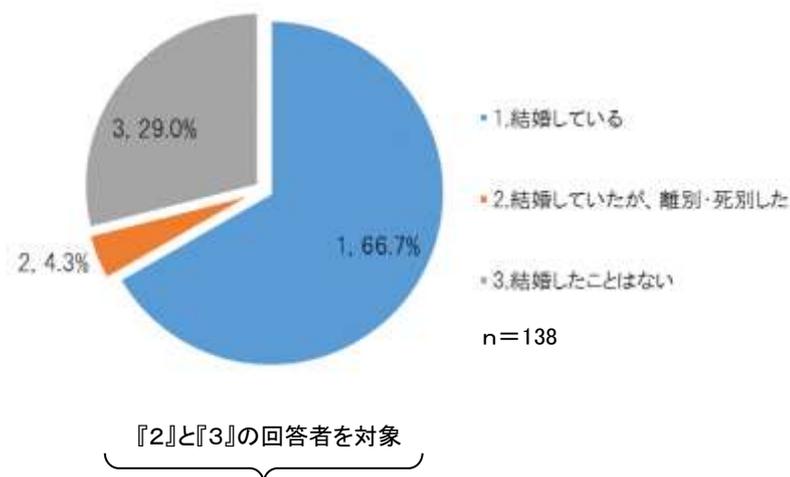
※網掛け部については今回意向調査の結果を活用（次ページデータ参照）、“夫婦の予定子ども数”“離別等効果”については国の値を採用

—前回調査時：平成27年7月時点—

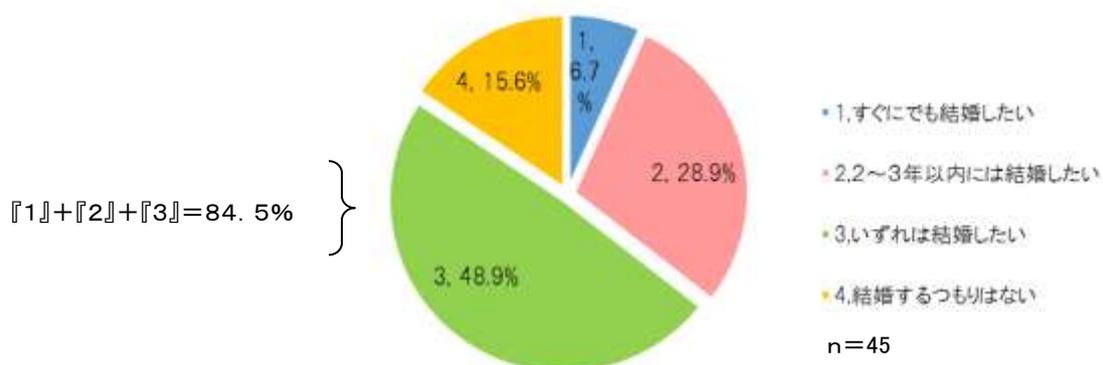
$$\{ (72.9\% \times 2.07 \text{ 人}) + (27.0\% \times 83.3\% \times 2.40 \text{ 人}) \} \times 0.938 \quad = \quad \underline{1.92}$$

【参考：希望出生率算出の際に必要な値（25～39歳による回答）】

図表 結婚の有無



図表 結婚の意向



図表 理想の子ども的人数

理想の子ども的人数	人数(人)	割合(%)	延べ人数	理想子ども数平均
0,0人	2	1.5%	0	2.28
1,1人	2	1.5%	2	
2,2人	90	67.2%	180	
3,3人	37	27.6%	111	
4,4人	2	1.5%	8	
5,5人以上	1	0.7%	5	
無効・無回答		0.0%		
合計	134	100.0%	306	

[結果概要]

- 子どもを産み、育てる若い世代における、結婚や子どもを持つことに対する希望に応える取組の必要性がうかがえる結果となっている。

#### 4) 理想的な子ども的人数を増やすために力を入れるべき事項【問10：複数回答】

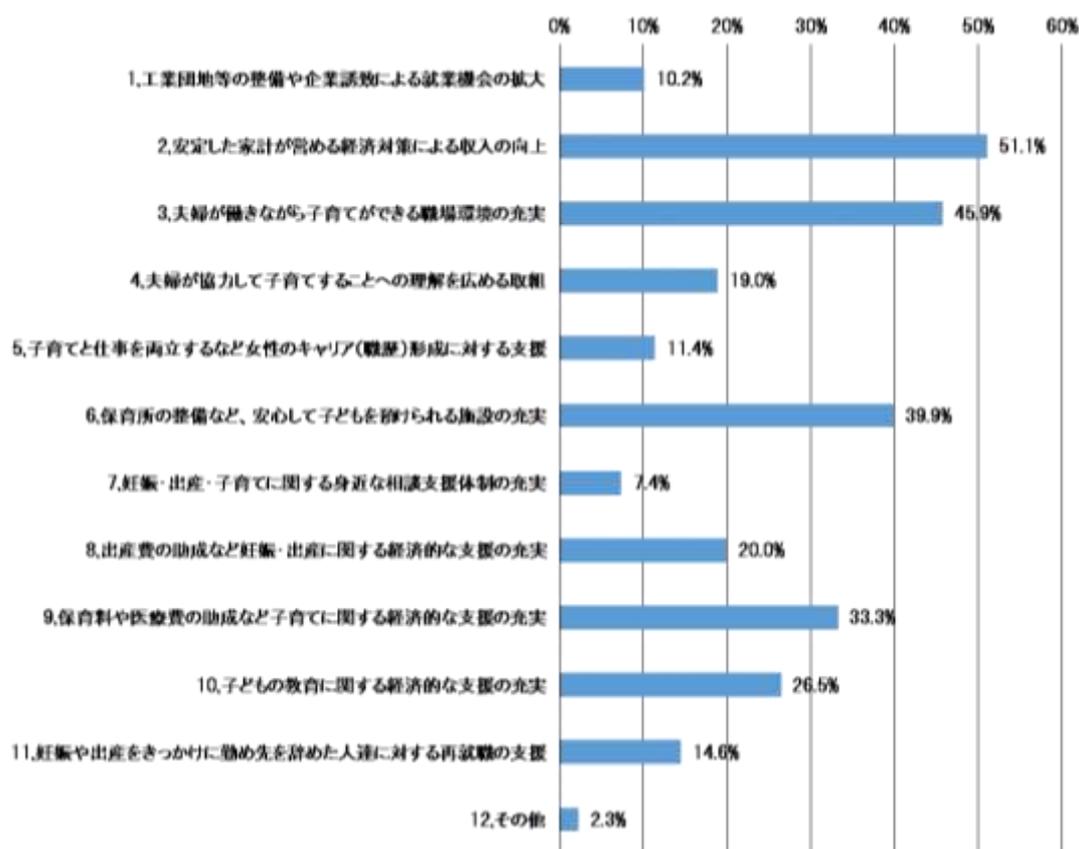
- “安定した家計が営める経済対策による収入の向上” が 51.1% で最多、次いで “夫婦が働きながら子育てができる職場環境の充実” が 45.9%

##### [結果概要]

- ・男性において “工業団地等の整備や企業誘致による就業機会の拡大” の回答が多い傾向にある。
- ・女性において “夫婦が協力して子育てすることへの理解を広める取組” の回答が多い傾向にある。



図表 力を入れるべき施策（全体）

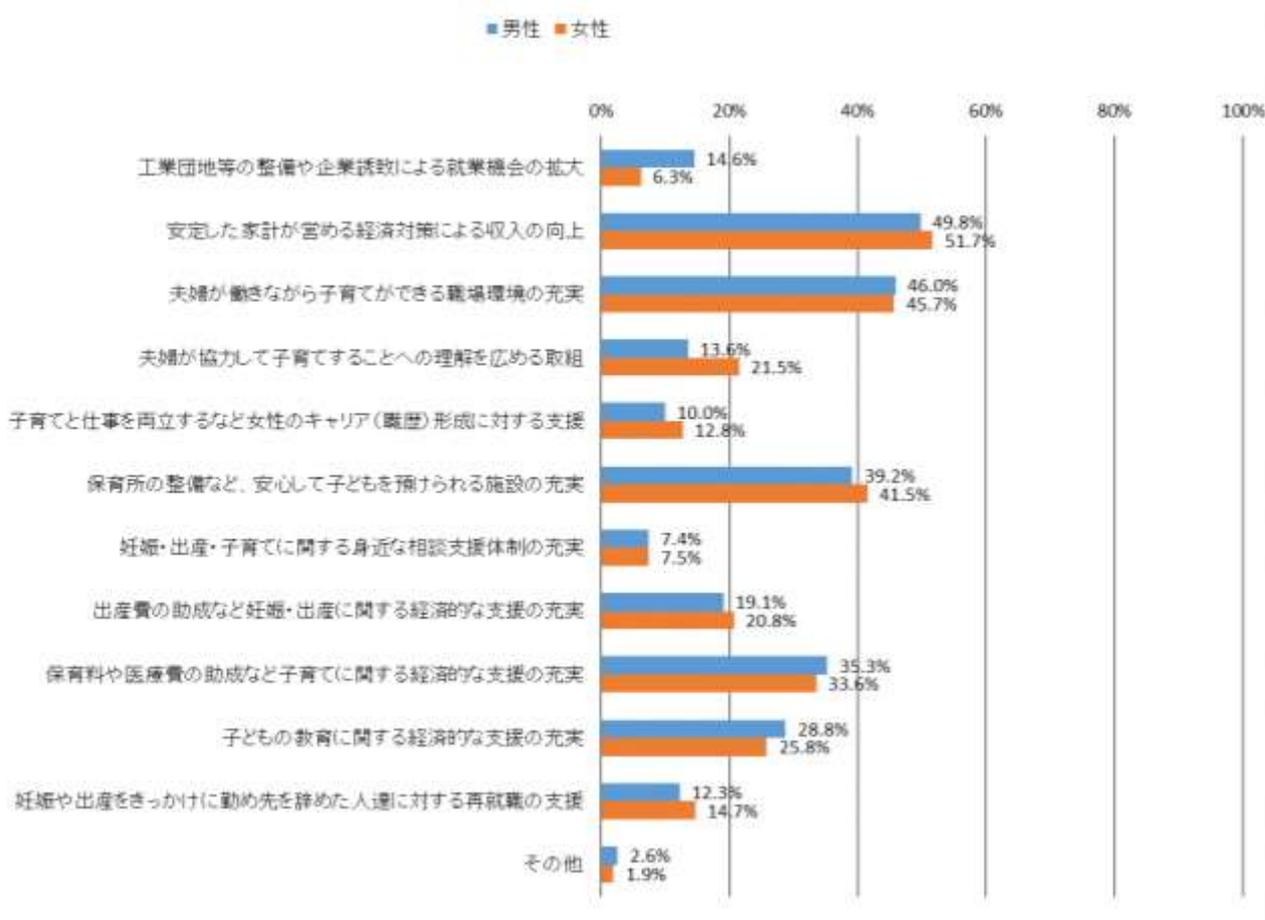


n=796

－『その他』意見の趣旨－ ※（ ）内の数値は意見数

- ・ 保育所・学童の充実（４）
- ・ 不妊治療助成（３）
- ・ 婚活の支援（２）
- ・ 子どもの数は個人の問題（２）
- ・ 出産に手当、子育てに減税
- ・ 保育士の待遇の改善
- ・ 皮膚科専門医院の開院
- ・ 産婦人科を上三川町にも開院
- ・ 特別養子縁組に関する理解
- ・ 産休、育休中の夫の経済的な支援
- ・ 教育費を下げる。
- ・ 理想的な家族構成
- ・ 宇都宮市との合併

図表 力を入れるべき施策（性別）



## 4 町の現状と今後の取組について

### 1) 町の各施策に対する満足度【問11：単数回答】

- 加重平均値からみた満足度の高い項目は“生活排水などが適切に処理される下水道（公共下水道、農業集落排水、浄化槽等）”“安全でおいしい水を安定的に供給する上水道”“健康づくり活動や保健サービスの体制”など
- 加重平均値からみた満足度の低い項目は“公共交通を利用しやすい環境（下野市・壬生町との共同の広域連携バスの導入等）”“商業（地元商店会等）を盛んにするための取組”など



### ※加重平均値の算出方法

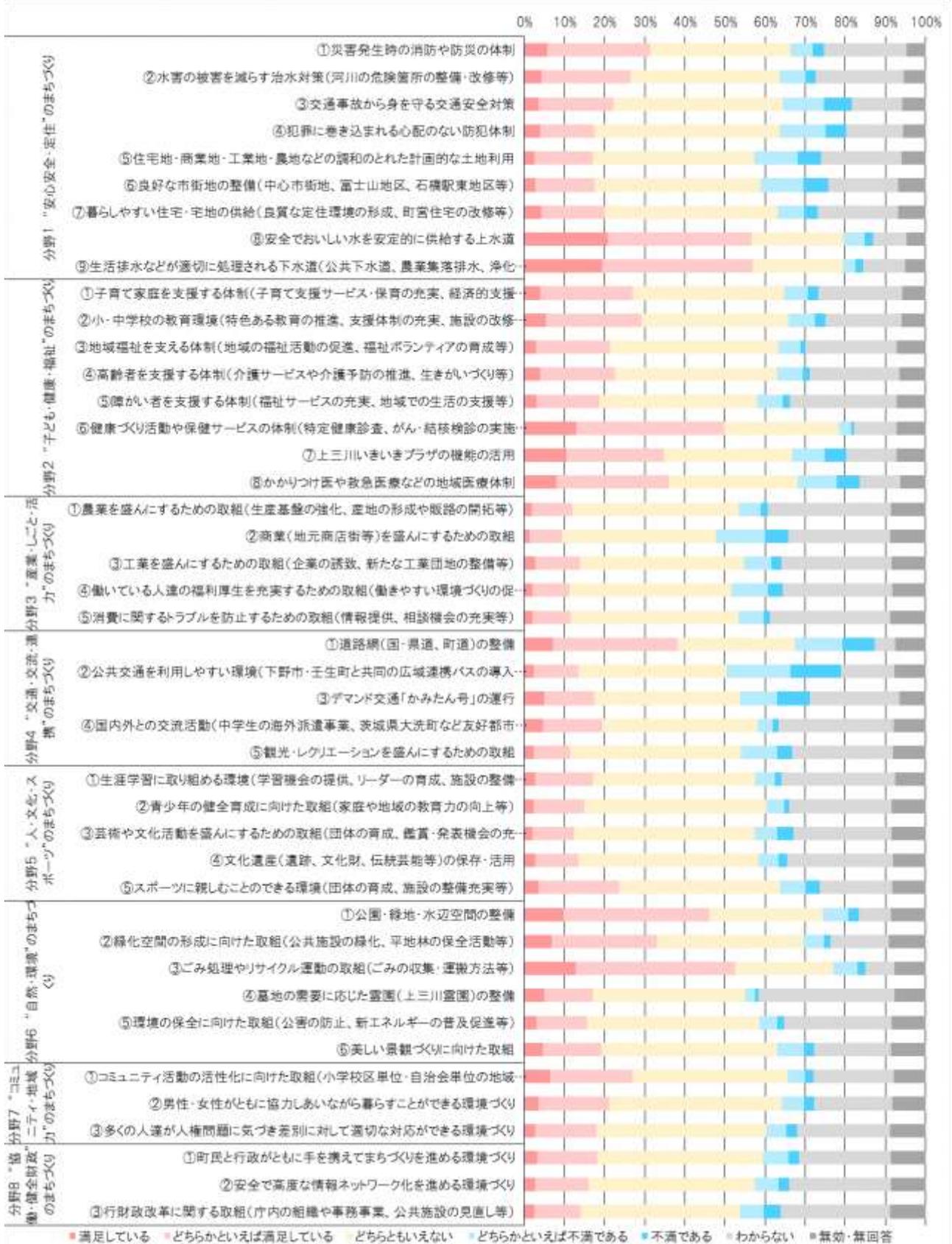
5段階の評価にそれぞれ点数を与えて評価点（満足度）を算出

$$\begin{array}{l} \text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者} \times -10 \text{点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらか} \\ \text{といえば満足している} \\ \text{」、「どちらともいえない} \\ \text{」、「どちらかといえば不} \\ \text{満である」、「不満である} \\ \text{」の回答者数} \end{array}} \end{array}$$

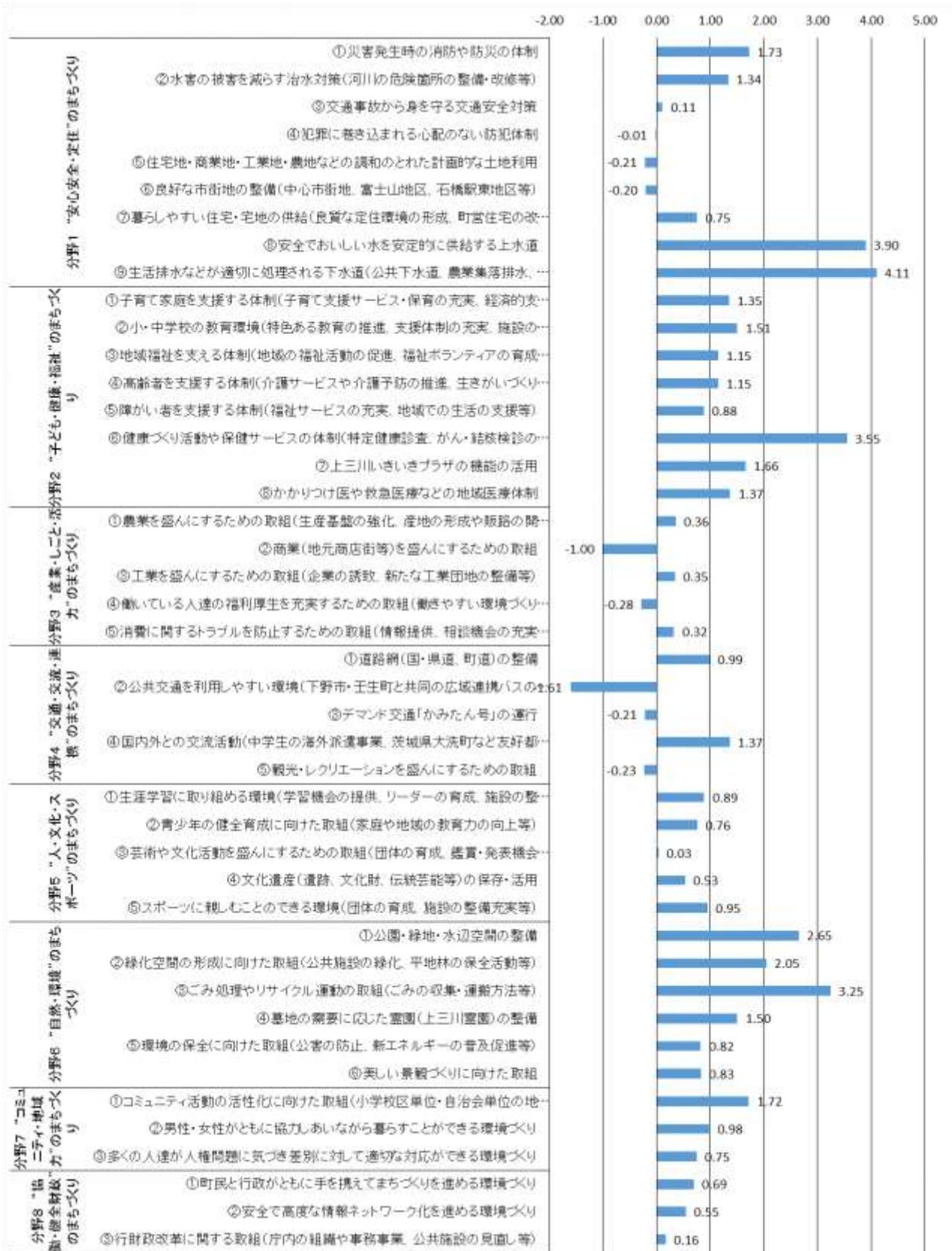
この算出方法により、評価点（満足度）は+10点から-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価は低くなる。

—各施策に対する満足度：回答割合—

※『わからない』『無効・無回答』を含む



—各施策に対する満足度：加重平均値—



## 2) 町の各施策に対する重要度【問 1 1 : 単数回答】

- 加重平均値からみた重要度の高い項目は“災害発生時の消防や防災の体制”“安全でおいしい水を安定的に供給する上水道”“生活排水などが適切に処理される下水道（公共下水道、農業集落排水、浄化槽等）”“犯罪に巻き込まれる心配のない防犯体制”など
- 加重平均値からみた乗用度の低い項目は“観光・レクリエーションを盛んにするための取組”“国内外との交流活動”など



### ※加重平均値の算出方法

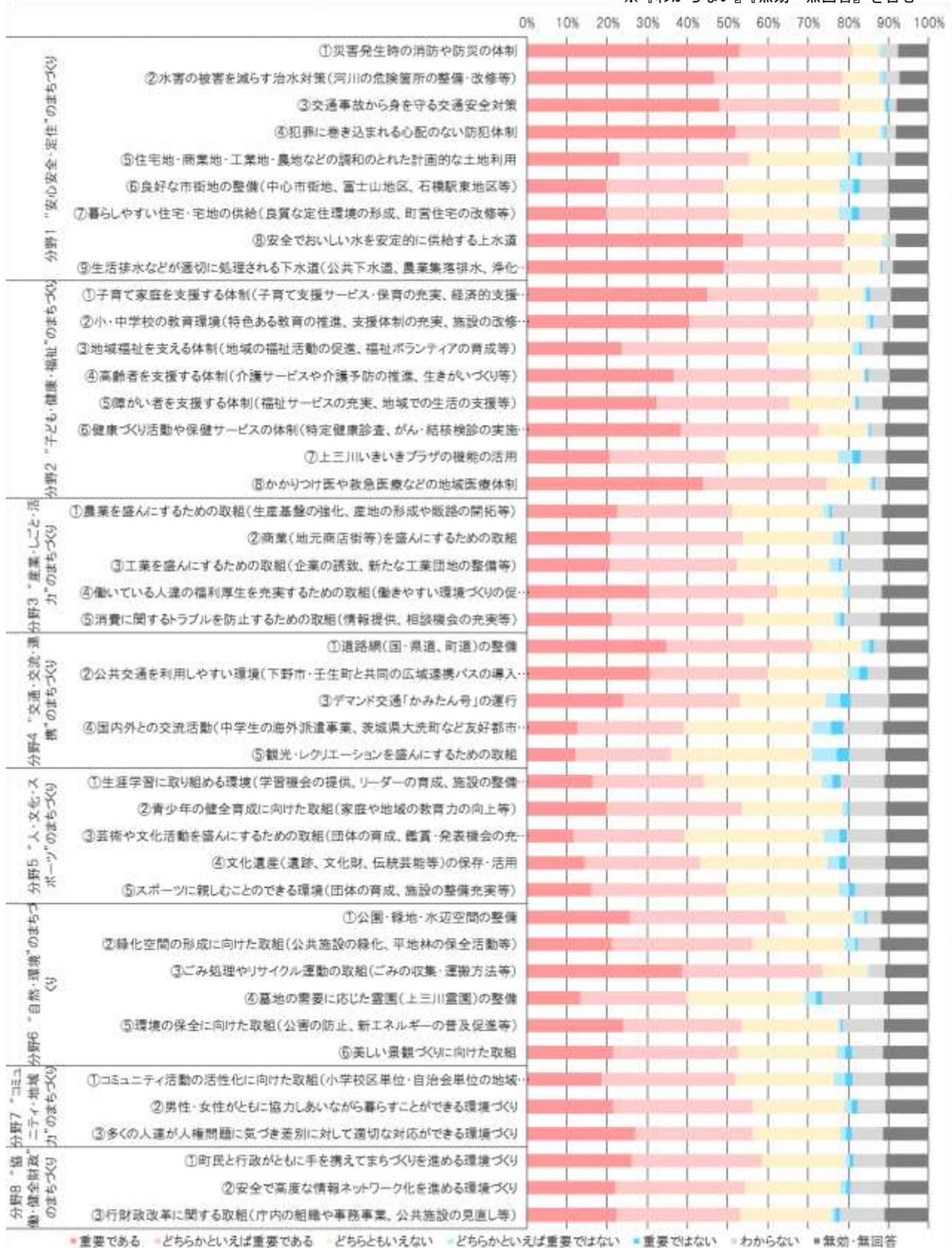
5段階の評価にそれぞれ点数を与えて評価点（重要度）を算出

$$\begin{array}{l} \text{評価点} = \left[ \begin{array}{l} \text{「重要である」の回答者} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば重要である」の回答者} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば重要ではない」の回答者} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「重要ではない」の回答者} \times -10 \text{点} \end{array} \right] \div \left[ \begin{array}{l} \text{「重要である」、「どちらか} \\ \text{かといえば重要である」、} \\ \text{「どちらともいえない」、} \\ \text{「どちらかといえば重要} \\ \text{ではない」、「重要ではな} \\ \text{い」の回答者数} \end{array} \right] \end{array}$$

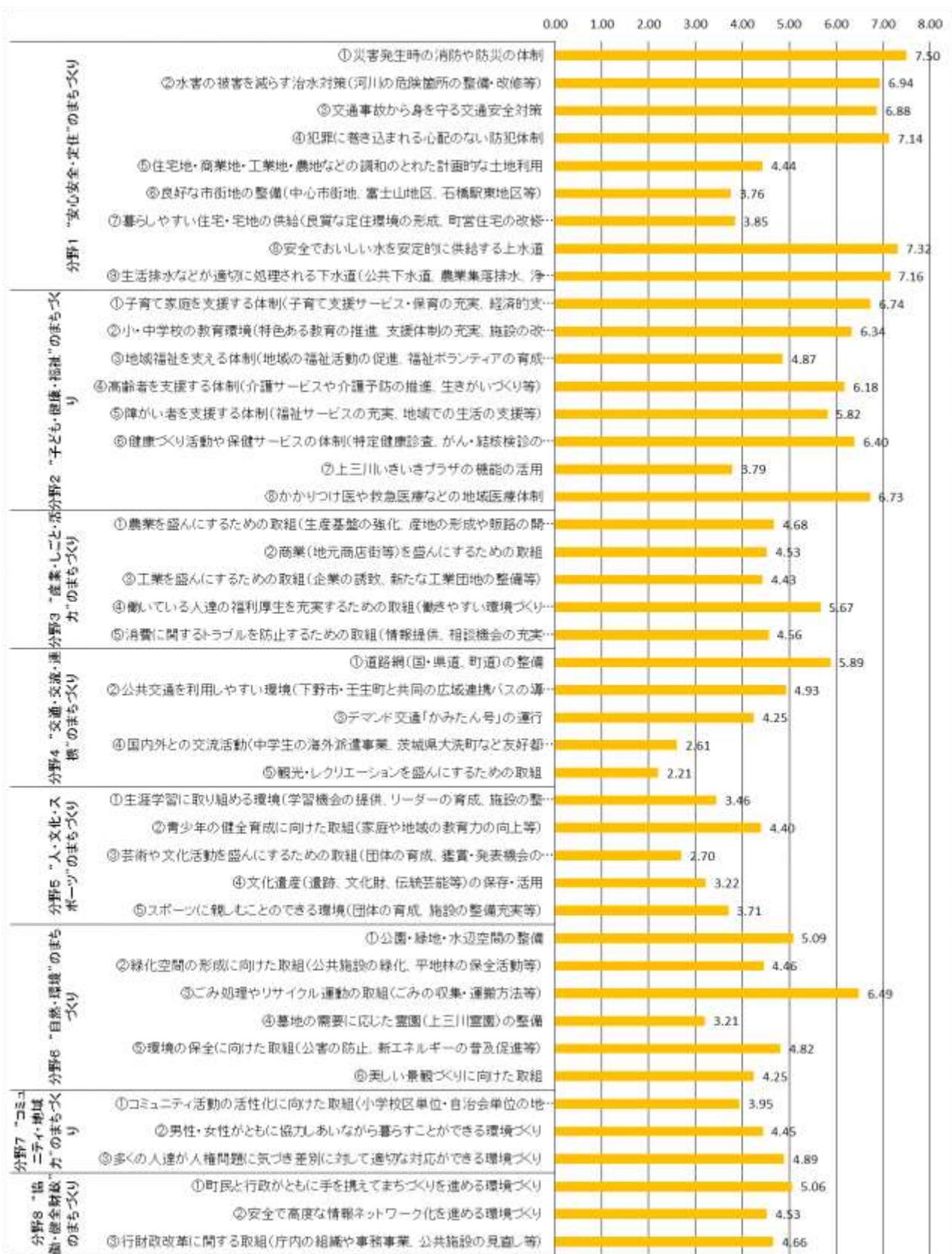
この算出方法により、評価点（重要度）は+10点から-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価は低くなる。

－各施策に対する重要度：回答割合－

※『わからない』『無効・無回答』を含む



—各施策に対する重要度：加重平均値—

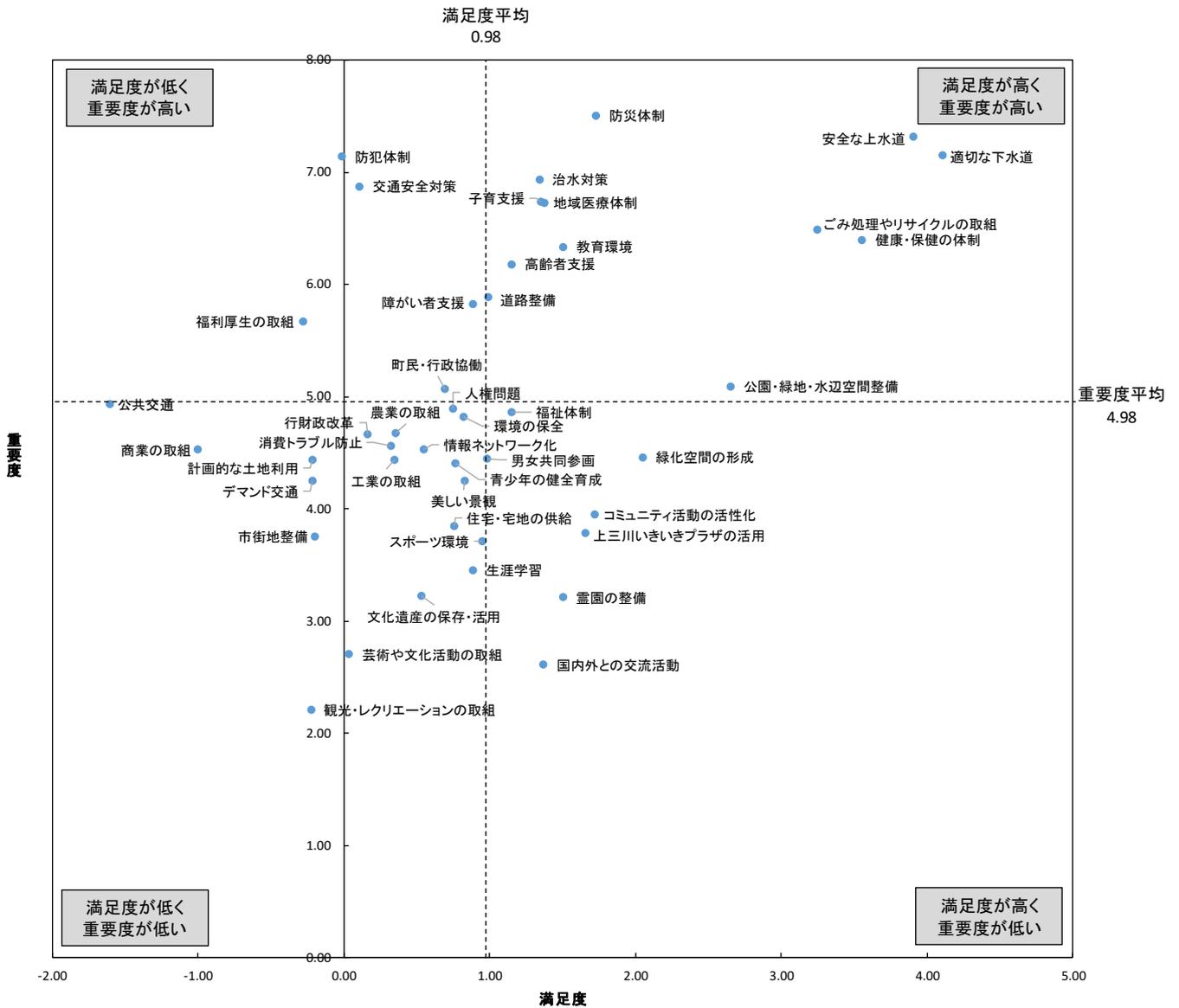


参考：回答割合の値

※『わからない』『無効・無回答』を含む

	満足度							重要度							
	回答割合 %							回答割合 %							
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	わからない	無効・無回答	重要である	どちらかといえば重要である	どちらともいえない	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	わからない	無効・無回答	
分野1	①災害発生時の消防や防災の体制	5.6%	25.7%	35.1%	5.5%	2.8%	20.5%	4.8%	52.9%	28.1%	6.8%	0.7%	0.1%	3.9%	7.6%
	②水害の被害を減らす治水対策(河川の危険箇所の整備・改修等)	4.3%	22.1%	37.2%	6.4%	2.5%	22.0%	5.5%	46.7%	31.7%	9.4%	1.1%	0.2%	3.7%	7.3%
	③交通事故から身を守る交通安全対策	3.5%	18.7%	42.1%	10.4%	6.8%	12.6%	5.8%	48.0%	29.8%	11.0%	0.7%	0.6%	2.0%	8.0%
	④犯罪に巻き込まれる心配のない防犯体制	4.0%	13.3%	46.4%	11.2%	5.1%	14.3%	5.6%	51.9%	25.8%	10.2%	1.1%	0.5%	2.3%	8.2%
	⑤住宅地・商業地・工業地・農地などの調和のとれた計画的な土地利用	2.5%	14.6%	40.2%	10.8%	6.0%	20.0%	6.0%	23.0%	32.3%	24.9%	2.0%	1.2%	8.3%	8.3%
	⑥良好な市街地の整備(中心市街地、富士山地区、石橋駅東地区等)	2.7%	14.6%	41.6%	10.6%	6.2%	17.4%	6.8%	19.9%	29.0%	29.0%	3.3%	1.6%	7.1%	10.1%
	⑦暮らしやすい住宅・宅地の供給(良質な定住環境の形成、町営住宅の改修等)	4.2%	15.9%	43.0%	6.5%	3.4%	20.1%	6.8%	19.9%	30.4%	27.4%	3.2%	1.8%	7.7%	9.7%
	⑧安全でおいしい水を安定的に供給する上水道	20.8%	35.8%	22.8%	5.4%	2.1%	8.3%	4.8%	53.7%	25.4%	9.6%	1.1%	0.1%	2.1%	8.1%
	⑨生活排水などが適切に処理される下水道(公共下水道、農業集落排水、浄化槽等)	19.3%	37.7%	22.6%	2.9%	2.0%	10.5%	5.0%	48.9%	29.6%	9.4%	0.4%	0.2%	2.8%	8.8%
分野2	①子育て家庭を支援する体制(子育て支援サービス・保育の充実、経済的支援等)	3.9%	23.2%	37.7%	6.0%	2.6%	20.9%	5.8%	44.8%	27.7%	11.3%	0.8%	0.7%	5.3%	9.4%
	②小・中学校の教育環境(特色ある教育の推進、支援体制の充実、施設の改修等)	5.3%	23.7%	36.8%	6.5%	2.6%	19.1%	6.0%	40.4%	31.0%	13.1%	1.1%	0.7%	4.9%	8.9%
	③地域福祉を支える体制(地域の福祉活動の促進、福祉ボランティアの育成等)	2.9%	18.4%	42.0%	5.5%	1.3%	22.8%	7.1%	23.6%	36.5%	20.9%	1.8%	0.5%	5.4%	11.3%
	④高齢者を支援する体制(介護サービスや介護予防の推進、生きがいづくり等)	3.9%	18.6%	40.5%	6.4%	1.8%	22.5%	6.4%	36.5%	34.0%	13.3%	0.5%	0.7%	5.3%	9.7%
	⑤障がい者を支援する体制(福祉サービスの充実、地域での生活の支援等)	3.0%	15.7%	39.3%	6.3%	1.9%	26.5%	7.3%	32.3%	33.0%	16.1%	0.6%	0.5%	6.1%	11.5%
	⑥健康づくり活動や保健サービスの体制(特定健康診査、がん・結核検診の実施等)	13.0%	36.8%	28.5%	3.0%	0.7%	10.8%	7.1%	38.4%	34.3%	12.2%	0.6%	0.4%	3.5%	10.8%
	⑦上三川いきいきプラザの機能の活用	10.5%	24.2%	31.9%	8.2%	5.3%	12.7%	7.1%	20.6%	28.9%	28.1%	3.5%	1.9%	6.4%	10.6%
	⑧かかりつけ医や救急医療などの地域医療体制	8.1%	28.0%	32.2%	9.7%	5.7%	10.1%	6.3%	43.7%	30.9%	10.6%	0.7%	0.6%	2.7%	10.8%
分野3	①農業を盛んにするための取組(生産基盤の強化、産地の形成や販路の開拓等)	1.8%	10.1%	41.5%	5.5%	1.9%	30.6%	8.7%	22.5%	28.7%	22.8%	1.4%	0.6%	12.4%	11.7%
	②商業(地元商店街等)を盛んにするための取組	1.3%	8.2%	38.2%	12.3%	5.8%	25.4%	8.8%	20.8%	33.0%	22.5%	1.9%	0.7%	9.8%	11.3%
	③工業を盛んにするための取組(企業の誘致、新たな工業団地の整備等)	2.7%	11.1%	40.8%	6.9%	2.6%	27.5%	8.4%	20.5%	31.8%	23.2%	2.2%	0.6%	10.4%	11.3%
	④働いている人達の福利厚生を充実するための取組(働きやすい環境づくりの促進等)	2.0%	9.1%	40.5%	9.0%	3.9%	27.3%	8.3%	30.5%	31.7%	16.5%	1.3%	0.2%	8.1%	11.7%
	⑤消費に関するトラブルを防止するための取組(情報提供、相談機会の充実等)	2.0%	9.6%	41.9%	6.1%	1.8%	29.8%	8.9%	21.1%	32.9%	22.7%	1.4%	0.8%	9.1%	12.0%
分野4	①道路網(国・県道、町道)の整備	7.0%	31.1%	29.2%	11.9%	8.0%	5.3%	7.5%	34.7%	36.1%	12.4%	2.1%	0.9%	3.3%	10.4%
	②公共交通を利用しやすい環境(下野市・壬生町と共同の広域連携バスの導入等)	2.3%	11.1%	37.0%	15.9%	12.6%	13.2%	7.8%	30.6%	29.2%	20.0%	2.9%	2.0%	5.1%	10.1%
	③デマンド交通「かみたん号」の運行	5.0%	12.4%	36.3%	9.4%	8.1%	22.3%	6.5%	24.0%	29.0%	21.4%	3.6%	2.5%	9.7%	9.8%
	④国内外との交流活動(中学生の海外派遣事業、茨城県大洗町など友好都市や他自治体との交流等)	4.7%	14.6%	38.9%	3.6%	1.5%	28.7%	8.0%	12.5%	26.5%	32.0%	4.7%	2.9%	9.9%	11.3%
	⑤観光・レクリエーションを盛んにするための取組	2.3%	9.0%	42.6%	9.0%	3.9%	25.1%	8.1%	12.0%	23.7%	35.2%	6.1%	3.2%	9.0%	10.8%
分野5	①生涯学習に取り組める環境(学習機会の提供、リーダーの育成、施設の整備充実等)	2.7%	14.3%	40.5%	5.0%	1.6%	28.3%	7.6%	16.4%	27.6%	29.5%	2.7%	1.9%	11.0%	11.0%
	②青少年の健全育成に向けた取組(家庭や地域の教育力の向上等)	2.2%	12.7%	45.3%	4.6%	1.3%	25.4%	8.5%	19.8%	33.6%	25.3%	1.2%	0.6%	9.0%	10.6%
	③芸術や文化活動を盛んにするための取組(団体の育成、鑑賞・発表機会の充実等)	1.9%	10.5%	45.0%	5.6%	4.1%	24.4%	8.4%	11.5%	27.7%	34.7%	3.9%	1.9%	9.7%	10.6%
	④文化遺産(遺跡、文化財、伝統芸能等)の保存・活用	2.6%	10.9%	44.9%	4.9%	2.1%	26.4%	8.2%	14.4%	28.8%	31.7%	3.0%	1.6%	9.7%	10.8%
	⑤スポーツに親しむことのできる環境(団体の育成、施設の整備充実等)	3.6%	20.0%	40.1%	6.3%	3.5%	18.1%	8.3%	16.0%	33.7%	28.0%	2.5%	1.4%	7.6%	10.9%
分野6	①公園・緑地・水辺空間の整備	9.7%	36.5%	28.2%	6.3%	2.7%	8.0%	8.7%	25.5%	38.9%	16.8%	2.7%	0.6%	3.7%	11.7%
	②緑化空間の形成に向けた取組(公共施設の緑化、平地林の保全活動等)	6.7%	26.3%	36.5%	5.1%	1.6%	14.6%	9.1%	21.2%	34.9%	23.2%	2.6%	0.6%	5.6%	12.0%
	③ごみ処理やリサイクル運動の取組(ごみの収集・運搬方法等)	12.7%	39.8%	24.4%	6.1%	2.0%	7.3%	7.7%	38.6%	35.0%	11.5%	0.6%	0.1%	3.5%	10.8%
	④墓地の需要に応じた霊園(上三川霊園)の整備	4.9%	12.0%	38.0%	2.5%	0.9%	33.8%	7.8%	13.2%	26.5%	29.4%	2.8%	1.5%	15.3%	11.2%
	⑤環境の保全に向けた取組(公害の防止、新エネルギーの普及促進等)	3.0%	12.5%	43.0%	4.4%	1.8%	26.8%	8.4%	24.0%	29.5%	24.0%	0.7%	0.5%	10.3%	11.1%
	⑥美しい景観づくりに向けた取組	4.7%	14.5%	43.7%	6.8%	2.6%	19.1%	8.7%	21.5%	30.9%	24.7%	2.2%	1.5%	7.8%	11.3%
分野7	①コミュニティ活動の活性化に向けた取組(小学校区単位・自治会単位の地域活動等)	6.4%	20.6%	38.6%	4.2%	2.2%	20.0%	8.0%	18.6%	33.2%	24.6%	2.9%	1.8%	8.2%	10.8%
	②男性・女性がともに協力しあいがら暮らしやすい環境づくり	3.5%	17.5%	43.2%	5.5%	2.5%	19.5%	8.3%	21.4%	34.7%	22.9%	1.9%	1.3%	7.0%	10.8%
	③多くの人が人権問題に気づき差別に対して適切な対応ができる環境づくり	2.6%	15.3%	42.5%	4.9%	2.7%	23.3%	8.8%	27.0%	29.2%	21.8%	1.4%	1.4%	7.8%	11.3%
分野8	①町民と行政がともに手を携えてまちづくりを進める環境づくり	3.3%	14.9%	41.3%	6.3%	2.8%	22.8%	8.7%	26.1%	32.5%	20.9%	0.8%	0.8%	8.2%	10.6%
	②安全で高度な情報ネットワーク化を進める環境づくり	2.6%	13.5%	41.5%	5.7%	2.8%	25.3%	8.7%	22.0%	32.3%	23.7%	1.5%	0.9%	8.5%	11.0%
	③行政改革に関する取組(庁内の組織や事務事業、公共施設の見直し等)	2.5%	11.6%	39.8%	5.7%	4.3%	27.4%	8.8%	22.3%	30.6%	22.9%	0.9%	0.9%	11.2%	11.0%

参考：満足度と重要度の相関の把握



[結果概要]

- ・満足度が高く重要度が高い施策として“安全な上水道” “適切な下水道” “ごみ処理やリサイクルの取組” “健康・保健の体制” について、継続的な取組が期待される結果となっている。
- ・満足度が低く重要度が高い施策として“防犯体制” “交通安全対策” “福祉厚生の取組” について、重点的な取組が期待される結果となっている。

## 5 日ごろの行動などについて

### 1) 町のマスコットキャラクター【問12(1):単数回答】

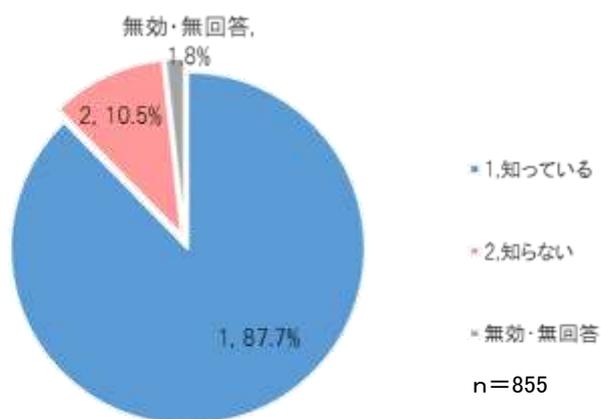
●マスコットキャラクターを“知っている”が87.7%

#### [結果概要]

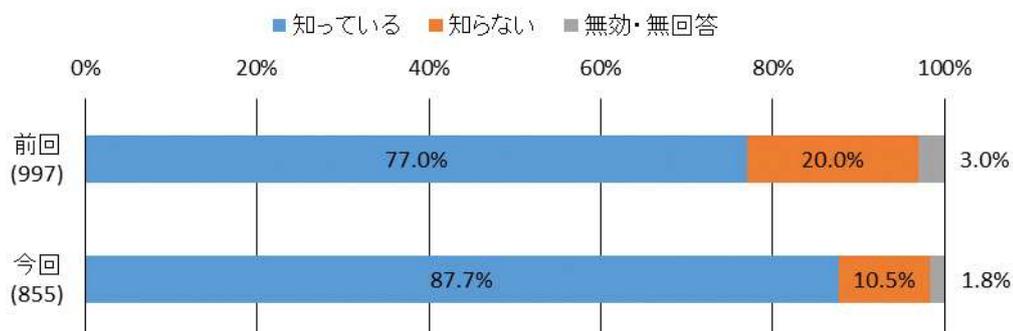
- ・前回結果との比較において認知度は高まる傾向にある。
- ・女性や10代・40代で認知度が高い傾向にある。



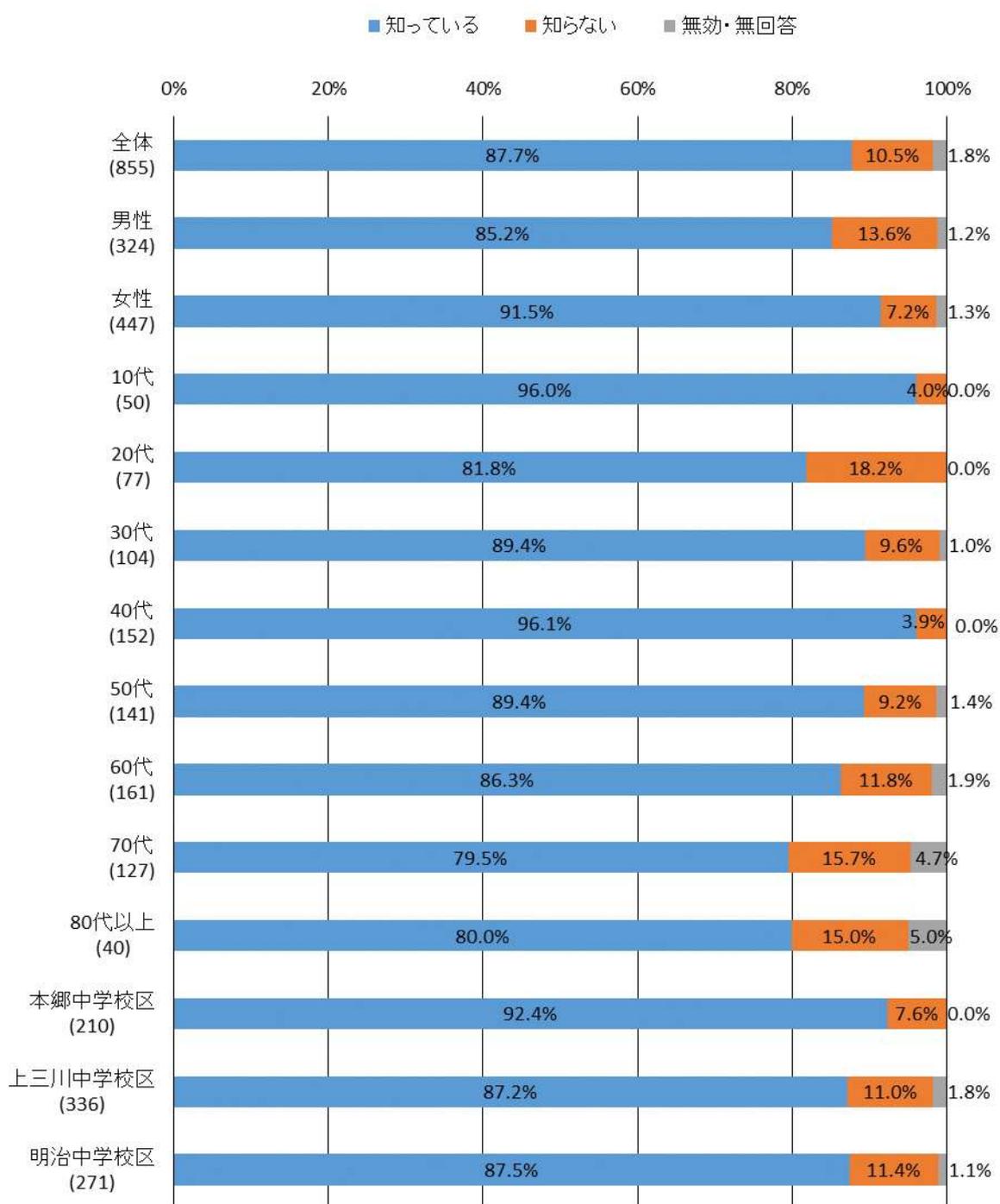
図表 町のマスコットキャラクター（全体）



#### 前回調査結果等との比較



図表 町のマスコットキャラクター（性別、年代別、居住地区別）



## 2) 広報かみのかわ【問12(2):単数回答】

- “いつも読んでいる”が47.5%で最多、“読んでいる”の合計は約85%

### [結果概要]

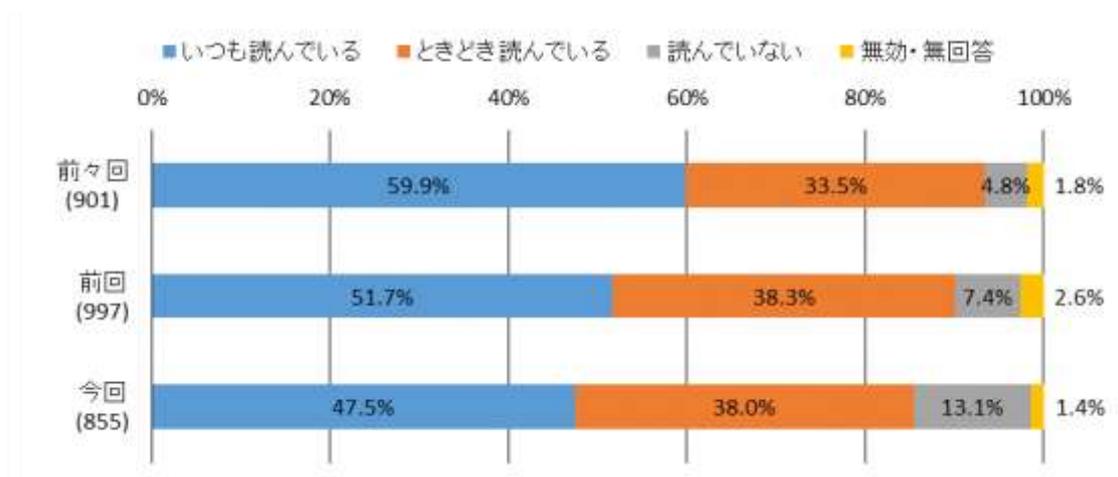
- ・ 前回結果との比較において“いつも読んでいる”割合が低下の傾向にある。
- ・ 年代が上がるにつれて“いつも読んでいる”の割合が高まる傾向にある。



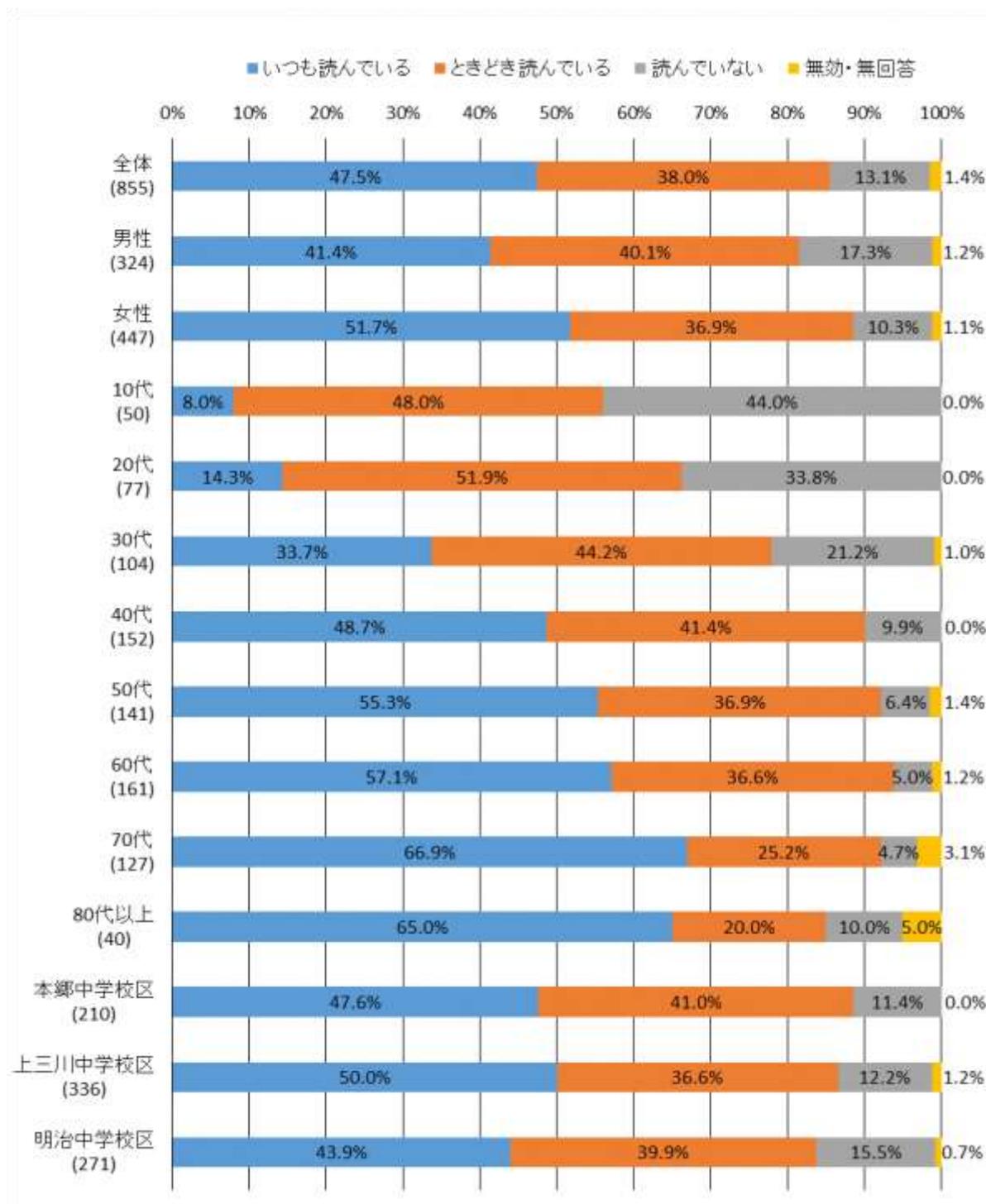
図表 広報かみのかわ（全体）



### 前回調査結果等との比較



図表 広報かみのかわ（性別、年代別、居住地区別）



### 3) インターネットを利用できる環境【問12(3):複数回答】

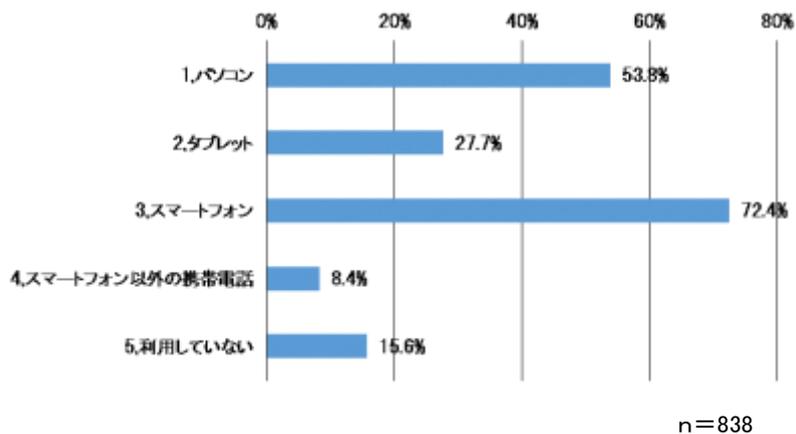
●インターネットを利用できる環境は“スマートフォン”が72.4%で最多

#### [結果概要]

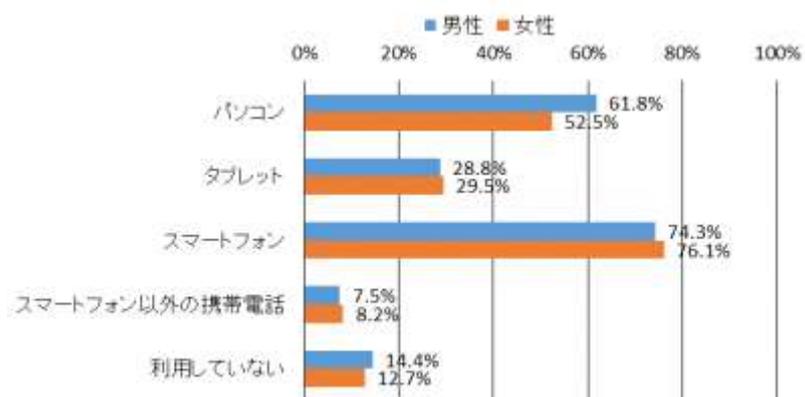
- ・40代は“パソコン”、20代・30代は“タブレット”の回答が多い傾向にある。
- ・60代以上は“スマートフォン以外の携帯電話”“利用していない”の回答が多い傾向にある。



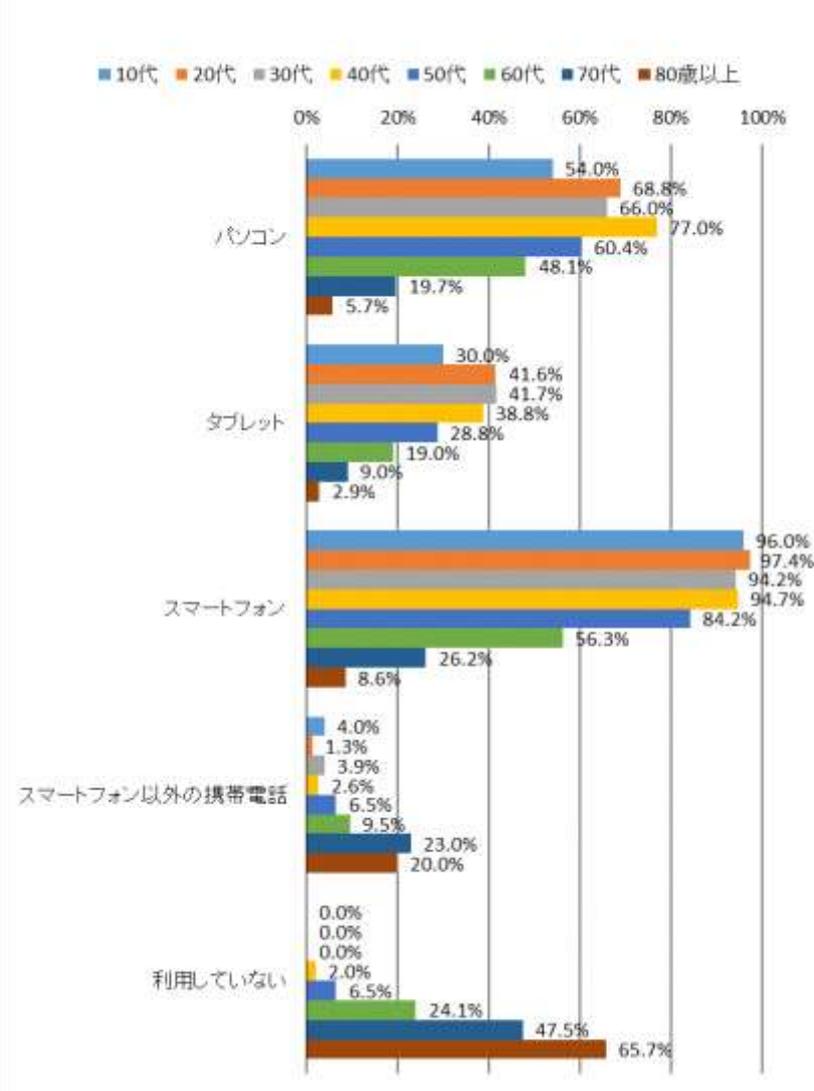
図表 インターネットを利用できる環境（全体）



図表 インターネットを利用できる環境（性別）



図表 インターネットを利用できる環境（年代別）



#### 4) 町のホームページ【問12(4):単数回答】

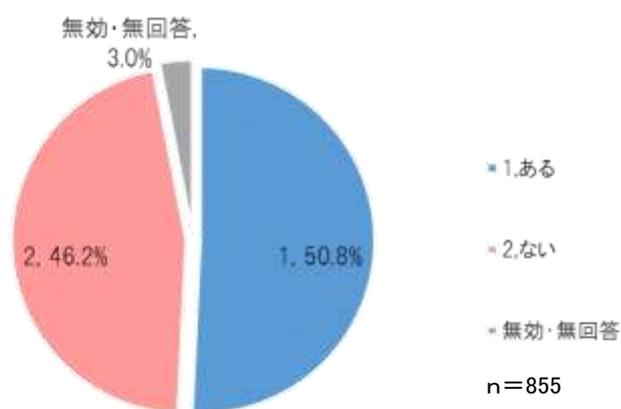
●ホームページをご覧になったことが“ある”が50.8%、“ない”が46.2%

##### [結果概要]

- ・前回結果との比較において“ホームページの閲覧”の割合が高まる傾向にある。
- ・30代・40代において“ホームページの閲覧”の割合が高い傾向にある。



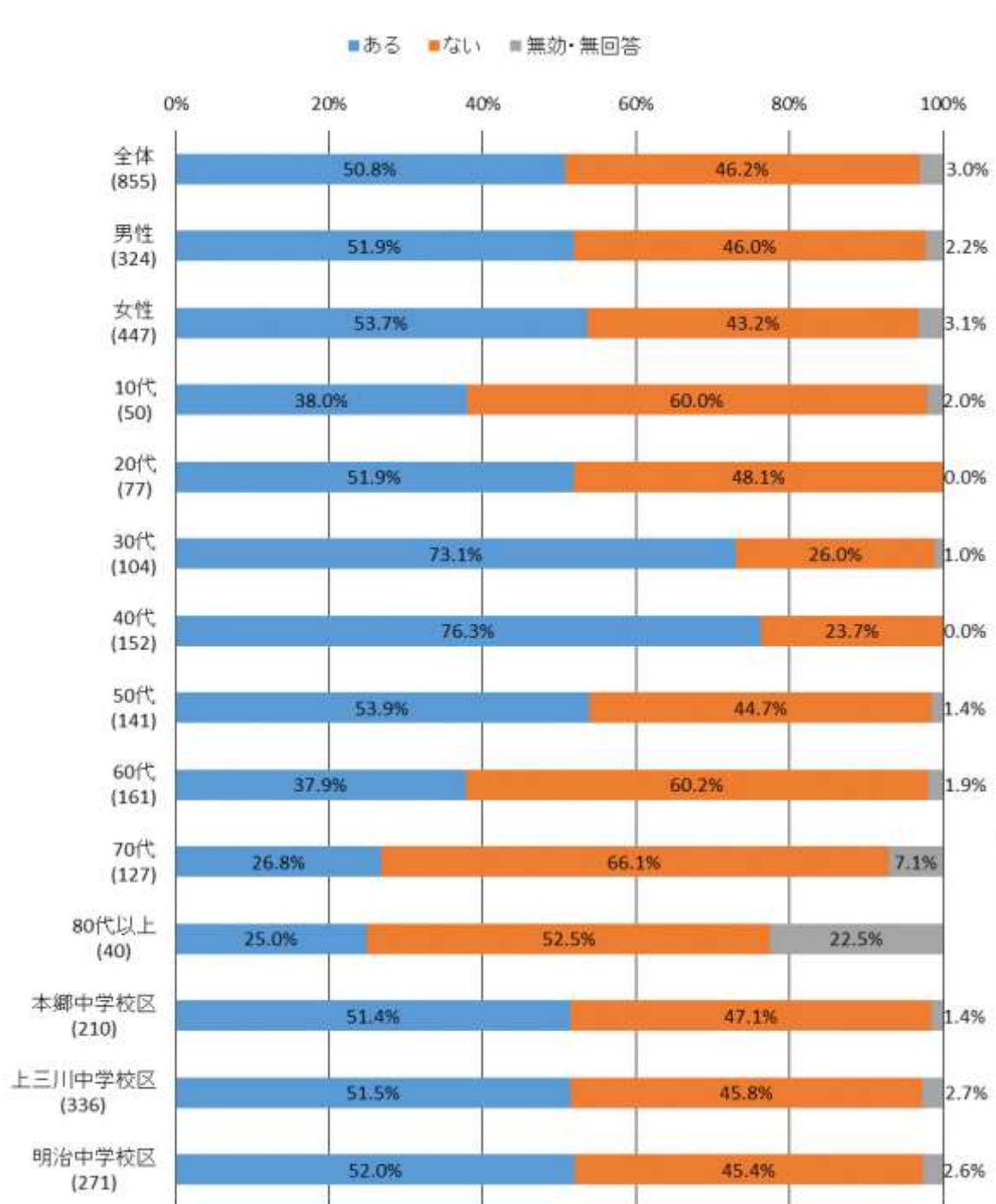
図表 町のホームページ（全体）



##### 前回調査結果等との比較



図表 町のホームページ（性別、年代別、居住地区別）



## 5) 上三川町のSNS【問12(5):複数回答】

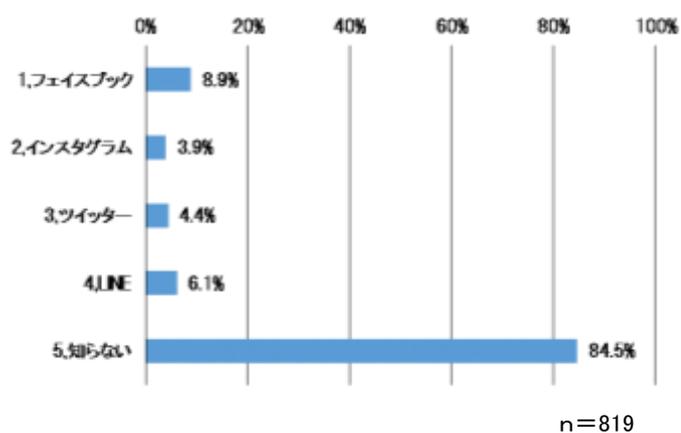
●上三川町のSNSの取組は“知らない”が84.5%で最多

### [結果概要]

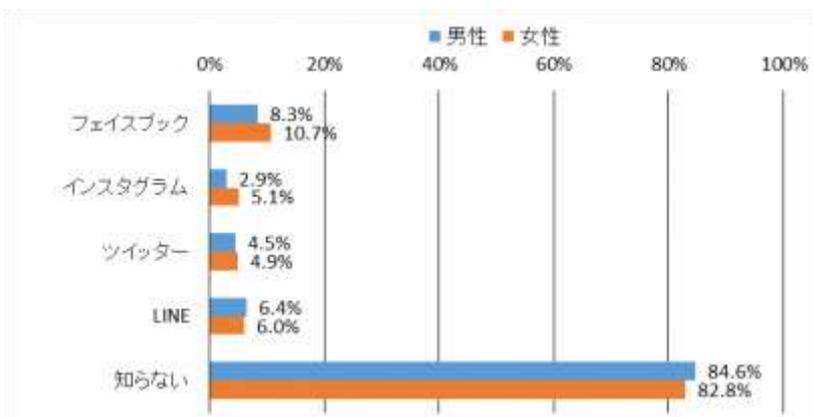
- ・30代・40代において“フェイスブック”への認知度が高い傾向にある。
- ・10代において“ツイッター”、20代・40代において“LINE”への認知度が高い傾向にある。



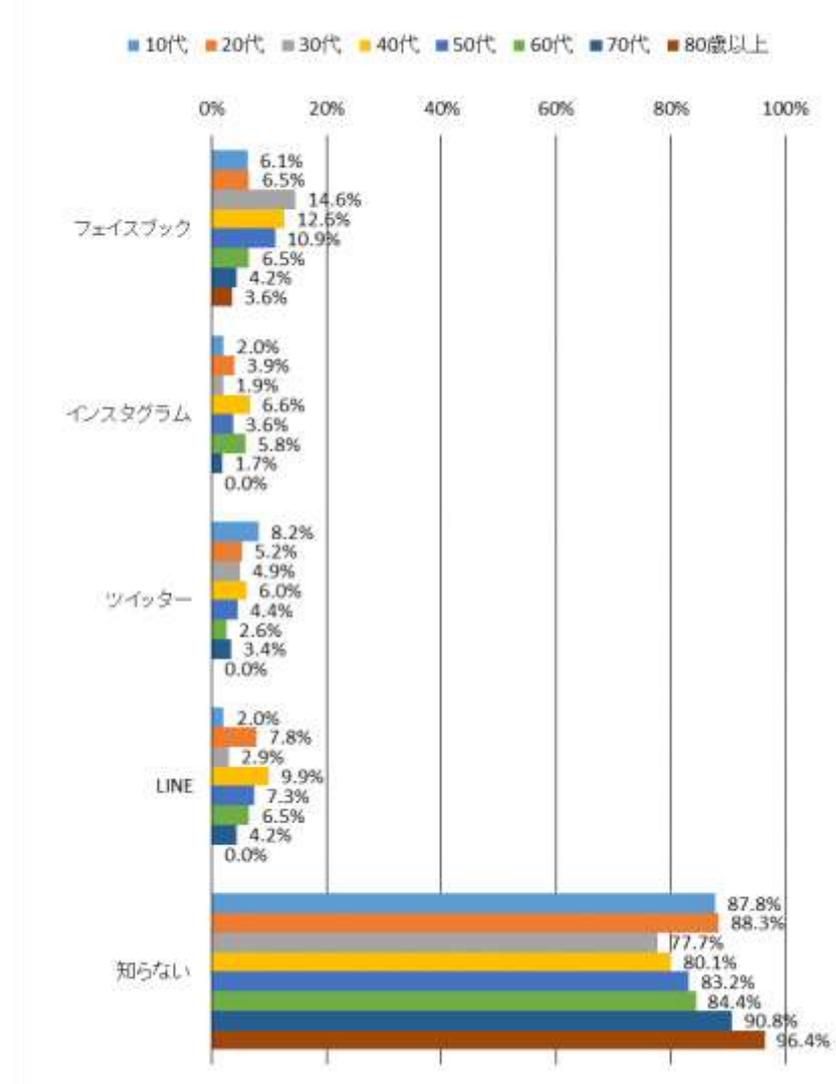
図表 上三川町のSNS（全体）



図表 上三川町のSNS（性別）



図表 上三川町のSNS（年代別）



6) 上三川町情報メール【問12(6):単数回答】

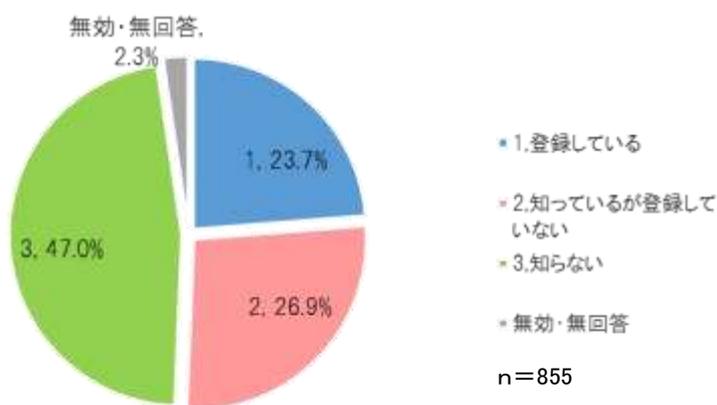
●上三川町情報メールを“知らない”が47.0%で最多、“登録している”は23.7%

[結果概要]

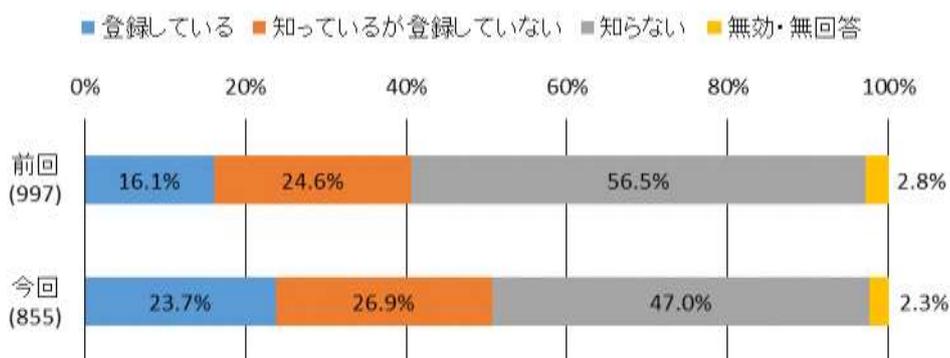
- ・前回結果との比較において“登録している”割合が増え“知らない”割合が低下している。
- ・女性や30代・40代において“登録している”割合が高い傾向にある。



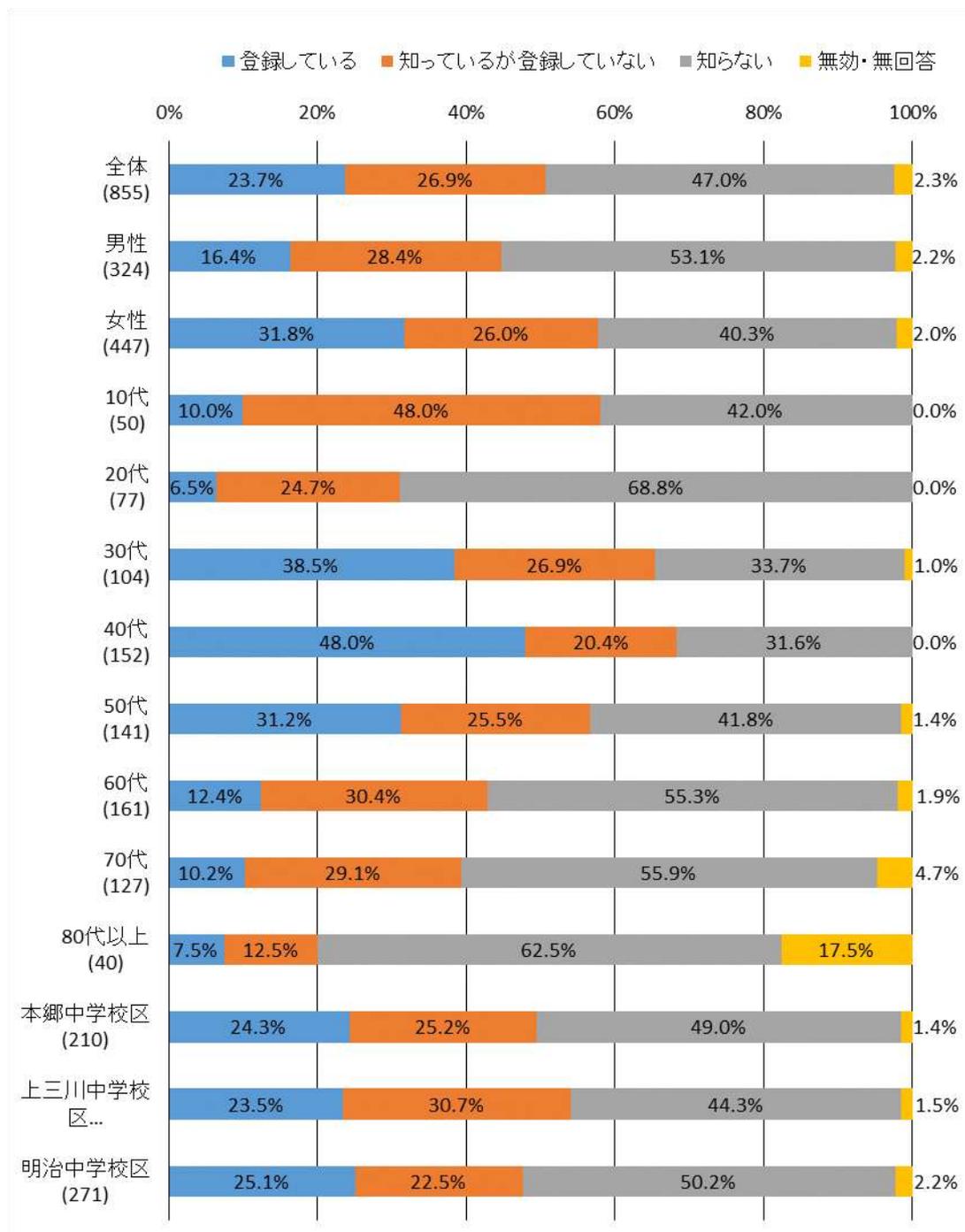
図表 上三川町情報メール（全体）



前回調査結果等との比較



図表 上三川町情報メール（性別、年代別、居住地区別）



## 7) 身近な地域での見守り・支え合い【問12(7):単数回答】

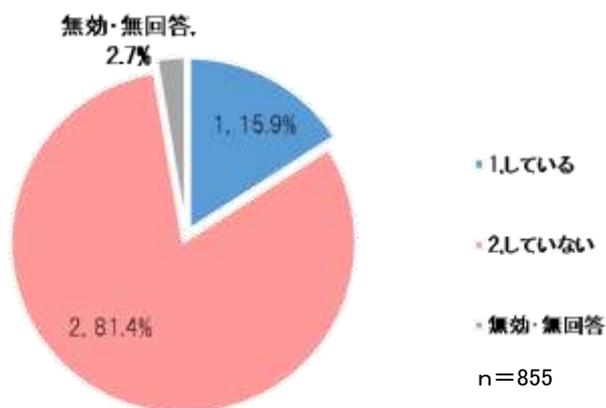
●地域福祉活動に参加“していない”が81.4%

### [結果概要]

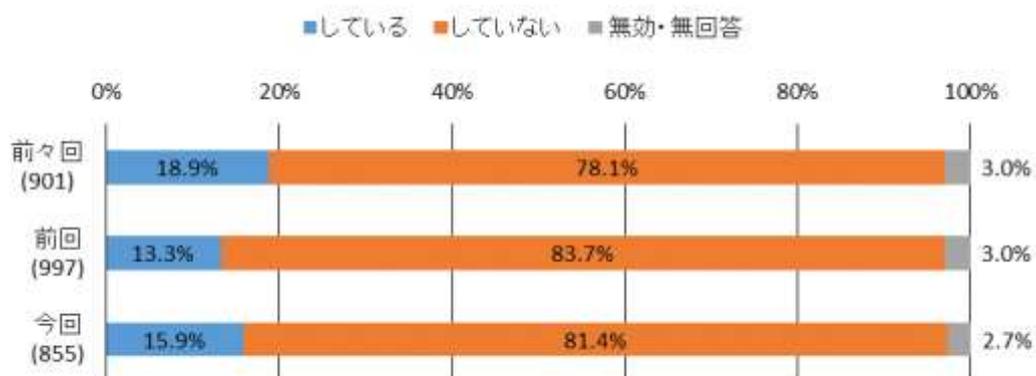
- ・前回結果との比較において大きな変化はない。
- ・10代・40代・60代以上や本郷中学校区において“活動している”割合が高い傾向にある。



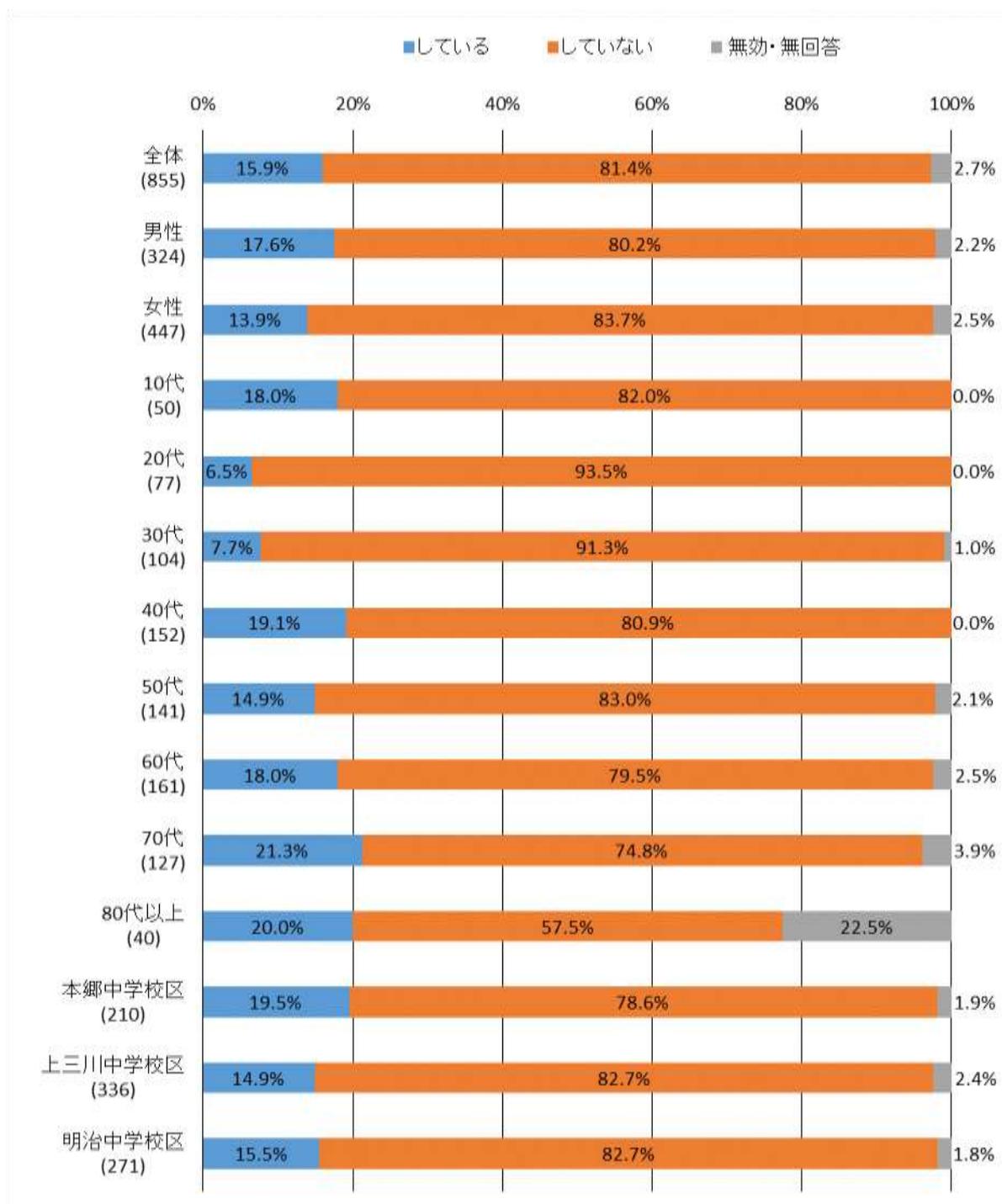
図表 身近な地域での見守り・支え合い（全体）



### 前回調査結果等との比較



図表 身近な地域での見守り・支え合い（性別、地区別、居住地区別）



## 8) 健康増進のための取組【問12(8): 単数回答】

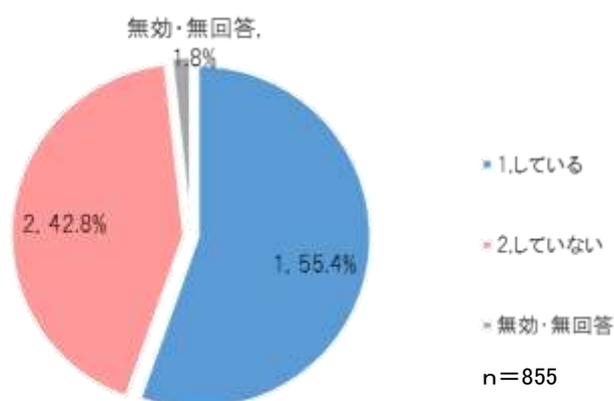
●健康増進のための取組を“している”が55.4%

### [結果概要]

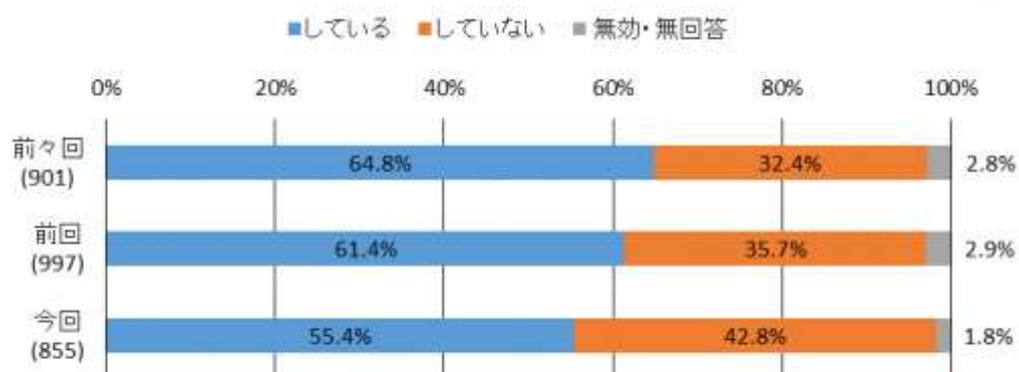
- ・前回結果との比較において“取組をしている”割合は低下の傾向にある。
- ・10代・70代や本郷中学校区において“取組をしている”割合が高い傾向にある。



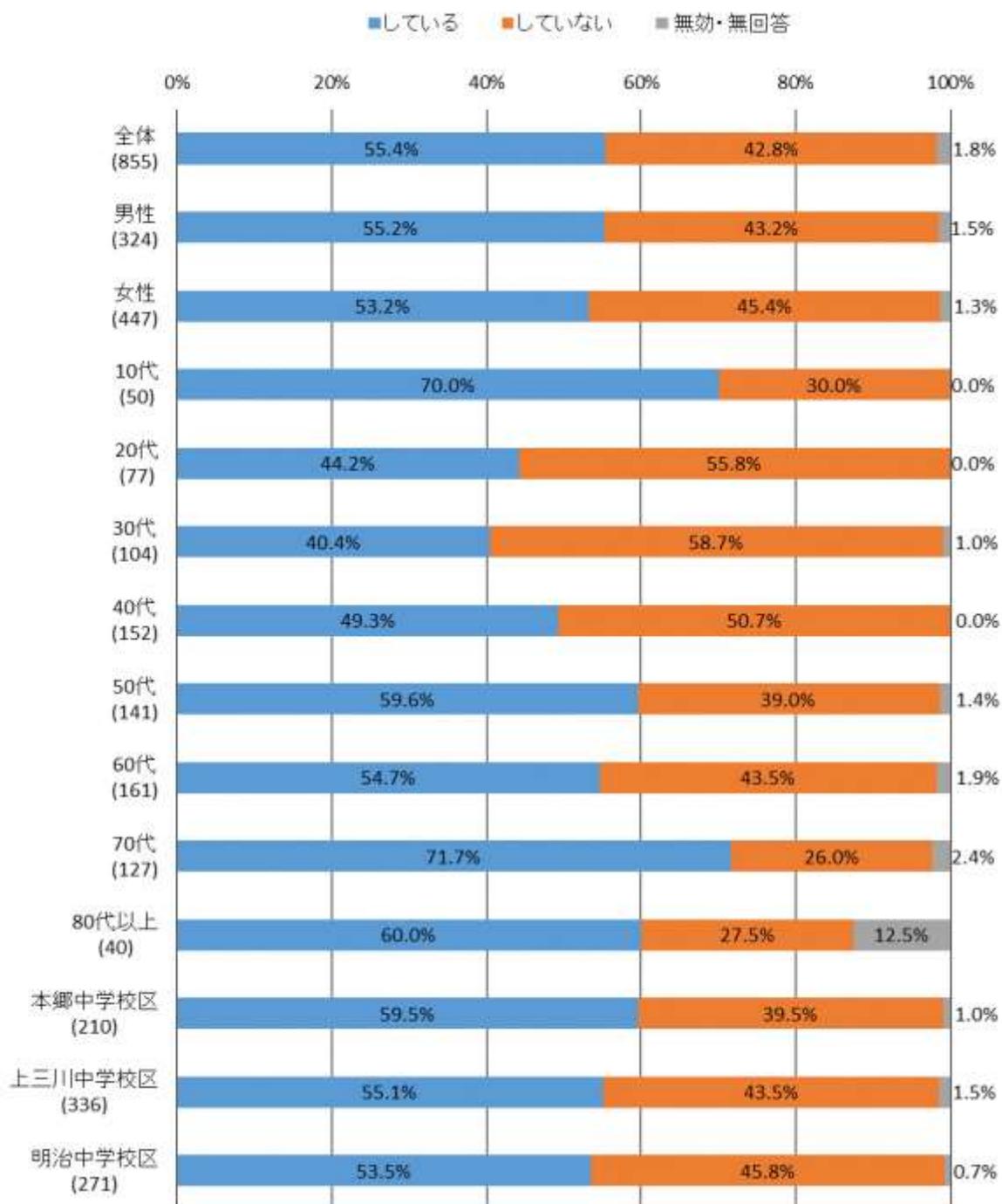
図表 健康増進のための取組（全体）



### 前回調査結果等との比較



図表 健康増進のための取組（性別、年代別、居住地区別）



9) かかりつけ医【問12(9)：単数回答】

● かかりつけ医が“いる”が74.5%

【結果概要】

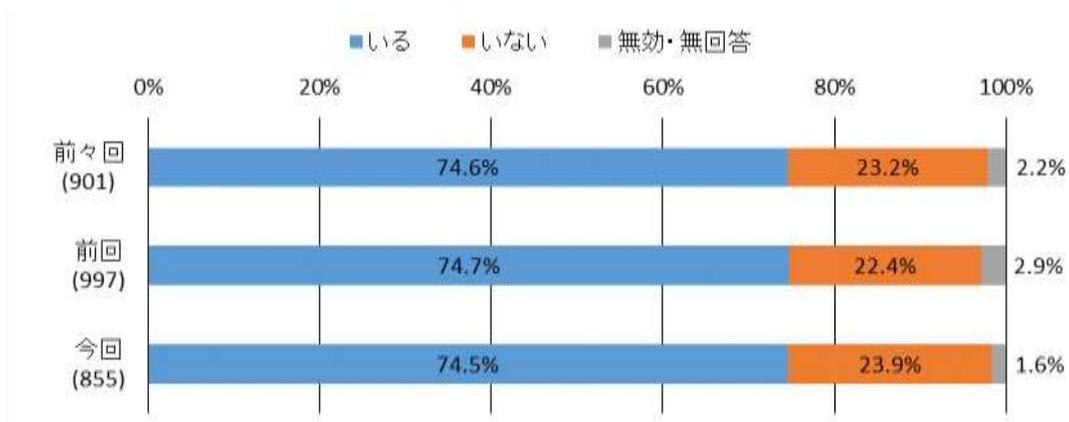
- ・ 前回結果との比較において大きな変化はない。
- ・ 年代が上がるにつれて“かかりつけ医がいる”割合が高まる傾向にある。



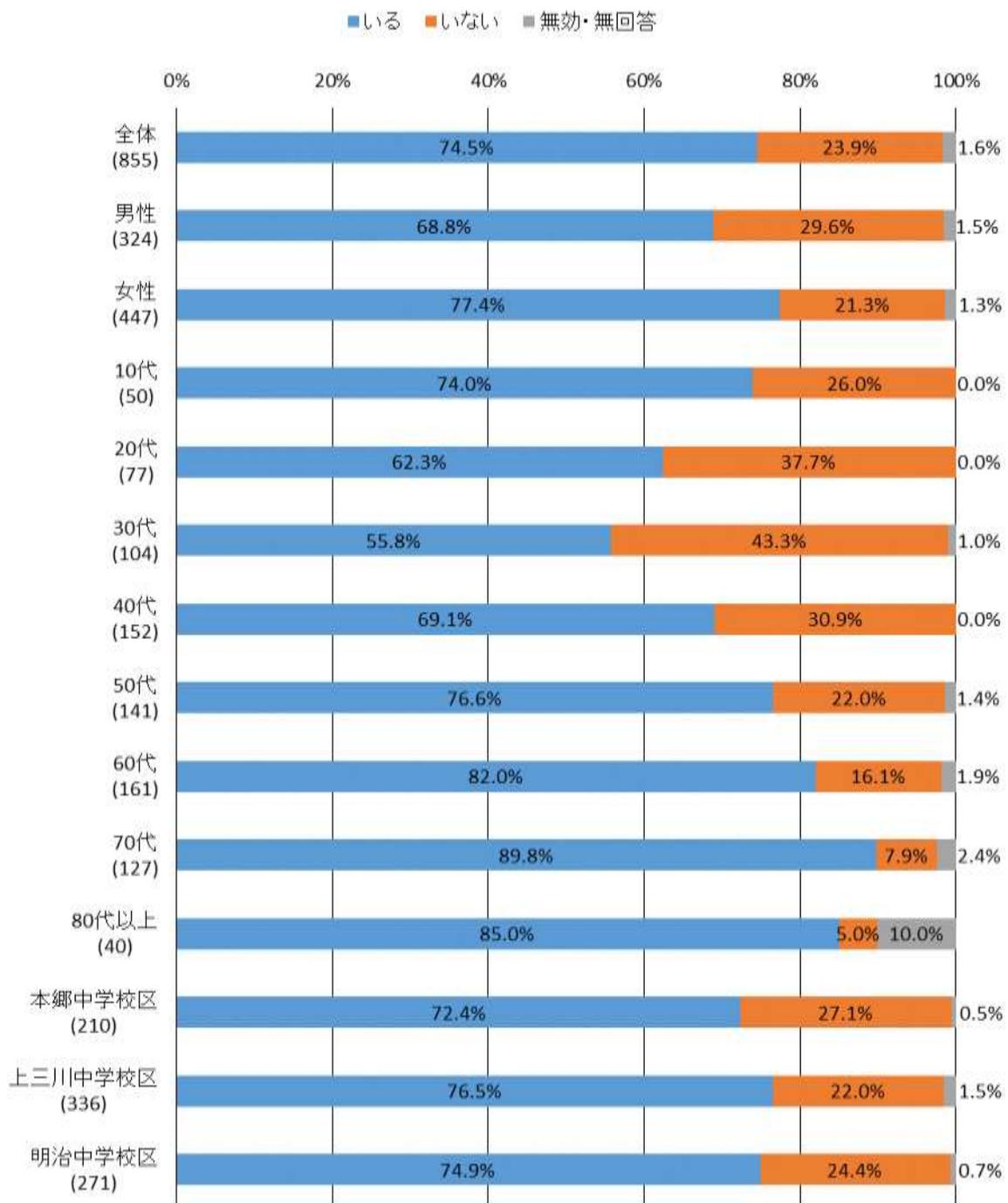
図表 かかりつけ医（全体）



前回調査結果等との比較



図表 かかりつけ医（性別、年代別、居住地区別）



10) 児童相談所への通告義務【問12(10):単数回答】

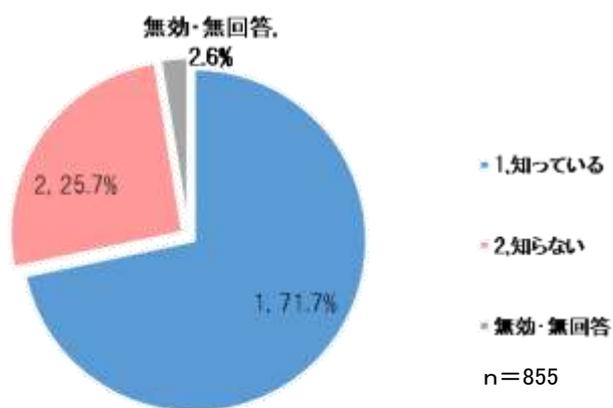
●虐待を発見した時の通告義務を“知っている”が71.7%

[結果概要]

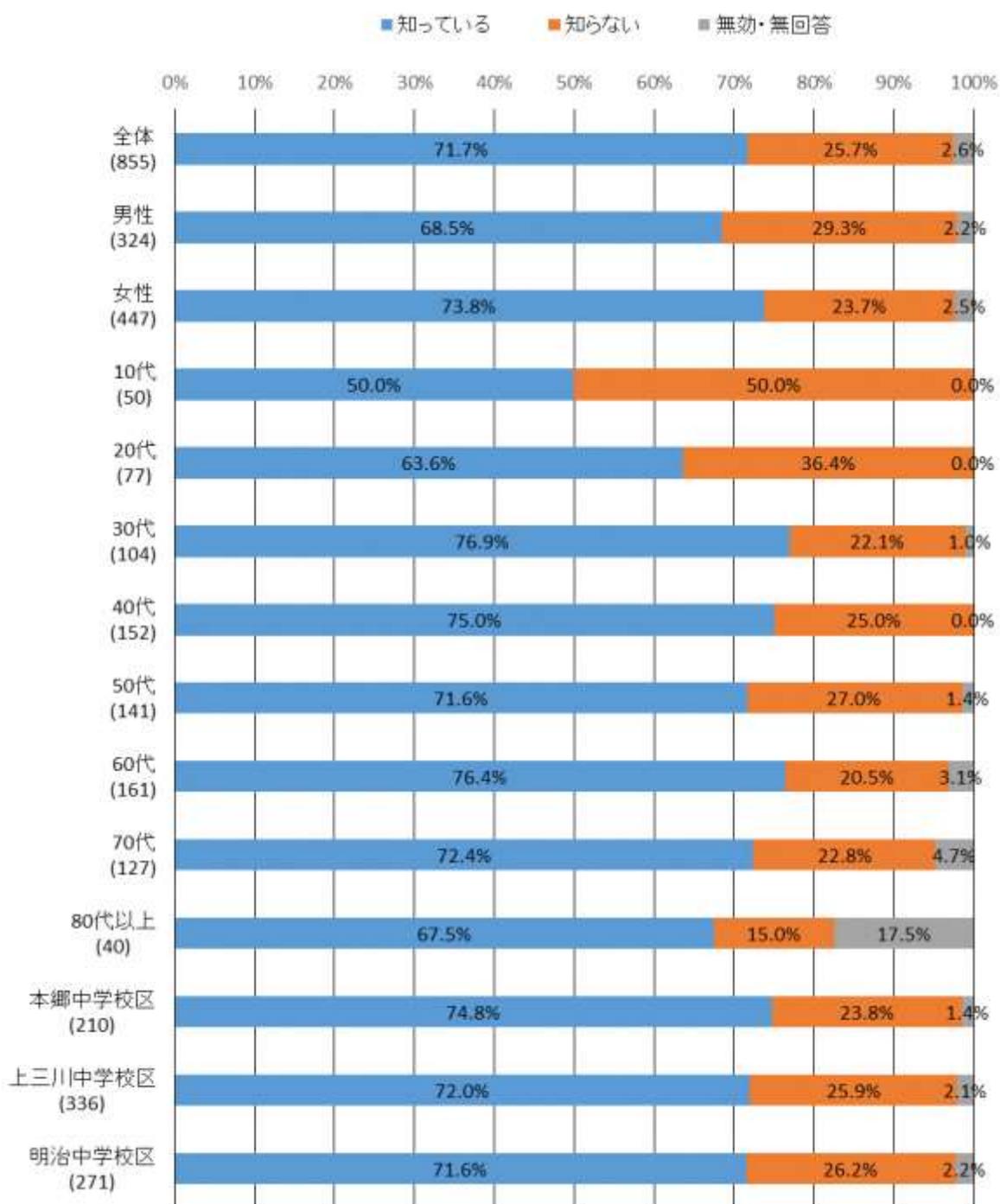
・30代・40代・60代において“通告義務”に対する認知度が高い割合にある。



図表 児童相談所への通告義務（全体）



図表 児童相談所への通告義務（性別、年代別、居住地区別）



1 1) 町内の商店（大型店以外）での買い物【問12（11）：単数回答】

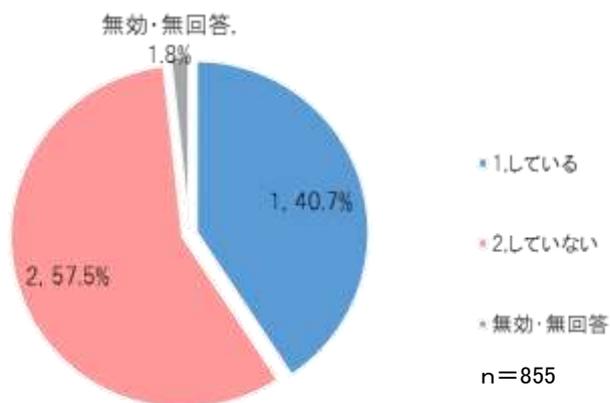
●町内の商店での買い物を“していない”が57.5%

[結果概要]

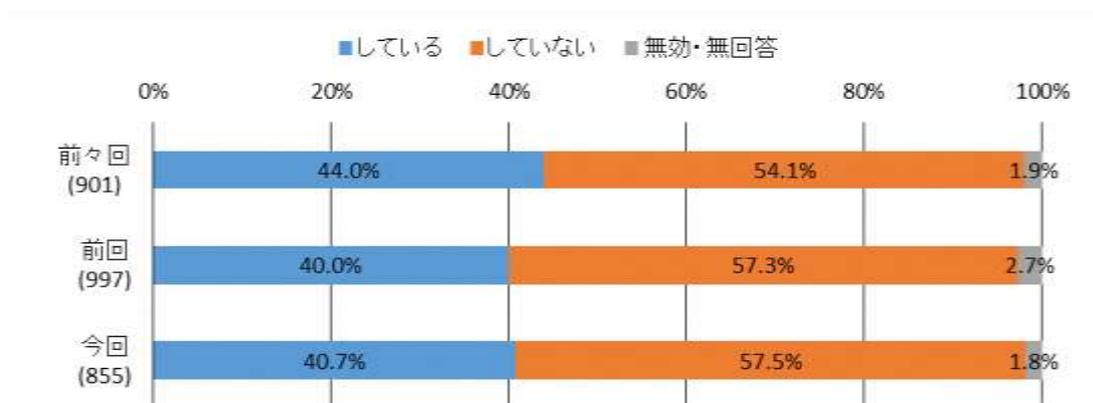
- ・前回結果との比較において買い物を“していない”傾向がやや高まる傾向にある。
- ・年代が上がるにつれて買い物を“している”割合が高まる傾向にある。
- ・上三川中学校区において買い物を“している”割合が高い傾向にある。



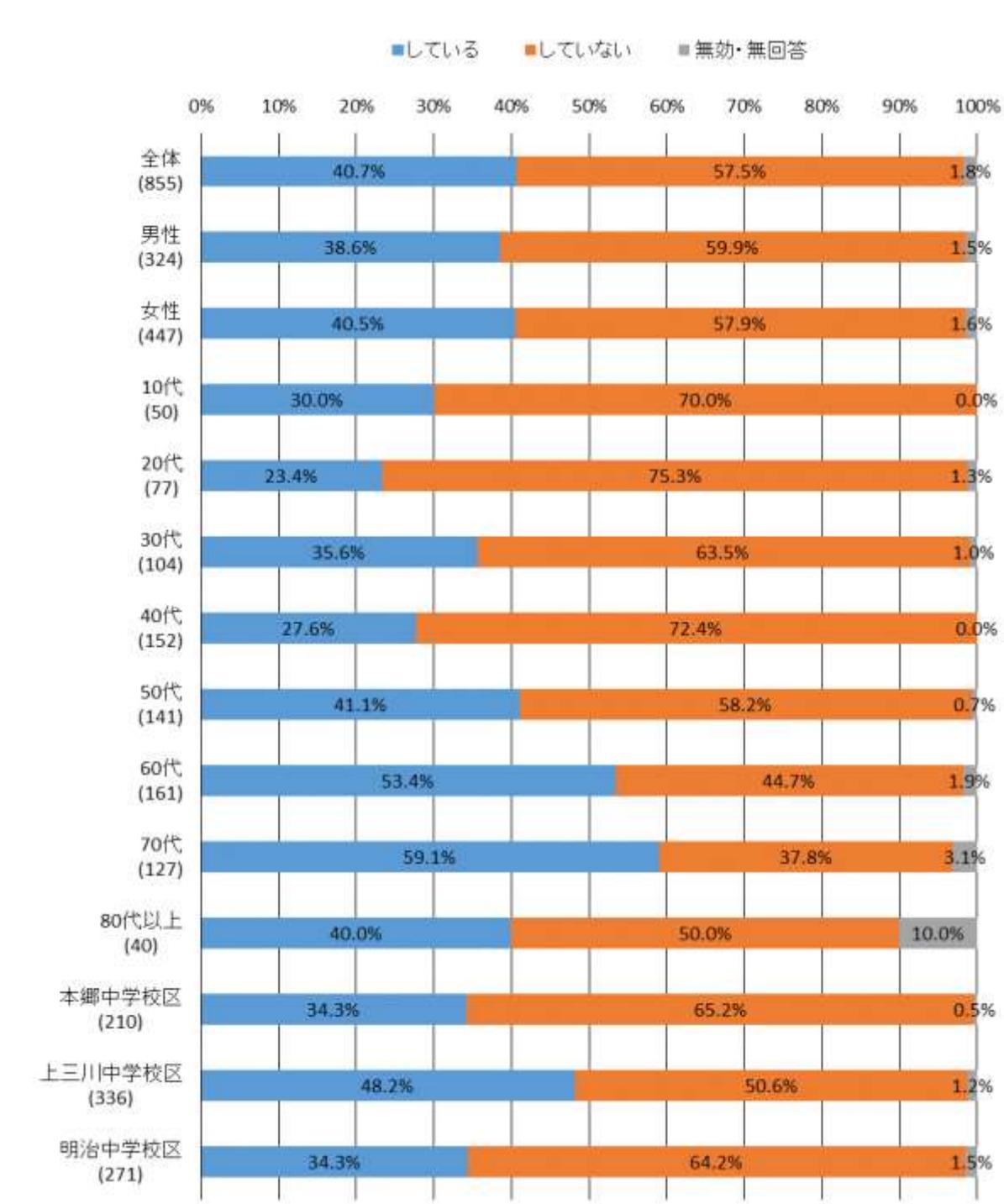
図表 町内の商店（大型店以外）での買い物（全体）



前回調査結果等との比較



図表 町内の商店（大型店以外）での買い物（性別、年代別、居住地区別）



## 12)「かみのかわブランド品」の購入【問12(12):単数回答】

- 「かみのかわブランド品」を“知らない”が53.2%で最多

### [結果概要]

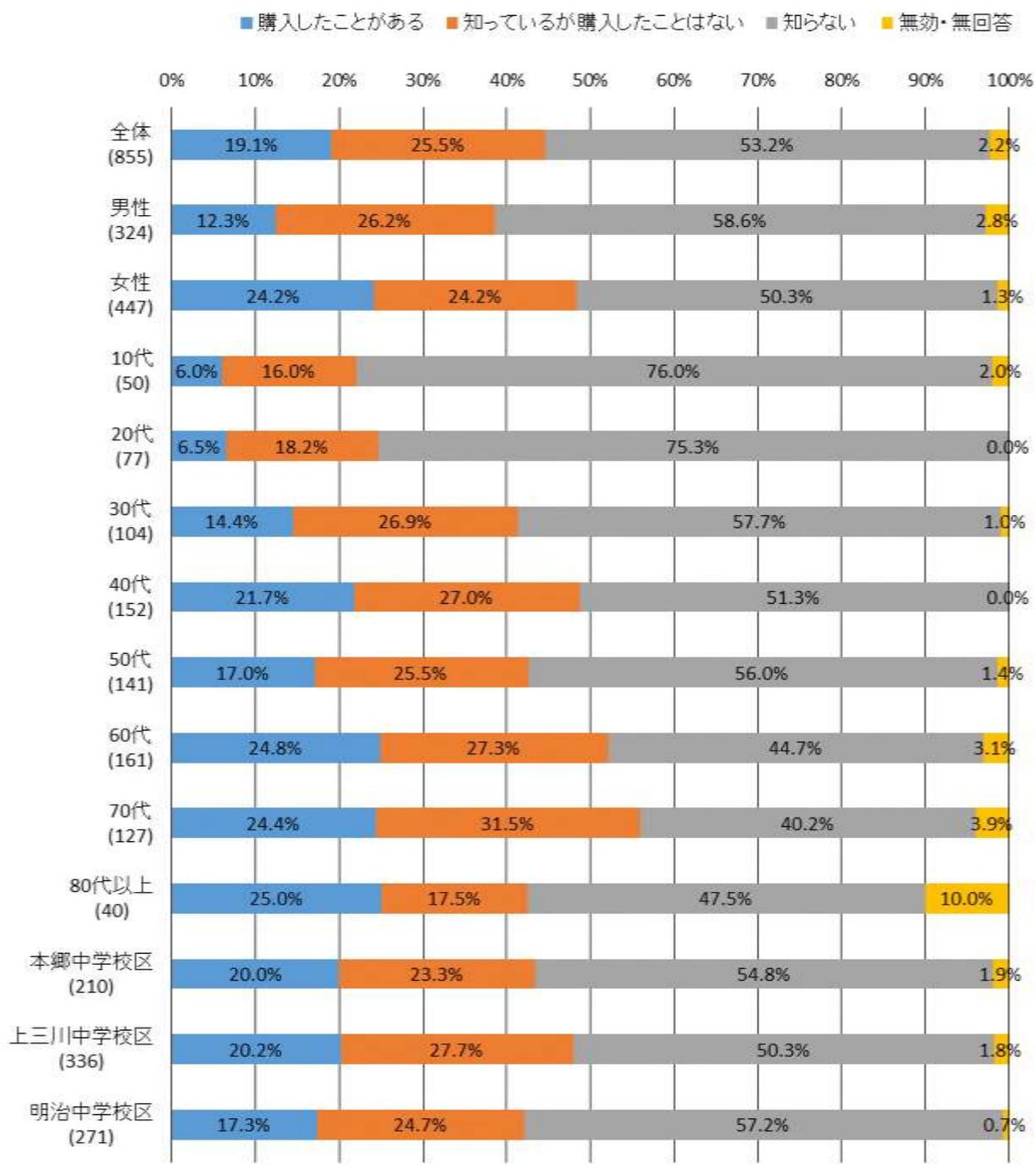
- ・女性において“購入したことがある”の回答が多い傾向にある。
- ・60代・70代・80代以上において“購入したことがある”の回答が多い傾向にある。
- ・年代が下がるにつれて“知らない”の回答割合が高まる傾向にある。



図表 「かみのかわブランド品」の購入（全体）



図表 「かみのかわブランド品」の購入（性別、年代別、居住地区別）



### 13) 上三川町のお祭り【問12(13): 複数回答】

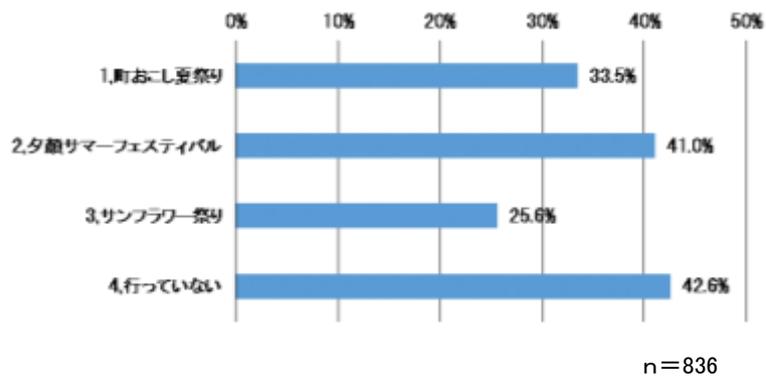
●直近の3年間で上三川町のお祭りには“行っていない”が42.6%で最多

#### [結果概要]

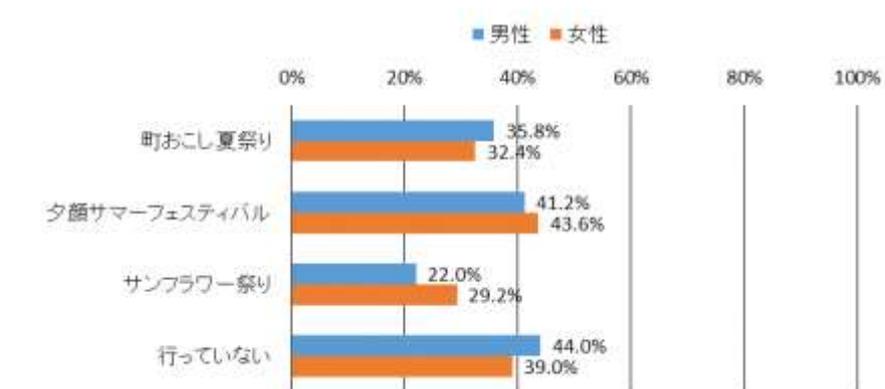
- ・10代において“町おこし夏祭り”“夕顔サマーフェスティバル”に行ったことがあるの回答が多い傾向にある。
- ・20代・50代において“行っていない”の回答が多い傾向にある。



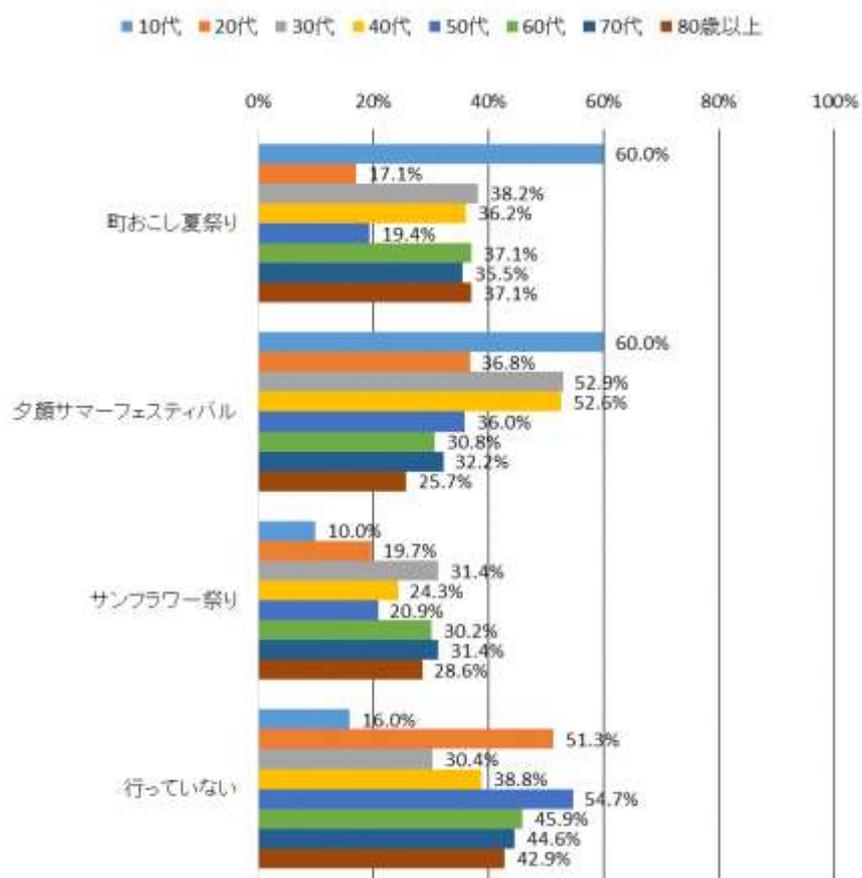
図表 上三川町のお祭り（全体）



図表 上三川町のお祭り（性別）



図表 上三川町のお祭り（年代別）



#### 1 4) 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動【問 1 2 ( 1 4) : 単数回答】

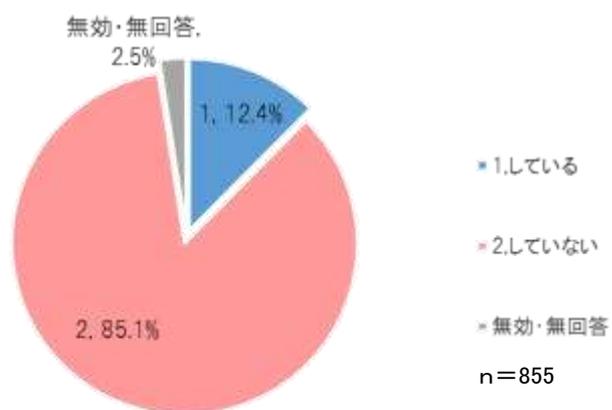
●生涯学習活動を“していない”が 85.1%

##### [結果概要]

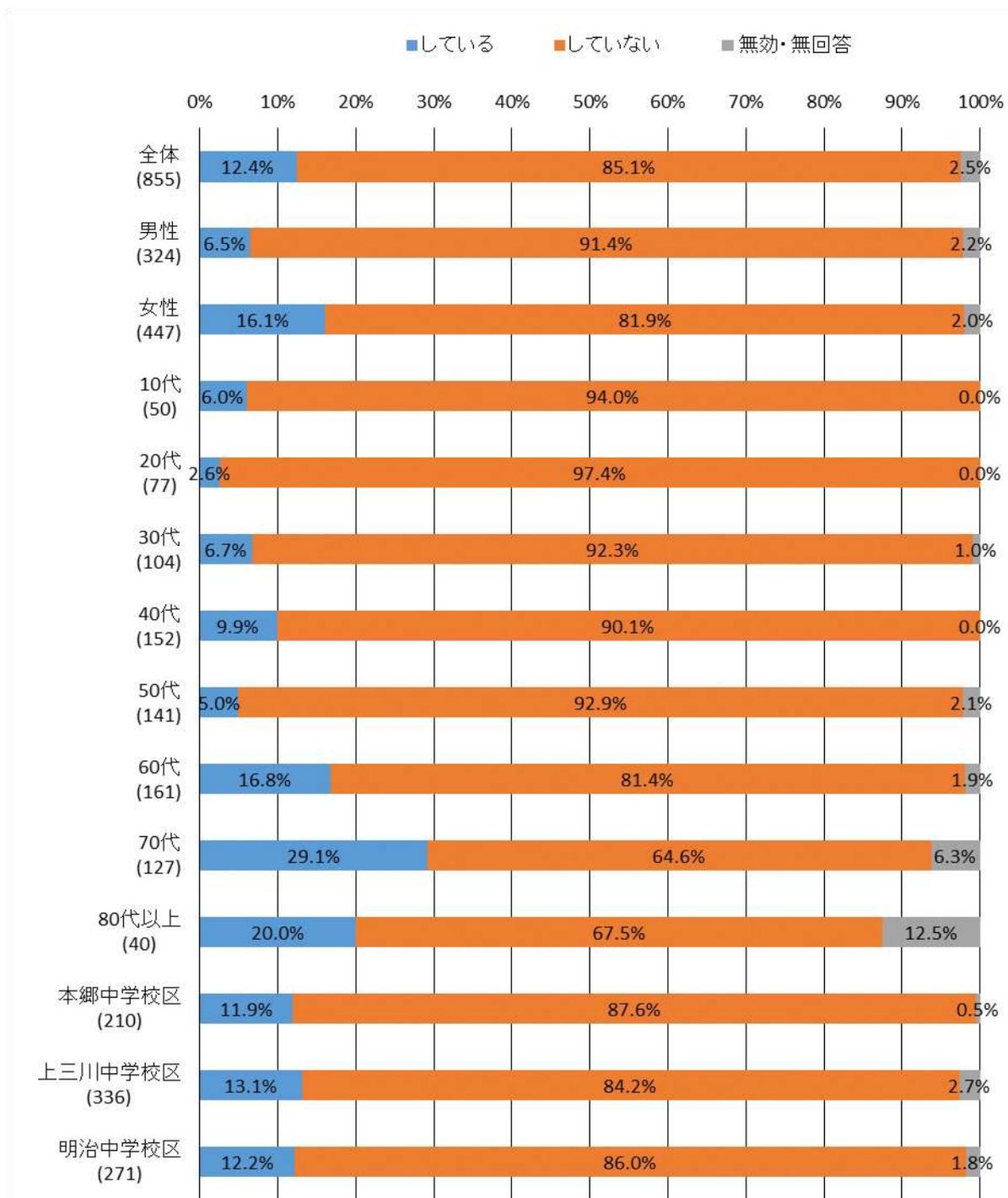
・女性や60代・70代・80代以上で“利用している”割合が高い傾向にある。



図表 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動（全体）



図表 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動（性別、年代別、居住地区別）



15) 週1回以上のスポーツ活動【問12(15):単数回答】

●週1回以上のスポーツ活動を“していない”が72.5%

【結果概要】

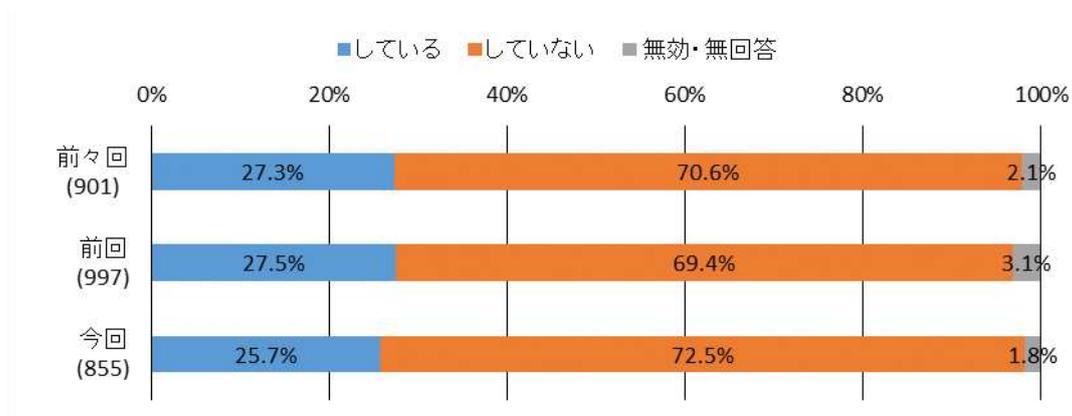
- ・前回結果との比較において“活動していない”割合がやや高まる傾向にある。
- ・男性や10代・60代・70代で“活動している”割合が高い傾向にある。



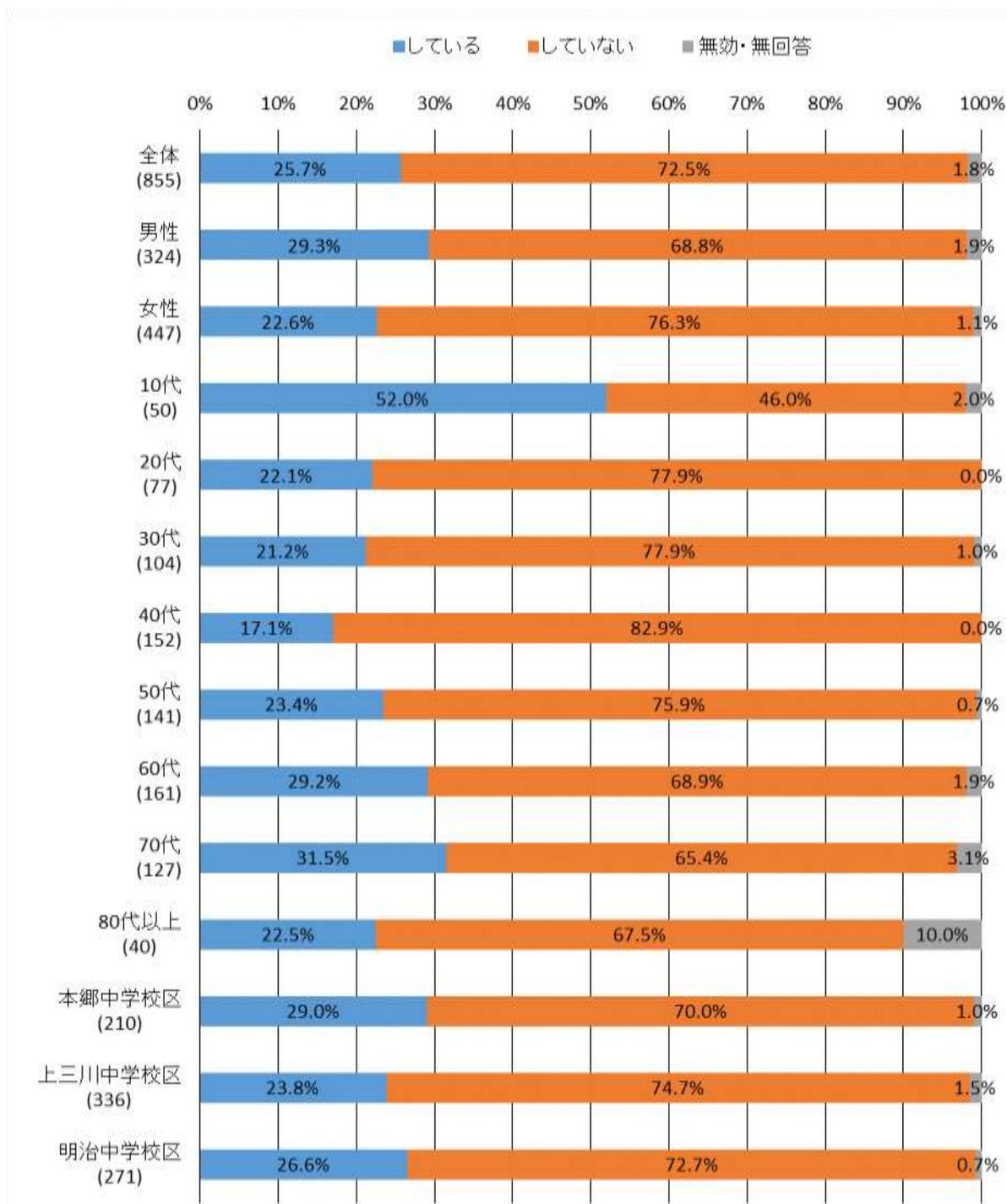
図表 週1回以上のスポーツ活動（全体）



前回調査結果等との比較



図表 週1回以上のスポーツ活動（性別、年代別、居住地区別）



16) 国民体育大会でのフェンシング競技開催地【問12(16):単数回答】

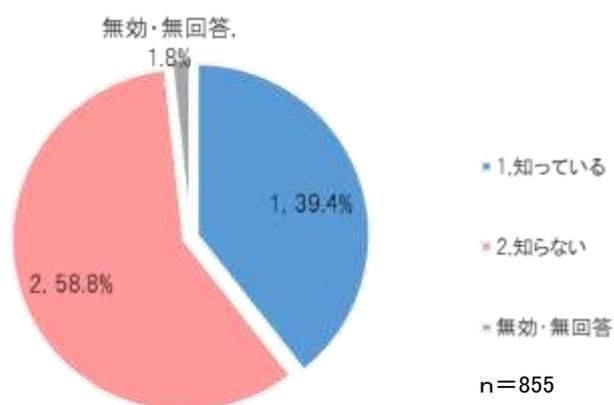
●上三川町が国体のフェンシング会場であることを“知らない”が58.8%

[結果概要]

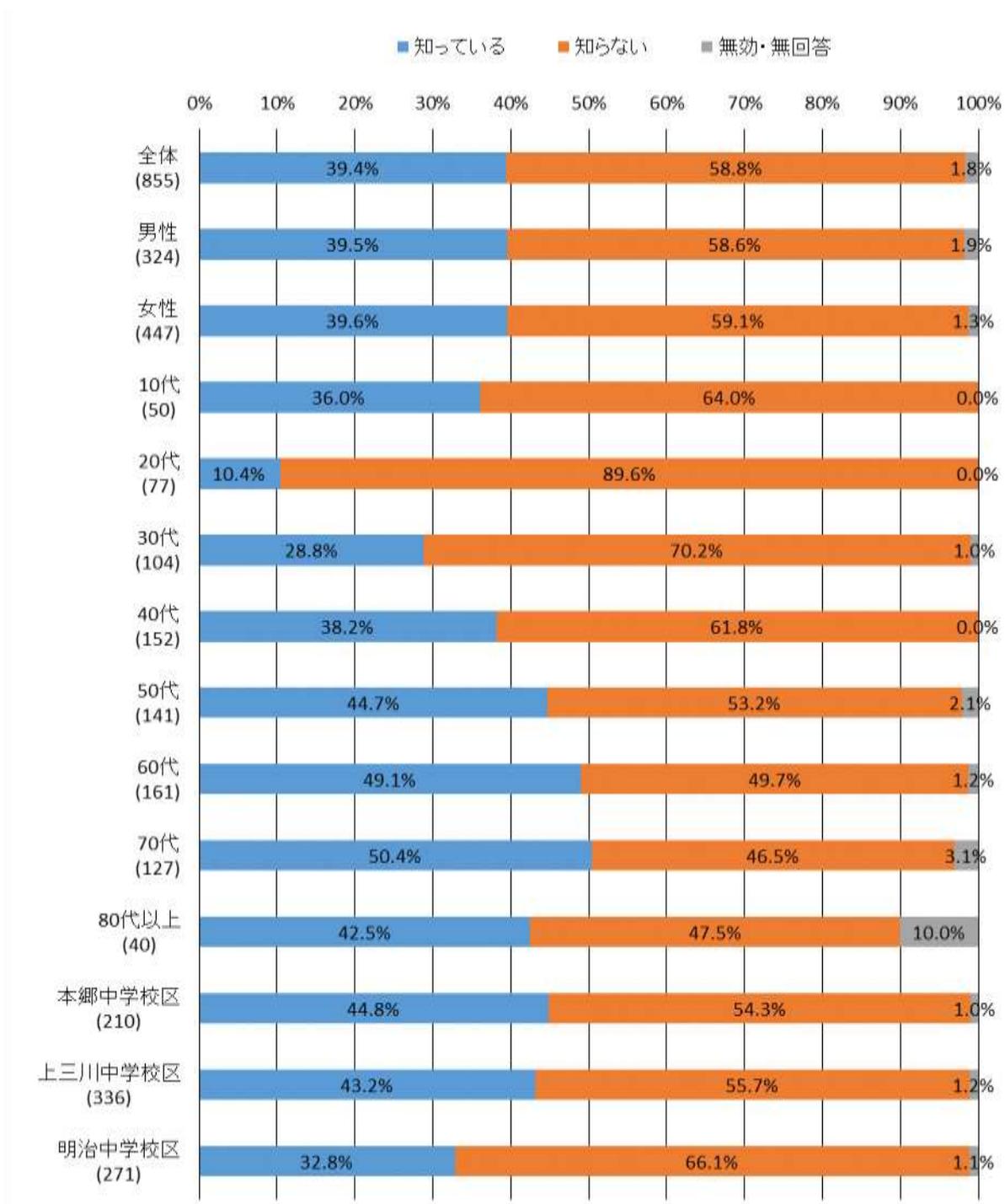
・年代が上がるにつれて“フェンシング競技開催地”の認知度が高まる傾向にある。



図表 国民体育大会でのフェンシング競技開催地（全体）



図表 国民体育大会でのフェンシング競技開催地（性別、年代別、居住地区別）



17) 地元の公園や道路、水路の維持管理への参加【問12(17):単数回答】

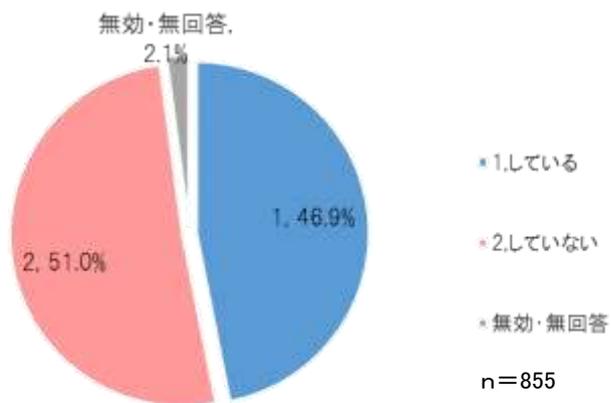
●地元の施設等の維持管理活動に参加“していない”が51.0%、“している”が46.9%

【結果概要】

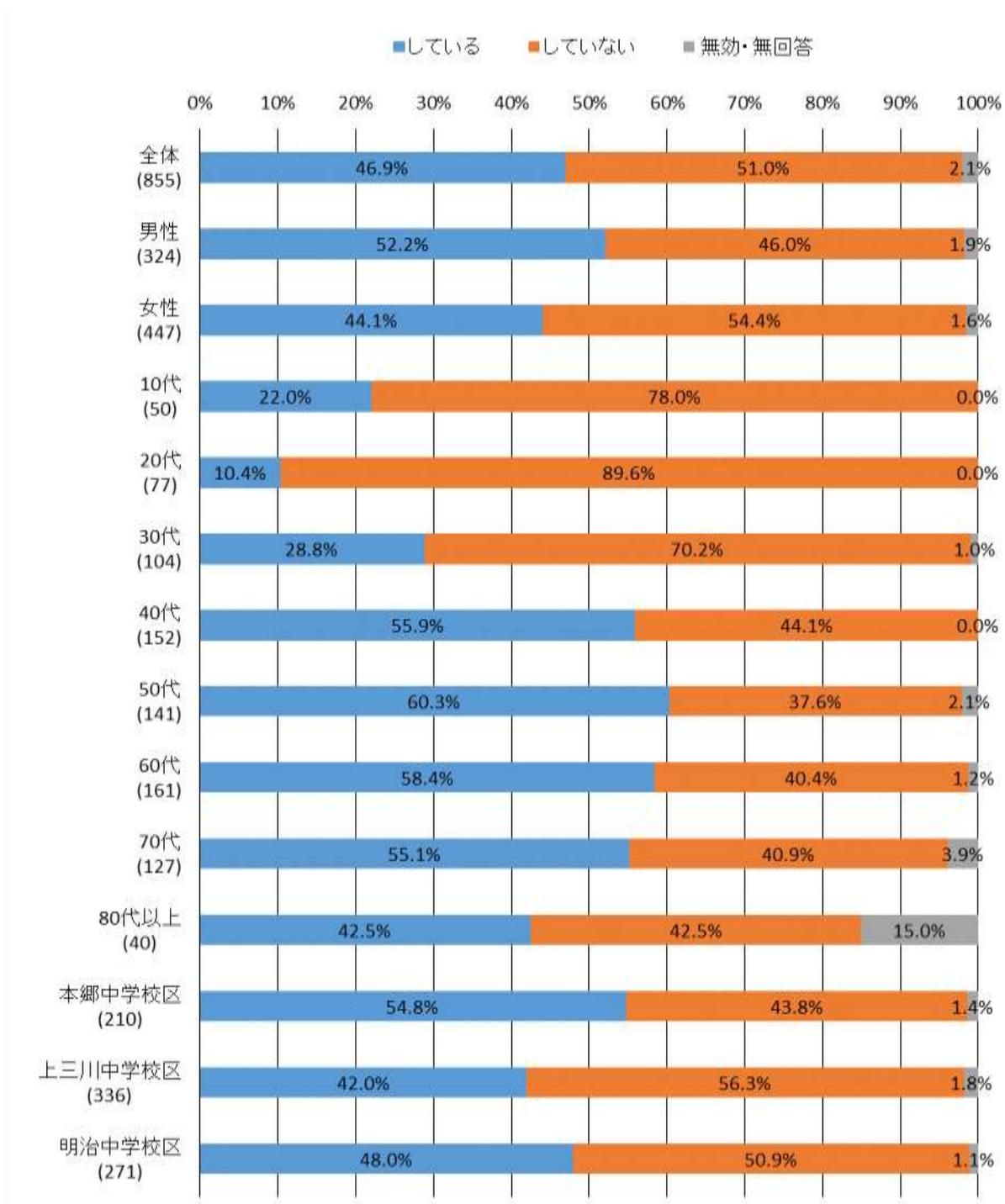
- ・男性や40代・50代・60代・70代、本郷中学校区において参加“している”割合が高い傾向にある。



図表 地元の公園や道路、水路の維持管理への参加（全体）



図表 地元の公園や道路、水路の維持管理への参加（性別、年代別、居住地区別）



## 18) コンパクトシティの必要性【問12(18):単数回答】

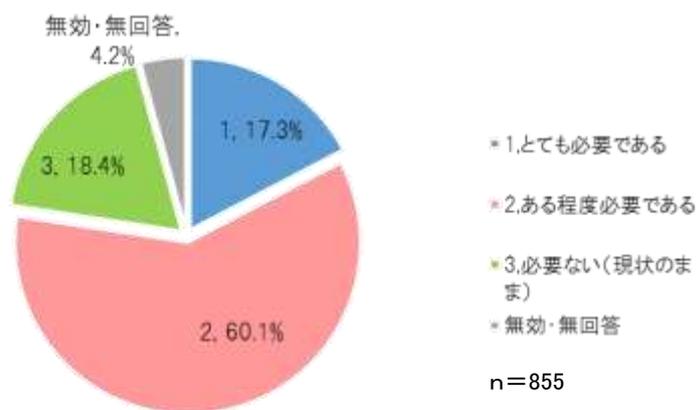
●コンパクトシティへの取組は“ある程度必要である”が60.1%で最多

### [結果概要]

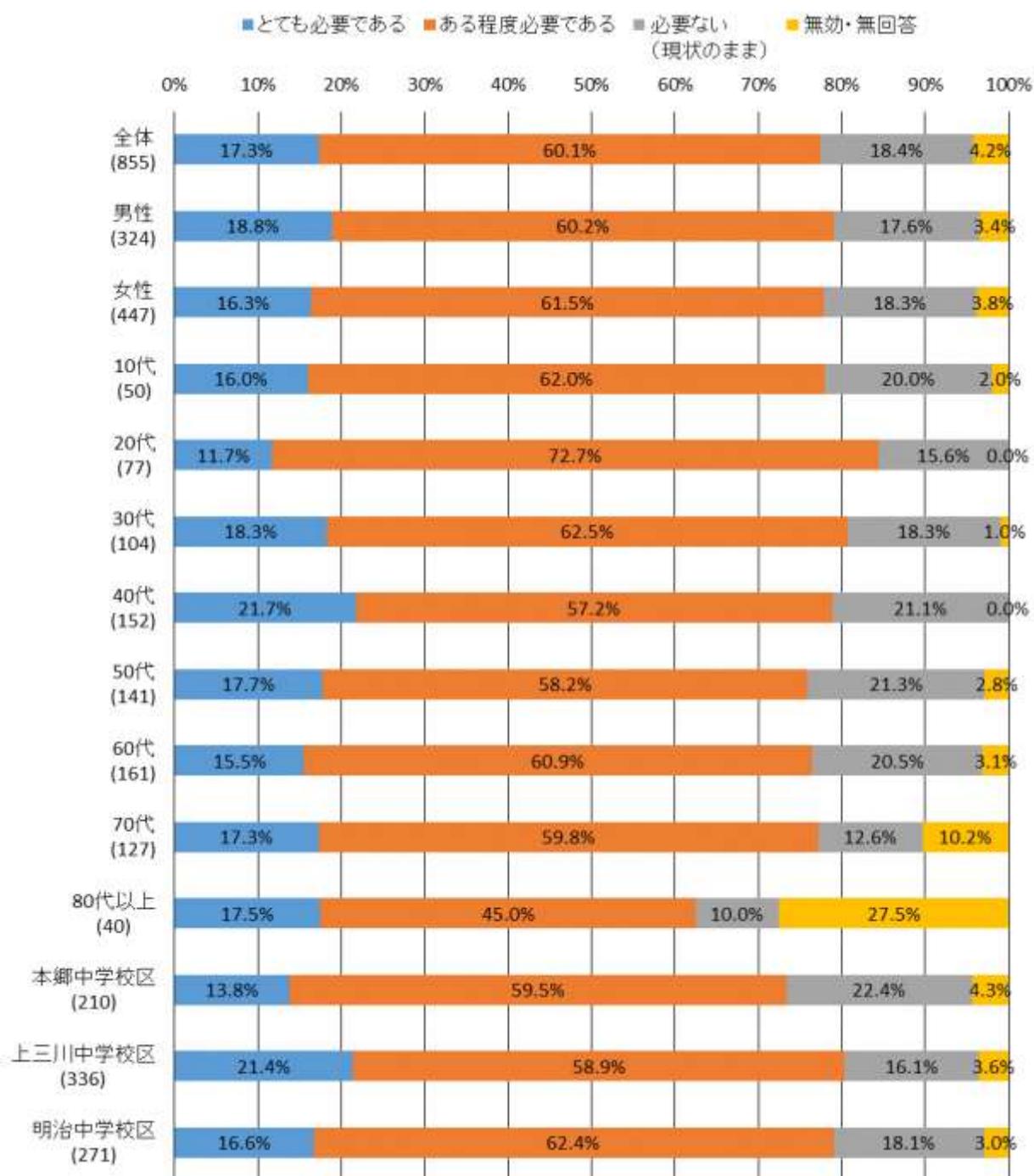
- ・“とても必要である”“ある程度必要である”の合計によると20代において“必要性”を感じる割合が高い。



図表 コンパクトシティの必要性（全体）



図表 コンパクトシティの必要性（性別、年代別、居住地区別）



19) 上三川いきいきプラザ農産物直売所【問12(19):単数回答】

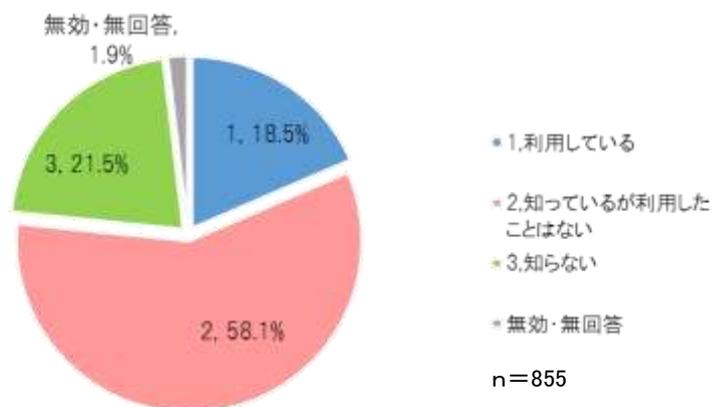
●いきいきプラザ農産物直売所を“知っているが利用したことはない”が58.1%で最多

[結果概要]

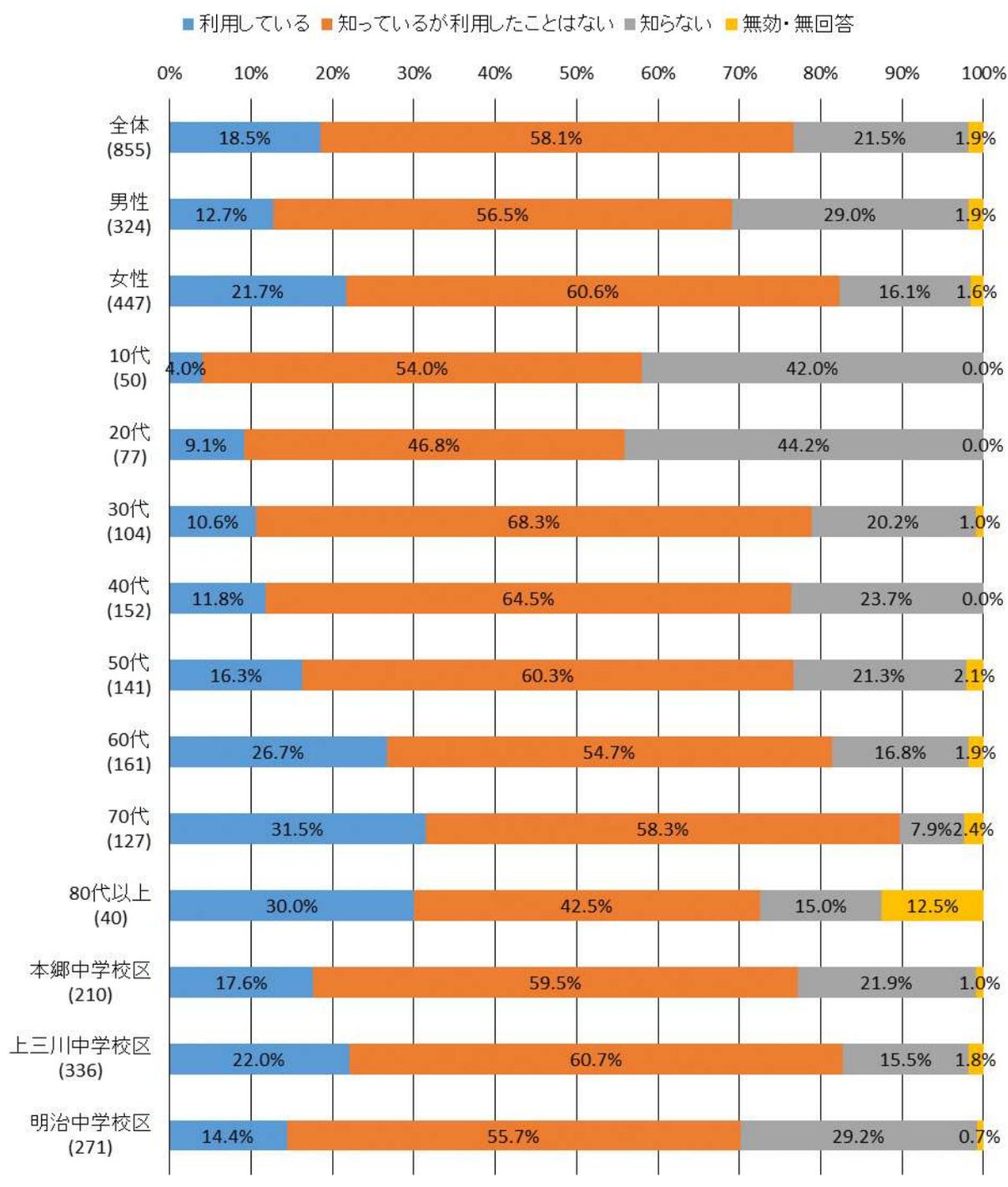
- ・年代が上がるにつれて“利用している”回答割合が高まる傾向にある。
- ・上三川中学校区において“利用している”回答が多い傾向にある。



図表 上三川いきいきプラザ農産物直売所（全体）



図表 上三川いきいきプラザ農産物直売所（性別、年代別、居住地区別）



## 20) 農産物直売所への期待【問12(20): 複数回答】

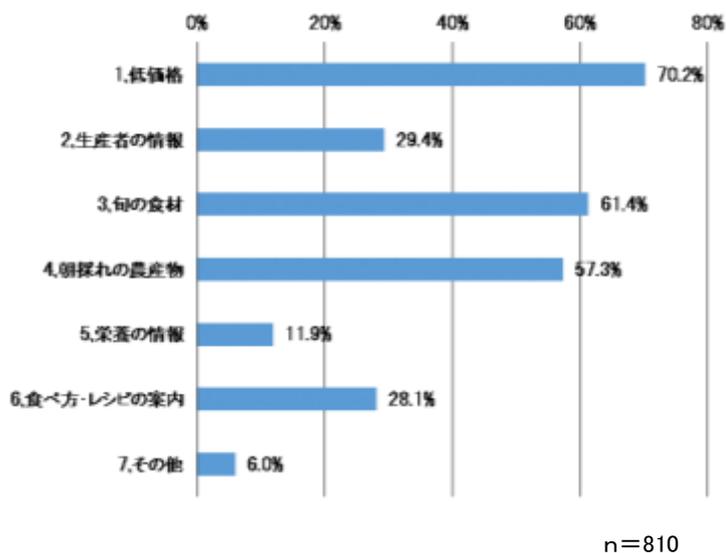
●農産物直売所への期待は“低価格”が70.2%で最多、次いで“旬の食材”が61.4%

### [結果概要]

- ・20代においては“低価格”に対する期待が高い傾向にある。
- ・30代・40代・50代においては“旬の食材”、70代・80代以上においては“朝採れの農産物”に対する期待が高い傾向にある。



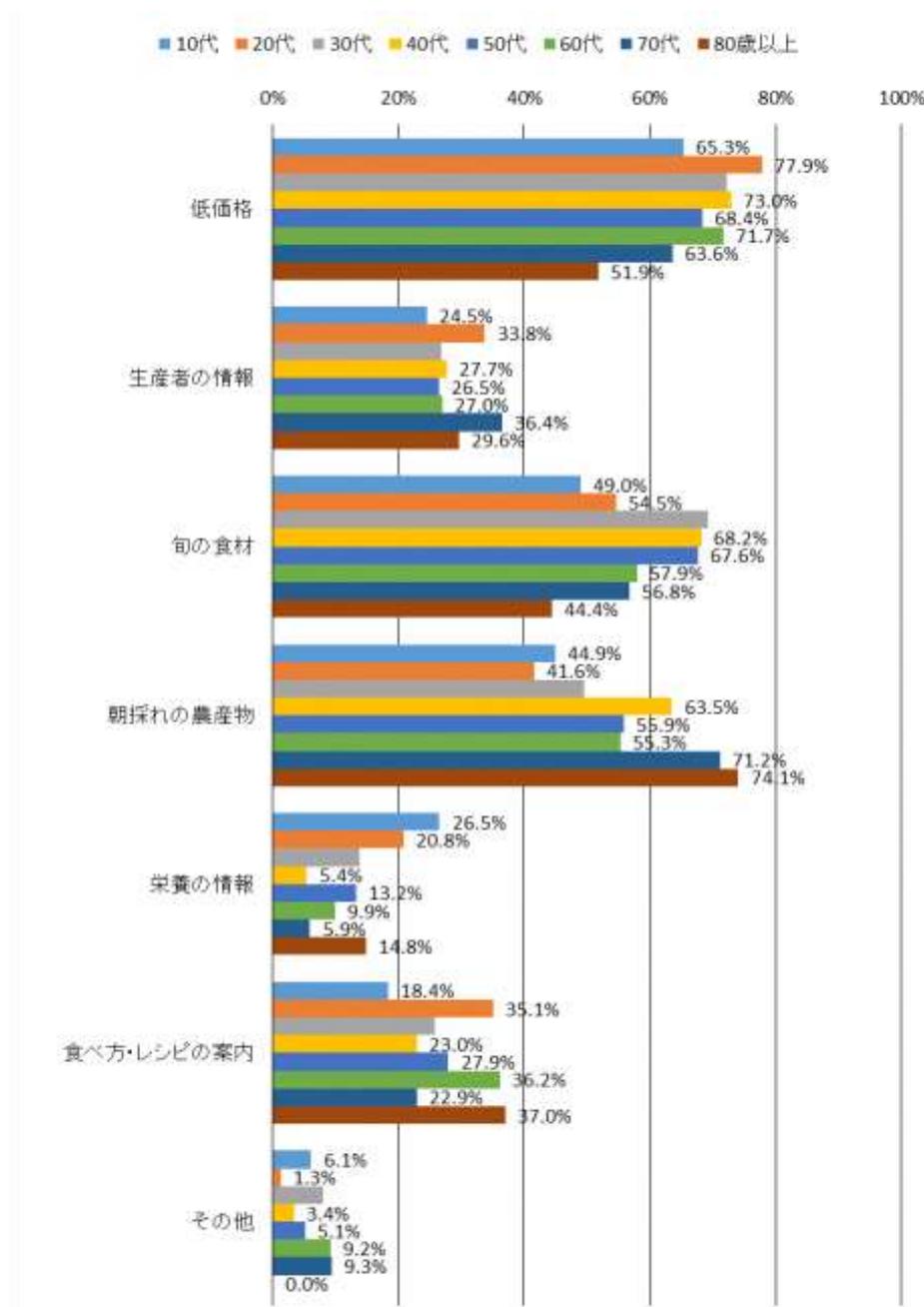
図表 農産物直売所への期待（全体）



### 一 『その他』意見の趣旨一 ※（ ）内の数値は意見数

- ・新鮮で安全・安心なもの（12）
- ・種類の豊富さ（5）
- ・有機栽培や低農薬栽培（4）
- ・有機栽培や低農薬栽培（4）
- ・営業時間の見直し、午後1時閉店は早い。（3）
- ・惣菜など野菜以外の商品（3）
- ・おいしいもの（2）
- ・生産者の意欲向上（2）
- ・食材の情報などのコミュニケーション（2）
- ・御贈答品や町のブランド品の購入（2）
- ・購入しやすい雰囲気（2）
- ・町外の人への宣伝、アピール力（2）
- ・規格外品
- ・品質の向上
- ・路上駐車禁止
- ・品物の予約
- ・愛

図表 農産物直売所への期待（年代別）



## 2 1) 田園風景や農村環境の維持【問 1 2 ( 2 1 ) : 単数回答】

● 田園風景・農村環境を維持していく必要があると“思う”が 89.1%

### [結果概要]

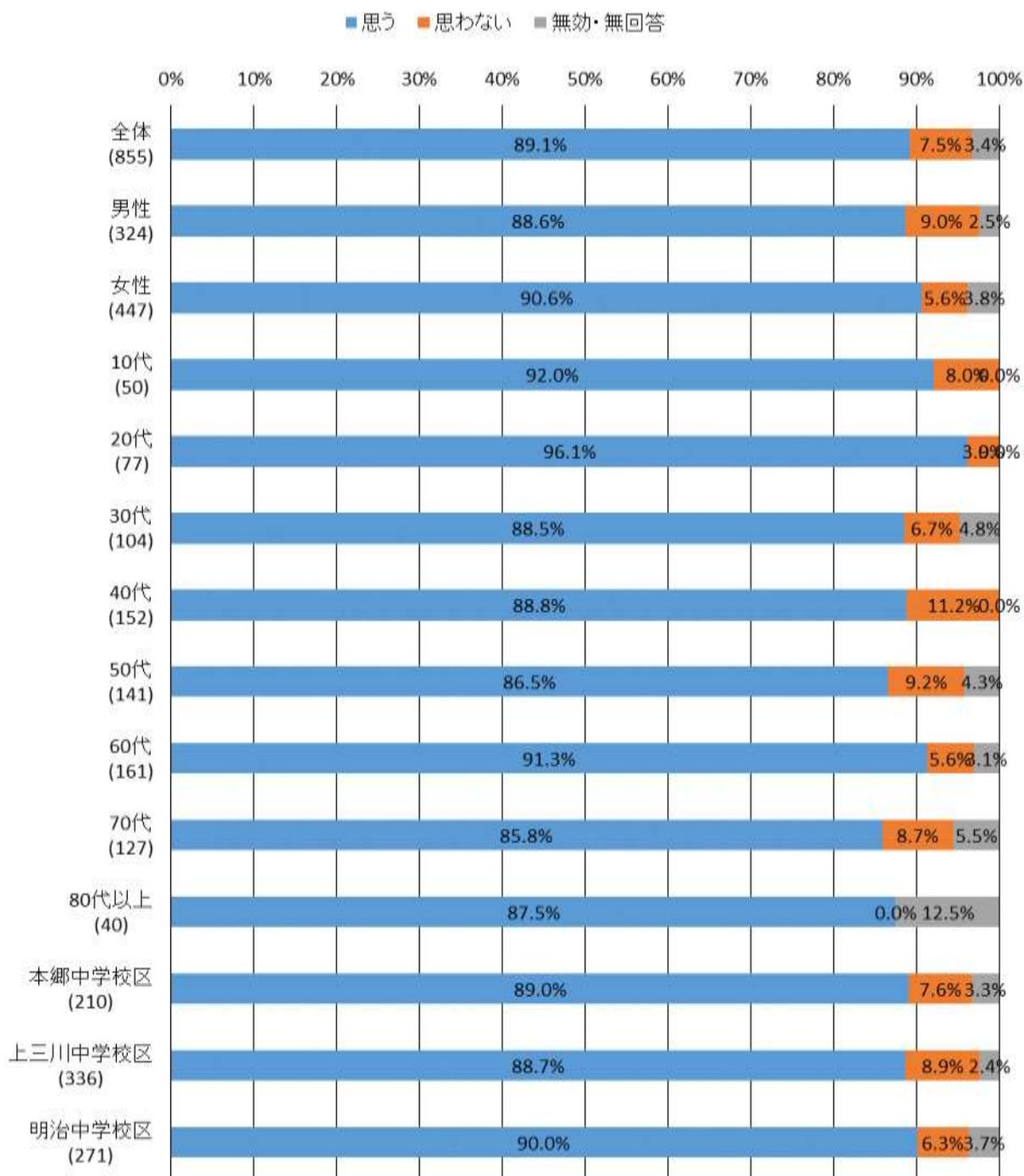
・ 環境を維持していく必要があると“思う”回答割合は 2 0 代が最多となっている。



図表 田園風景や農村環境の維持（全体）



図表 田園風景や農村環境の維持（性別、年代別、居住地区別）



## 2 2) 災害時の避難場所【問 1 2 ( 2 2 ) : 単数回答】

●災害時の避難場所を“知っている”が73.2%

### [結果概要]

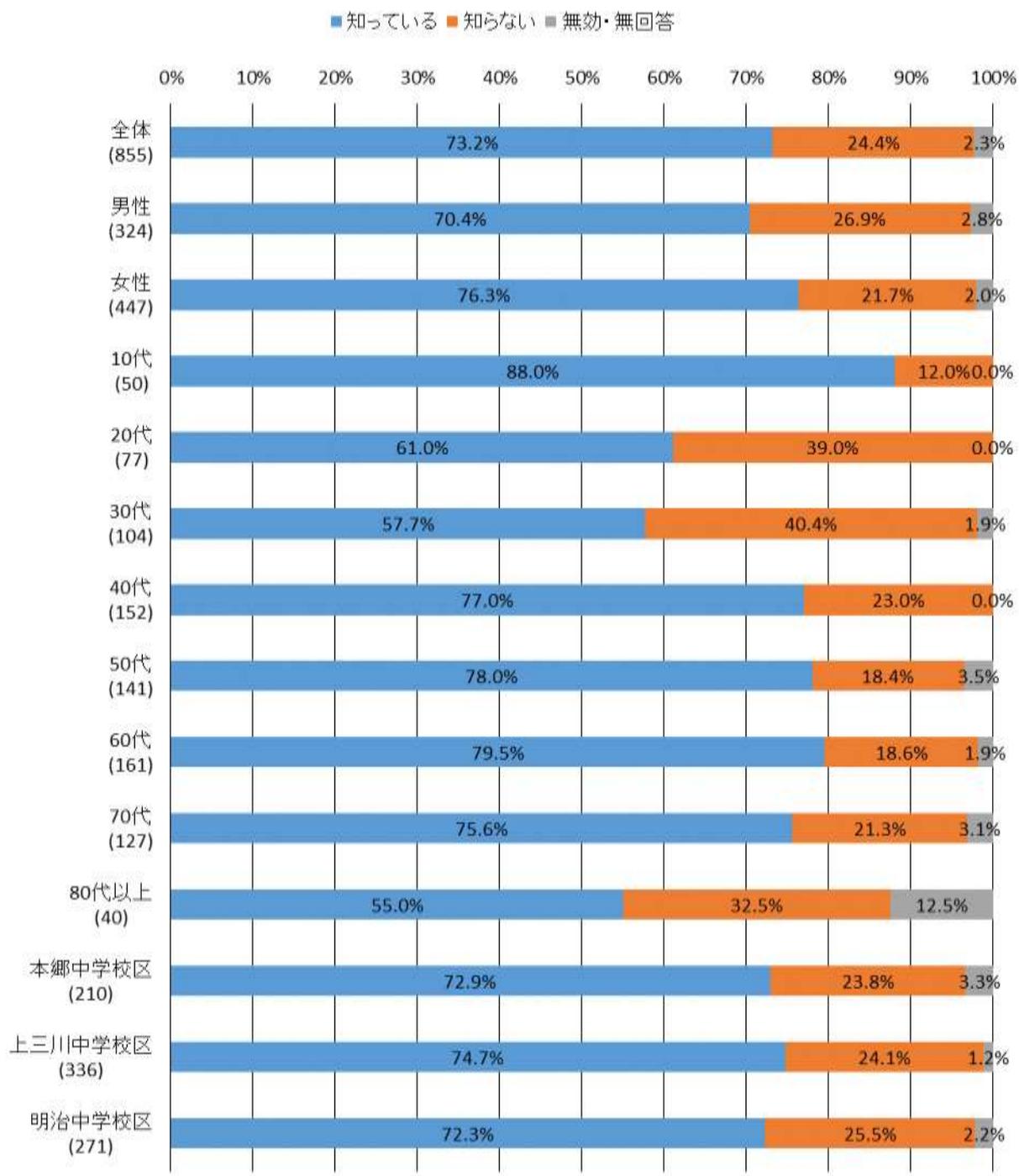
・避難場所を“知っている”回答割合は10代が最多、80代以上が最少となっている。



図表 災害時の避難場所（全体）



図表 災害時の避難場所（性別、年代別、居住地区別）



## 6 公共施設の整備・再編のあり方などについて

### 1) 公共施設のサービスや整備・再編に係る費用（コスト）のあり方【問13：単数回答】

- 「フルセット主義にこだわらない」に“意見が近い”の合計が約57%（「フルセットを維持すべき」に“意見が近い”を上回る。）

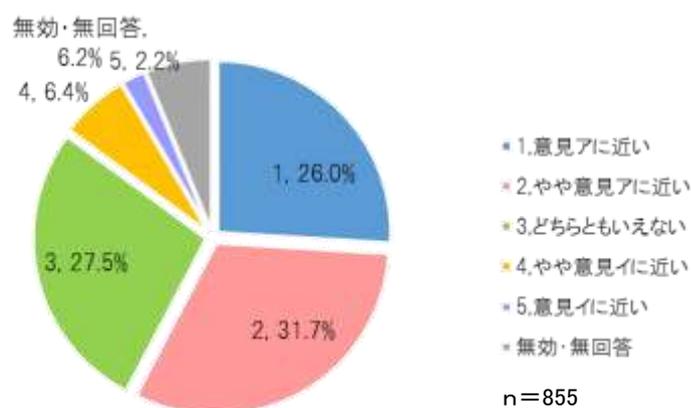
#### [結果概要]

- ・ 30代・40代において「フルセット主義にこだわらない」回答が多い傾向にある。

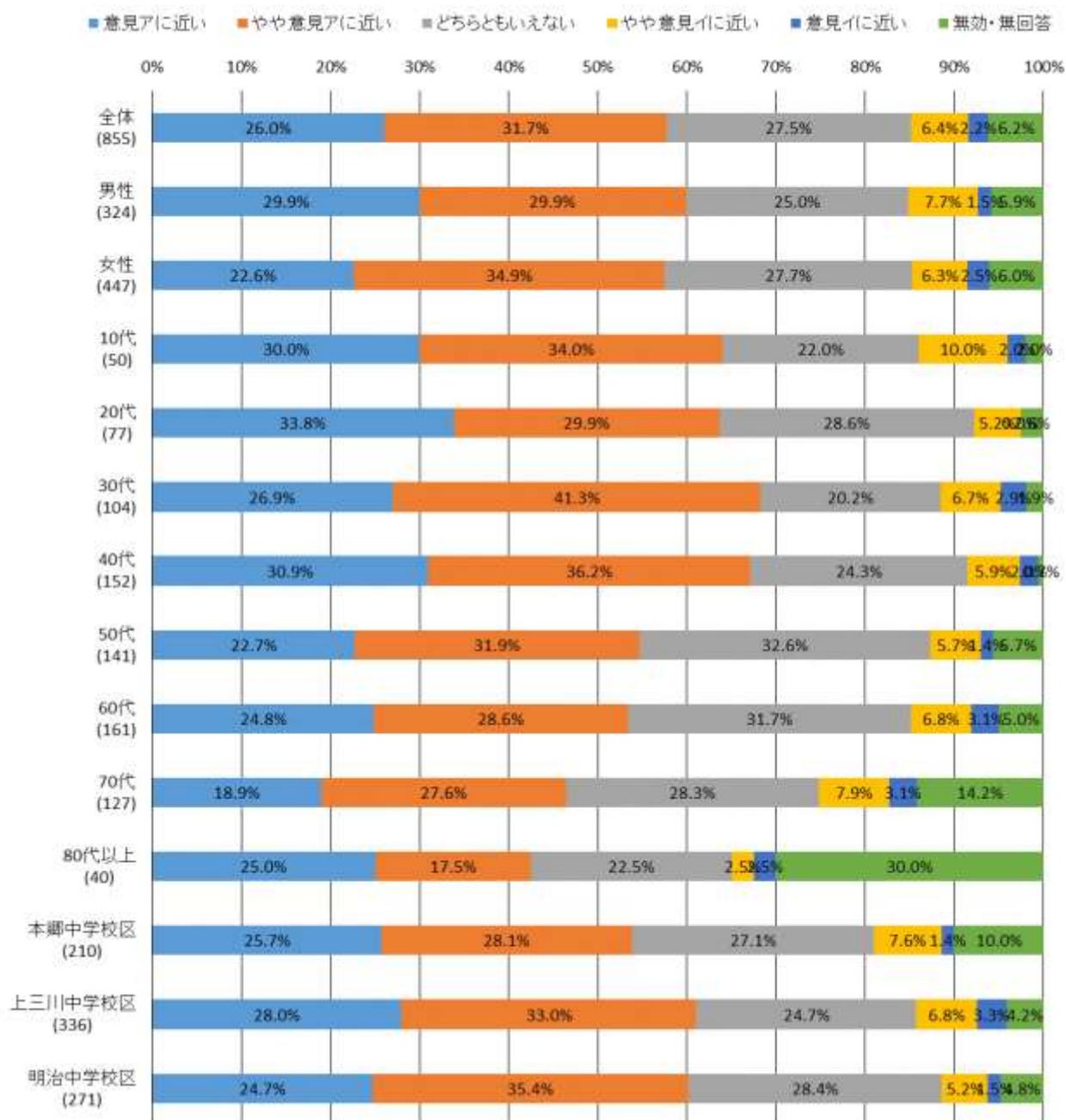


#### ー項目1：公共施設のサービスのあり方ー

図表 近い意見（全体）



図表 近い意見（性別、年代別、居住地区別）



- 「コストを将来の世代にわたって少しずつ負担」に“意見が近い”の合計が約37%（「現在の世代が責任を持って負担すべき」に“意見が近い”を上回る。）

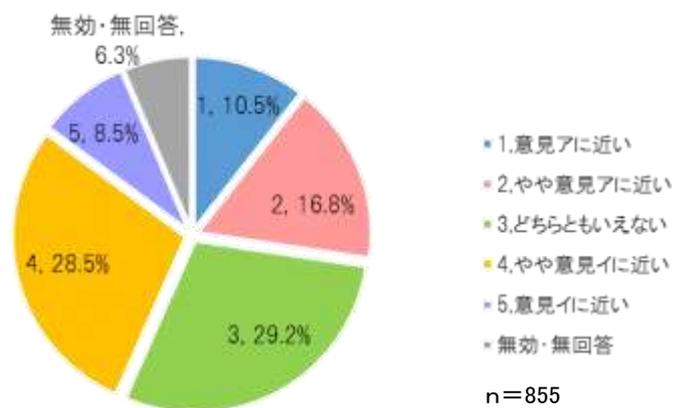
[結果概要]

- ・年代が上がるにつれて「コストを現在の世代が責任を持って負担」の割合が低下する傾向にある。

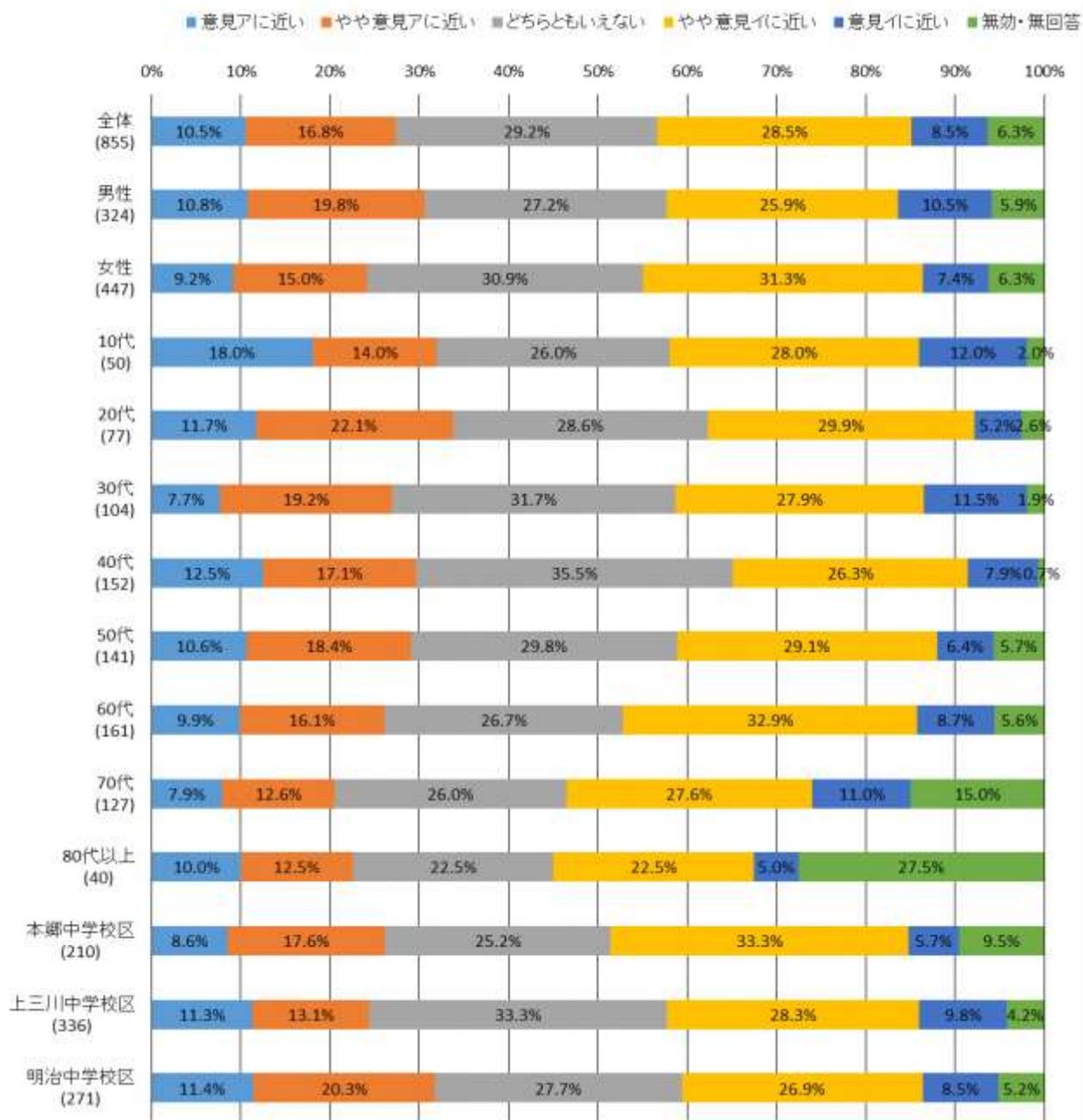


—項目2：公共施設の整備・再編に係る費用（コスト）負担—

図表 近い意見（全体）



図表 近い意見（性別、年代別、居住地区別）



## 2) 経費削減のために公共施設を減らす場合の対象となる施設【問14：複数回答】

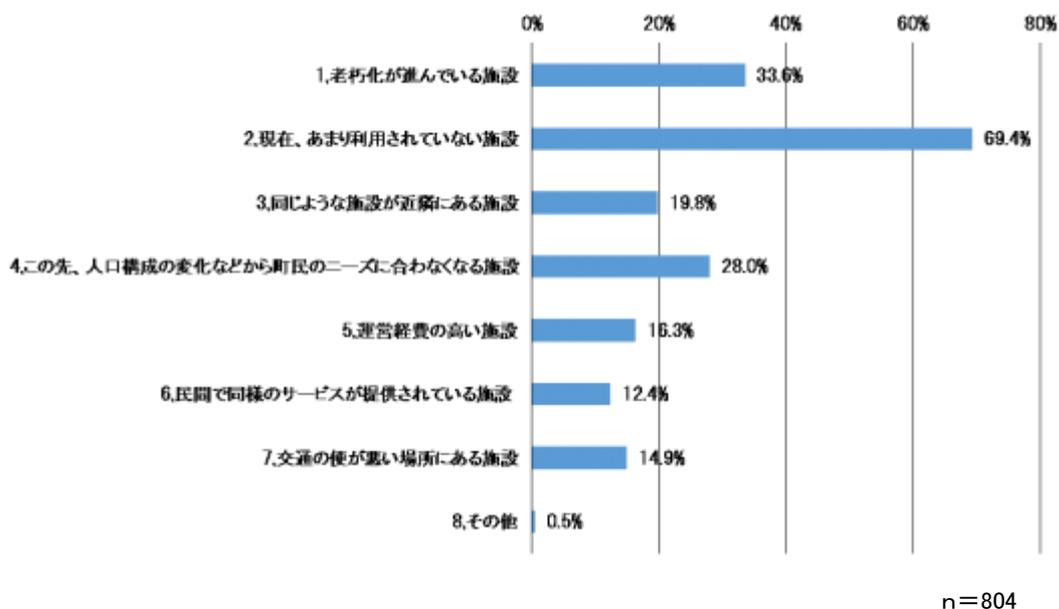
- “現在、あまり利用されていない施設” が 69.4% で最多

### [結果概要]

- ・ 20代においては“現在、あまり利用されていない施設”、10代においては“同じような施設が近隣にある施設”、60代においては“運営経費の高い施設”、80代以上は“交通の便が悪い場所にある施設”を対象にすべきとの回答が多い傾向にある。



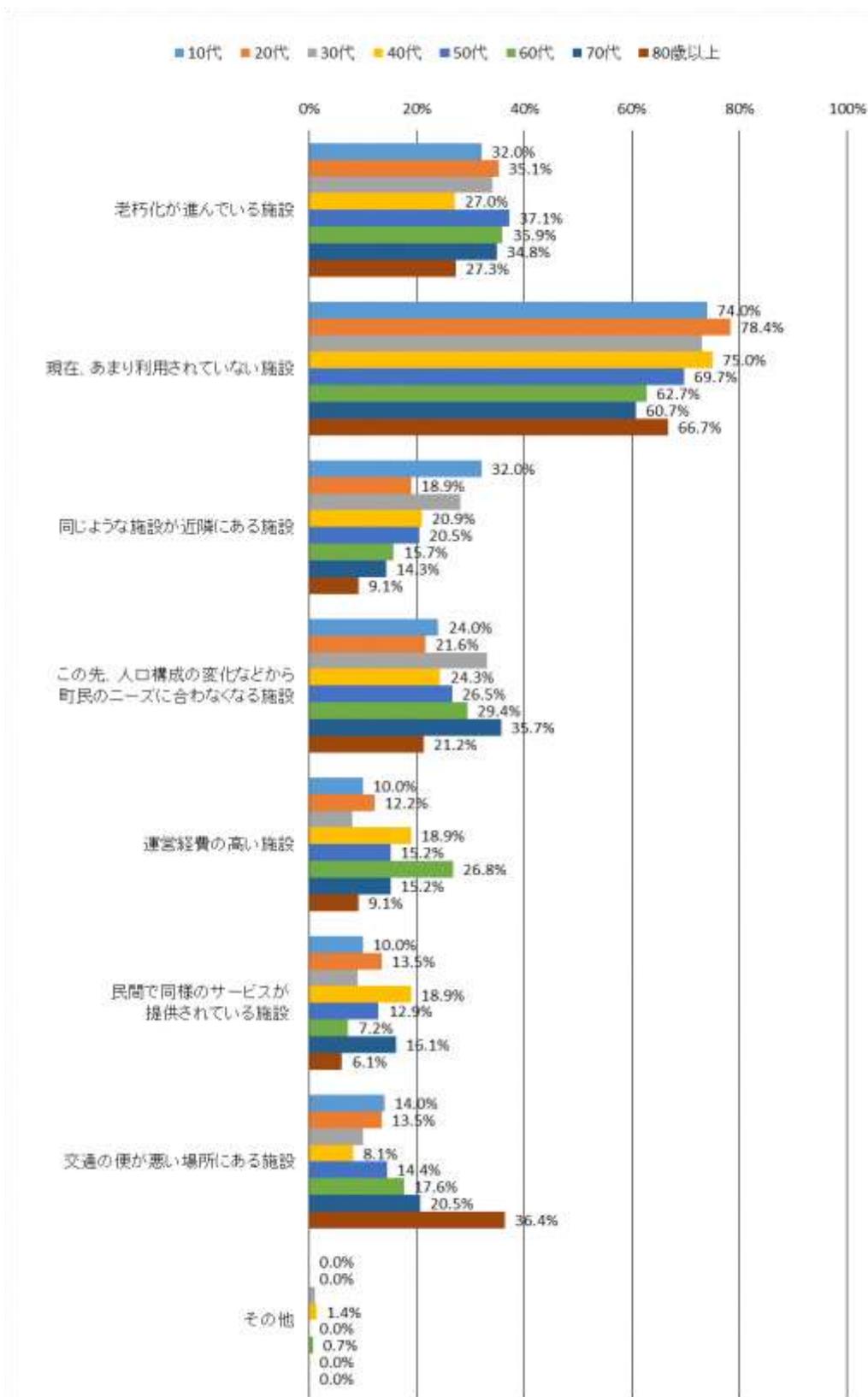
図表 公共施設を減らす場合の対象となる施設（全体）



### －『その他』意見の趣旨－

- ・ 民間に移管、移譲できるものはする。
- ・ 上三川町だけで経費をどうにかしようとするのはもう無理
- ・ どうしたら財政面が良くなるかの項目がないのが残念

図表 公共施設を減らす場合の対象となる施設（年代別）



### 3) 優先的に予算を配分し新たに整備を進めたほうがよい施設【問15：複数回答】

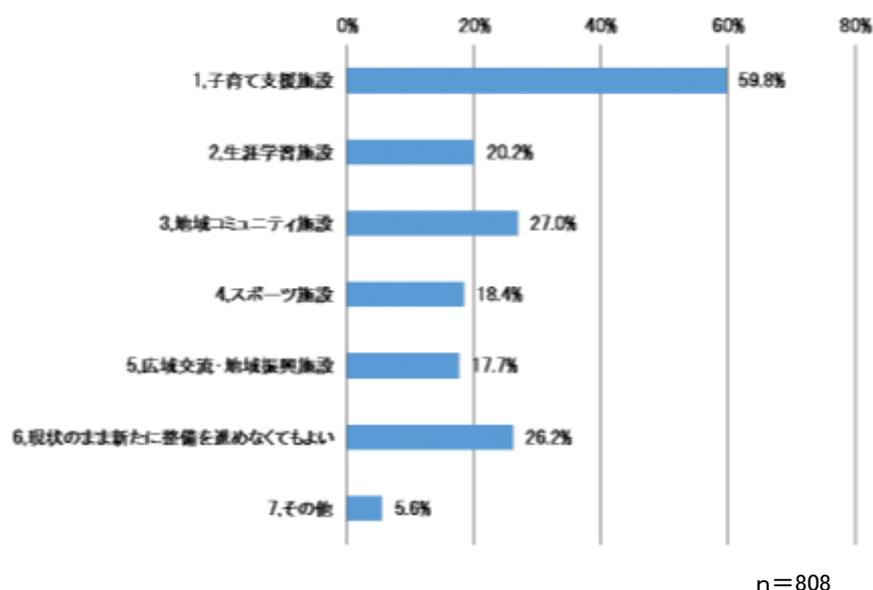
- “子育て支援施設”が59.8%で最多、“現状のまま新たに整備を薦めなくてよい”は26.2%

#### [結果概要]

- ・10代・20代・30代において“子育て支援施設”、70代において“生涯学習施設”“地域コミュニティ施設”を整備すべきとの回答が多い傾向にある。



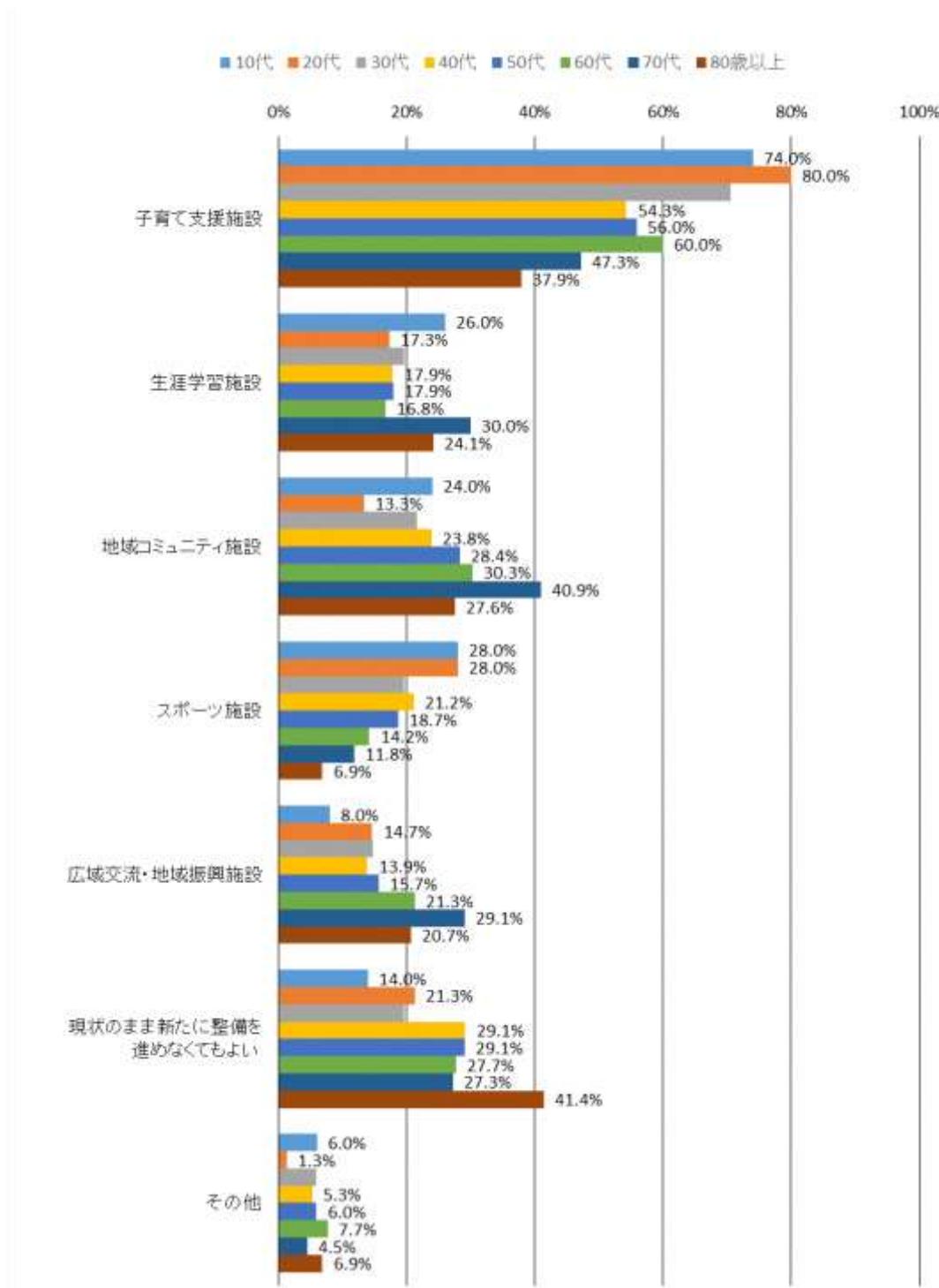
図表 整備を進めたほうがよい施設（全体）



#### －『その他』意見の趣旨－ ※（ ）内の数値は意見数

- ・老人福祉施設、高齢者・介護者支援施設（7）
- ・道路、歩道の整備（6）
- ・公共交通（4）
- ・分からない。（3）
- ・街灯（2）
- ・教育現場、教育施設（2）
- ・音楽ホール（2）
- ・文化会館（2）
- ・中央公民館
- ・いきいきプラザのような施設
- ・商業施設
- ・農地活用
- ・施設はいらない。
- ・町役場のロビーの活用
- ・健康維持を目的としたジム
- ・ウォーキングコース
- ・パークゴルフ場拡大
- ・図書館
- ・団地
- ・財政と優先順位を考慮
- ・現在の施設をリノベーションする。
- ・どうしたら財政面が良くなるかの項目がないのが残念
- ・町の人からアンケートをとり多ければ整備

図表 整備を進めたほうがよい施設（年代別）



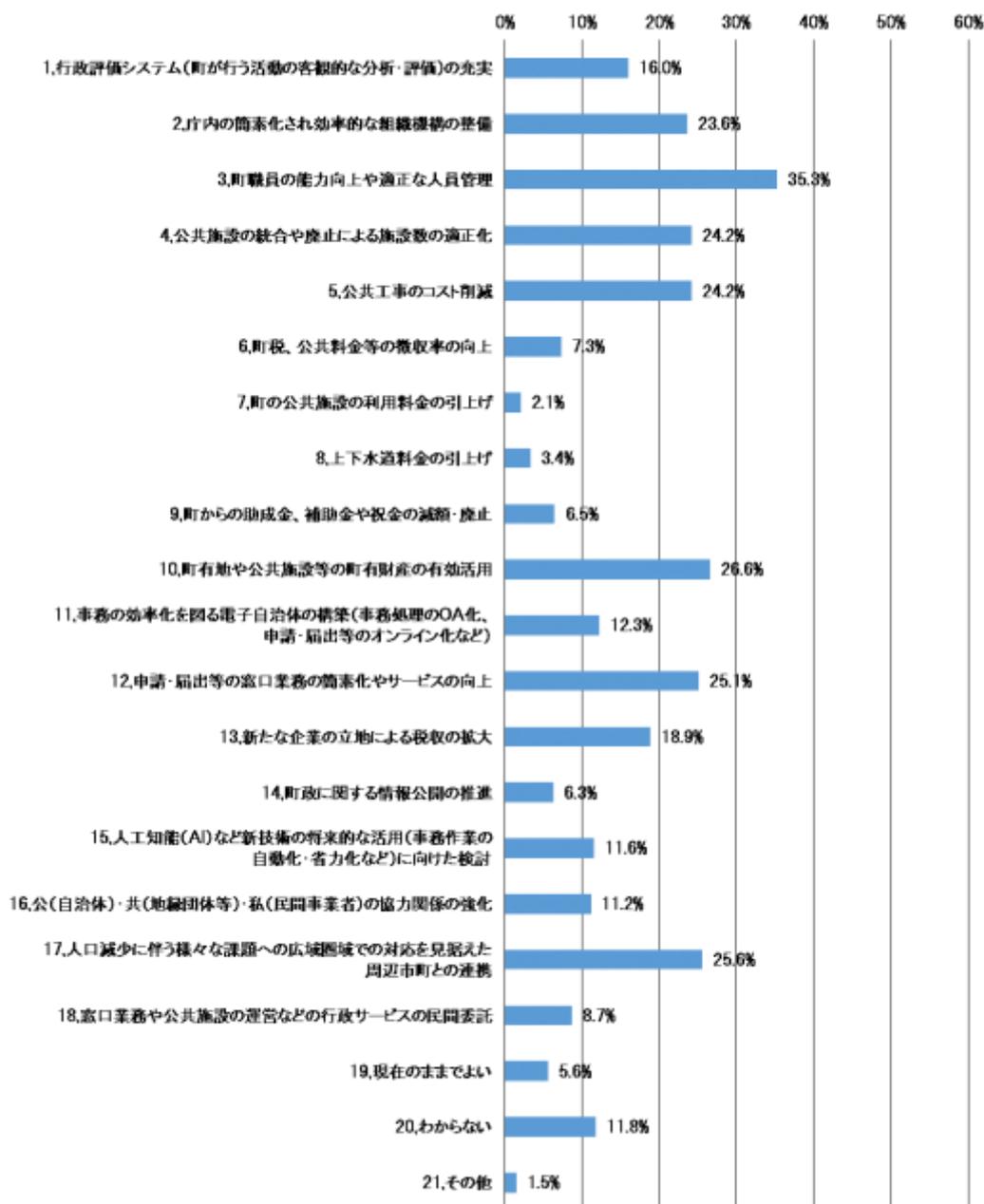
## 7 行財政改革について

### 1) 今後の行財政改革で特に重要な項目【問16：複数回答】

- “町職員の能力向上や適正な人員管理” が 35.3% で最多、次いで “町有地や公共施設等の町有財産の有効活用” が 26.6%

#### [結果概要]

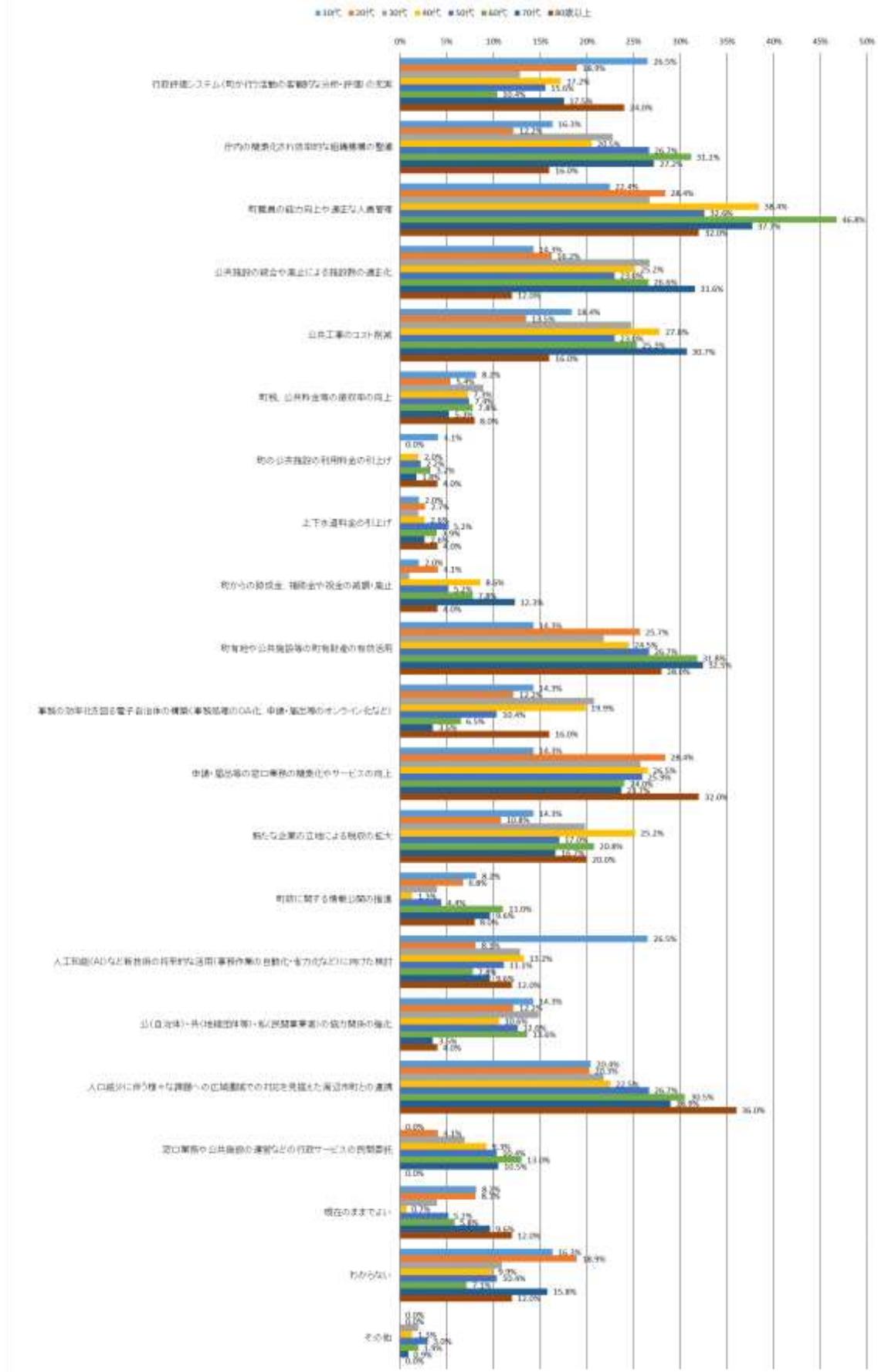
- ・ “町職員の能力向上や適正な人員管理” の回答割合は 60代において高い傾向にあり、“町有地や公共施設等の町有財産の有効活用” の回答割合は 60代・70代において高い傾向にある。



－『その他』意見の趣旨－ ※（ ）内の数値は意見数

- ・議員数削減などの改革（3）
- ・他の市町との合併（2）
- ・結局町民からお金を取る事しか考えていない。
- ・情報公開事業に町民の参加
- ・自動車がなくとも不便でない生活
- ・現状維持では財政は良くなる。
- ・受講の申し込みをスマホから出来るようにしてほしい。

図表 今後の行財政改革で特に重要な項目（年代別）



## 8 自由意見

図表 30年後の上三川町に住んでいると想像した時に現在の町民の方達にお願いすること



※自由意見内容を項目ごとに分類し件数を把握